

**2022年度
日本語・
留学生共通日本語「日本語（上級）」
シラバス**

明治大学

【日本語】	
I 日本語科目の履修, 成績評価について	3
II 2022年度日本語授業一覧	4
2022年度日本語科目 (必修) 授業時間割	6
III 日本語各学部科目名	7
IV 科目ナンバリングについて	8
V 授業内容	
日本語 (和泉キャンパス)	9
日本語 (生田キャンパス)	106
【留学生共通日本語 : 「日本語 (上級)」】	131
I 履修について	133
II 時間割, 科目名称対照表および単位取扱い表	136
III 授業内容	142

I 日本語の履修、成績評価について

1. 「日本語」科目について

- 1 日本語科目は日本人の学生は履修できません。
- 2 日本語科目を履修した場合、原則「初習外国語」（必修）として取り扱います。
- 3 日本語科目は、学部混合の授業となります。
- 4 各学部で科目名等が異なるため、p.*の「日本語各学部科目名」を参照してください。
- 5 履修条件等について

各学部窓口で確認のうえ、履修登録をしてください。

- (1) **法学部・商学部・政治経済学部・文学部・経営学部・
情報コミュニケーション学部**

※和泉キャンパス開講科目のみ履修可能です。

授業はクラス指定となっています。各学部のガイダンスまたは窓口で、時間割や履修番号を確認したうえで、履修登録をしてください。（履修登録方法も学部ごとに異なりますので、各学部窓口で確認のうえ、登録してください。）

- (2) **理工学部・農学部 ※生田キャンパス開講科目のみ履修可能です。**

原則、クラス指定はありませんが、留学生入学者数が多い年度は、クラス指定をする場合がありますので注意してください。

履修登録に必要な資料は各学部のガイダンスまたは窓口で配付します。

※国際日本学部・総合数理学部は「日本語」科目を履修できません。

2. 成績評価について

成績評価は、各自の履修科目の「成績評価の方法」欄を確認してください。

Ⅱ 2022年度日本語授業一覧

【和泉キャンパス】				
担当科目	曜日	時限	担当者氏名	ページ
日本語（1年）読解A	月	4	大木理恵	10
日本語（1年）読解B	月	4	大木理恵	11
日本語（1年）読解A	火	1	半田淳子	12
日本語（1年）読解B	火	1	半田淳子	13
日本語（1年）読解A	火	2	田代ひとみ	14
日本語（1年）読解B	火	2	田代ひとみ	15
日本語（1年）読解A	火	3	田代ひとみ	16
日本語（1年）読解B	火	3	田代ひとみ	17
日本語（1年）読解A	水	2	坂東実子	18
日本語（1年）読解B	水	2	坂東実子	19
日本語（1年）読解A	木	2	中沢佐企子	20
日本語（1年）読解B	木	2	中沢佐企子	21
日本語（1年）読解A	木	3	半田淳子	22
日本語（1年）読解B	木	3	半田淳子	23
日本語（1年）読解A	金	3	井本美穂	24
日本語（1年）読解B	金	3	井本美穂	25
日本語（1年）読解A	金	4	小林由紀	26
日本語（1年）読解B	金	4	小林由紀	27
日本語（1年）作文A	火	1	田代ひとみ	28
日本語（1年）作文B	火	1	田代ひとみ	29
日本語（1年）作文A	火	2	中沢佐企子	30
日本語（1年）作文B	火	2	中沢佐企子	31
日本語（1年）作文A	水	1	足立章子	32
日本語（1年）作文B	水	1	足立章子	33
日本語（1年）作文A	水	3	小林真紀子	34
日本語（1年）作文B	水	3	小林真紀子	35
日本語（1年）作文A	木	1	戸村佳代	36
日本語（1年）作文B	木	1	戸村佳代	37
日本語（1年）作文A	木	3	酒井知子	38
日本語（1年）作文B	木	3	酒井知子	39
日本語（1年）作文A	木	2	関口美緒	40
日本語（1年）作文B	木	2	関口美緒	41
日本語（1年）作文A	金	1	糸川優	42
日本語（1年）作文B	金	1	糸川優	43
日本語（1年）作文A	金	5	小林由紀	44
日本語（1年）作文B	金	5	小林由紀	45
日本語（2年）速読A	月	3	田代ひとみ	46
日本語（2年）速読B	月	3	田代ひとみ	47
日本語（2年）精読A	火	1	中沢佐企子	48
日本語（2年）精読B	火	1	中沢佐企子	49
日本語（2年）精読A	火	2	半田淳子	50
日本語（2年）精読B	火	2	半田淳子	51
日本語（2年）精読A	火	3	中沢佐企子	52
日本語（2年）精読B	火	3	中沢佐企子	53
日本語（2年）精読A	水	1	坂東実子	54
日本語（2年）精読B	水	1	坂東実子	55
日本語（2年）精読A	水	2	足立章子	56
日本語（2年）精読B	水	2	足立章子	57
日本語（2年）精読A	水	3	酒井知子	58
日本語（2年）精読B	水	3	酒井知子	59
日本語（2年）精読A	木	2	酒井知子	60
日本語（2年）精読B	木	2	酒井知子	61
日本語（2年）精読A	木	4	半田淳子	62
日本語（2年）精読B	木	4	半田淳子	63
日本語（2年）精読A	火	4	大木理恵	64
日本語（2年）精読B	火	4	大木理恵	65
日本語（2年）速読A	月	1	田代ひとみ	66
日本語（2年）速読B	月	1	田代ひとみ	67
日本語（2年）速読A	月	2	田代ひとみ	68

【和泉キャンパス】				
担当科目	曜日	時限	担当者氏名	ページ
日本語（2年）速読B	月	2	田代ひとみ	69
日本語（2年）速読A	火	4	戸村佳代	70
日本語（2年）速読B	火	4	戸村佳代	71
日本語（2年）速読A	水	3	足立章子	72
日本語（2年）速読B	水	3	足立章子	73
日本語（2年）速読A	水	4	小林真紀子	74
日本語（2年）速読B	水	4	小林真紀子	75
日本語（2年）速読A	水	2	酒井知子	76
日本語（2年）速読B	水	2	酒井知子	77
日本語（2年）速読A	木	1	中沢佐企子	78
日本語（2年）速読B	木	1	中沢佐企子	79
日本語（2年）速読A	木	3	中沢佐企子	80
日本語（2年）速読B	木	3	中沢佐企子	81
日本語（2年）速読A	木	1	関口美緒	82
日本語（2年）速読B	木	1	関口美緒	83
日本語（2年）速読A	金	2	糸川優	84
日本語（2年）速読B	金	2	糸川優	85
日本語（2年）精読A	月	2	乾浩	86
日本語（2年）精読B	月	2	乾浩	87
日本語（1年）読解A	月	3	乾浩	88
日本語（1年）読解B	月	3	乾浩	89
日本語（2年）速読A	火	1	江後千香子	90
日本語（2年）速読B	火	1	江後千香子	91
日本語（2年）速読A	火	2	江後千香子	92
日本語（2年）速読B	火	2	江後千香子	93
日本語（1年）作文A	金	4	杉山ますよ	94
日本語（1年）作文B	金	4	杉山ますよ	95
日本語（1年）作文A	金	3	黒崎典子	96
日本語（1年）作文B	金	3	黒崎典子	97
日本語（2年）速読A	木	2	黒崎典子	98
日本語（2年）速読B	木	2	黒崎典子	99
日本語（1年）読解A	月	2	糸川優	100
日本語（1年）読解B	月	2	糸川優	101
日本語（1年）作文A	火	3	大木理恵	102
日本語（1年）作文B	火	3	大木理恵	103
日本語（2年）精読A	金	3	小林由紀	104
日本語（2年）精読B	金	3	小林由紀	105

【生田キャンパス】				
担当科目	曜日	時限	担当者氏名	ページ
日本語ⅠB（作文）	金	1	高橋純子	107
日本語ⅠB（作文）	金	1	高橋純子	108
日本語ⅠA（読解）	月	3	高橋純子	109
日本語ⅠA（読解）	月	3	高橋純子	110
日本語ⅠA（読解）	火	1	小林由紀	111
日本語ⅠA（読解）	火	1	小林由紀	112
日本語ⅠA（読解）	月	2	高橋純子	113
日本語ⅠA（読解）	月	2	高橋純子	114
日本語ⅠB（作文）	月	1	高橋純子	115
日本語ⅠB（作文）	月	1	高橋純子	116
日本語ⅠB（作文）	木	1	糸川優	117
日本語ⅠB（作文）	木	1	糸川優	118

【生田キャンパス】				
担当科目	曜日	時限	担当者氏名	ページ
日本語ⅡA（精読）	火	2	小林由紀	119
日本語ⅡA（精読）	火	2	小林由紀	120
日本語ⅡA（精読）	木	3	糸川優	121
日本語ⅡA（精読）	木	3	糸川優	122
日本語ⅡA（精読）	金	2	高橋純子	123
日本語ⅡA（精読）	金	2	高橋純子	124
日本語ⅡB（速読）	木	2	糸川優	125
日本語ⅡB（速読）	木	2	糸川優	126
日本語ⅡB（速読）	火	3	乾浩	127
日本語ⅡB（速読）	火	3	乾浩	128
日本語ⅡB（速読）	火	4	乾浩	129
日本語ⅡB（速読）	火	4	乾浩	130

2022年度日本語科目（必修）授業時間割

	1限 9:00～10:40				2限 10:50～12:30				3限 13:30～15:10				4限 15:20～17:00				5限 17:10～18:50			
	キャンパス	科目	教室	担当者	キャンパス	科目	教室	担当者	キャンパス	科目	教室	担当者	キャンパス	科目	教室	担当者	キャンパス	科目	教室	担当者
月	和泉	日本語2年速読	M608	田代ひとみ	和泉	日本語2年速読	M608	田代ひとみ	和泉	日本語2年精読	M608	田代ひとみ								
	生田	日本語ⅠB(作文)	125	高橋純子	和泉	日本語2年精読	M708	乾浩	和泉	日本語1年読解	M708	乾浩	和泉	日本語1年読解	M401	大木理恵				
					和泉	日本語1年読解	M713	糸川優												
					生田	日本語ⅠA(読解)	125	高橋純子	生田	日本語ⅠA(読解)	125	高橋純子								
火	和泉	日本語1年作文	M401	田代ひとみ	和泉	日本語1年読解	M401	田代ひとみ	和泉	日本語1年読解	M401	田代ひとみ								
	和泉	日本語1年読解	M405	半田淳子	和泉	日本語2年精読	M405	半田淳子					和泉	日本語2年速読	M402	戸村佳代				
	和泉	日本語2年精読	M618	中沢佐企子	和泉	日本語1年作文	M618	中沢佐企子	和泉	日本語2年精読	M618	中沢佐企子								
	和泉	日本語2年速読	M703	江後千香子	和泉	日本語2年速読	M703	江後千香子	和泉	日本語1年作文	M404	大木理恵	和泉	日本語2年精読	M404	大木理恵				
	生田	日本語ⅠA(読解)	129A	小林由紀	生田	日本語ⅡA(精読)	129A	小林由紀	生田	日本語ⅡB(速読)	0303	乾浩	生田	日本語ⅡB(速読)	0303	乾浩				
水	和泉	日本語1年作文	M720	足立章子	和泉	日本語2年精読	M720	足立章子	和泉	日本語2年速読	M508	足立章子								
	和泉	日本語2年精読	M505	坂東実子	和泉	日本語1年読解	M505	坂東実子												
					和泉	日本語2年速読	M601	酒井知子	和泉	日本語2年精読	M601	酒井知子								
									和泉	日本語1年作文	M506	小林真紀子	和泉	日本語2年速読	M506	小林真紀子				
木	和泉	日本語1年作文	M409	戸村佳代	和泉	日本語2年速読	M609	黒崎典子	和泉	日本語1年読解	M505	半田淳子	和泉	日本語2年精読	M505	半田淳子				
	和泉	日本語2年速読	M516	中沢佐企子	和泉	日本語1年読解	M516	中沢佐企子	和泉	日本語2年速読	M508	中沢佐企子								
					和泉	日本語2年精読	M602	酒井知子	和泉	日本語1年作文	M602	酒井知子								
	和泉	日本語2年速読	M702	関口美緒	和泉	日本語1年作文	M702	関口美緒												
	生田	日本語ⅠB(作文)	129B	糸川優	生田	日本語ⅡB(速読)	129B	糸川優	生田	日本語ⅡA(精読)	129B	糸川優								
金	和泉	日本語1年作文	M702	糸川優	和泉	日本語2年速読	M702	糸川優	和泉	日本語1年読解	M612	井本美穂								
									和泉	日本語2年精読	M702	小林由紀	和泉	日本語1年読解	M702	小林由紀	和泉	日本語1年作文	M702	小林由紀
									和泉	日本語1年作文	M506	黒崎典子	和泉	日本語1年作文	M403	杉山ますよ				
	生田	日本語ⅠB(作文)	125	高橋純子	生田	日本語ⅡA(精読)	125	高橋純子												

Ⅲ 日本語各学部科目名

キャンパス	科目名	開講期	法学部	商学部	政治経済学部	文学部	経営学部	情報コミュニケーション学部	理工学部	農学部
和泉	日本語（1年）読解A	春学期	日本語（1年）A I	日本語（1年）I	日本語 I	日本語 I A（読解）	日本語（読解） I	日本語 A I		
	日本語（1年）読解B	秋学期	日本語（1年）A II	日本語（1年）II	日本語 II	日本語 I B（読解）	日本語（読解） II	日本語 A II		
	日本語（1年）作文A	春学期	日本語（1年）B I	日本語（1年）III	日本語 I	日本語 II A（作文）	日本語（作文） I	日本語 B I		
	日本語（1年）作文B	秋学期	日本語（1年）B II	日本語（1年）IV	日本語 II	日本語 II B（作文）	日本語（作文） II	日本語 B II		
	日本語（2年）速読A	春学期	日本語（2年）C I	日本語（2年）I	日本語 III	日本語 III A（速読）	日本語（速読） A	日本語 A III		
	日本語（2年）速読B	秋学期	日本語（2年）C II	日本語（2年）II		日本語 III B（速読）	日本語（速読） B	日本語 A IV		
	日本語（2年）精読A	春学期	日本語（2年）D I	日本語（2年）III		日本語 IV A（精読）	日本語（精読） A	日本語 B III		
	日本語（2年）精読B	秋学期	日本語（2年）D II	日本語（2年）IV		日本語 IV B（精読）	日本語（精読） B	日本語 B IV		
生田	日本語 I A（読解）	春学期・秋学期							日本語 1 a・2 a	日本語 I a・I b
	日本語 I B（作文）	春学期・秋学期							日本語 1 b・2 b	日本語 II a・II b
	日本語 II A（精読）	春学期・秋学期							日本語 3 a・4 a	日本語 III
	日本語 II B（速読）	春学期・秋学期							日本語 3 b・4 b	日本語 III
必修・選択の別			必修 （日本語を選択した 場合）	必修 （履修免除制度あり）	必修	必修	必修 （履修免除制度あり）	1年科目-必修 2年科目-選択	必修	必修
1コマの単位数・卒業に必要な単位数			1・6	1・8	2016年度以前入学者 1・6 2017年度以降入学者 1・8	1・8	1・8	2013年度以降入学者 1・6 2017年度以降入学者 1・4	1・8	2016年度以前入学者 1・6 2017年度以降入学者 1・8
留学生特有の履修上の注意など			外国語科目群において日本語を選択した場合、日本語A I・II、B I・II計4単位を必修とする。また、日本語C I・II、D I・IIから2単位以上を修得しなければならない。		※日本語 I を 2単位必修。			日本語 A III・A IV・B III・B IVを修得した場合には、「自由に選択できる科目」に算入されます。		日本語 I a・I b・II a・II bは必修。2017年度以降入学者については、日本語 IIIは精読2単位、速読2単位を修得すること。

Ⅳ 科目ナンバリングについて

2020年度のシラバスから、本学の科目ナンバリング制度による科目ナンバーを、各授業科目シラバスに付番しています。この科目ナンバリング導入の目的、概要及び構造については以下のとおりです。

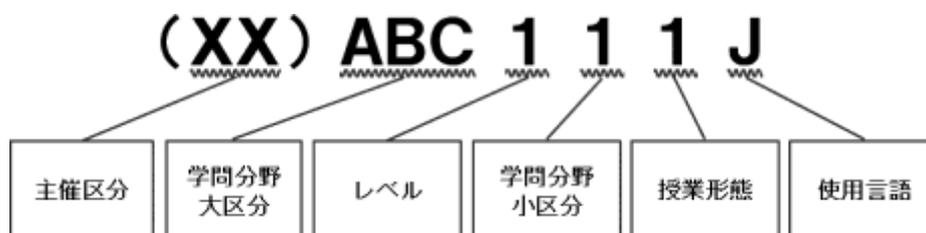
科目ナンバリング導入の目的

明治大学が開講する全ての授業科目を「学問分野」・「レベル」等で分類し、各々に科目ナンバーを付番することで、授業科目個々の学問的位置づけを示すことにより学生の計画的な学修への一助とすること、海外の大学との連携を容易とするためのツールとすること等を目的としています。

明治大学科目ナンバリングの概要及び構造

本大学が開講する全ての授業科目に、以下の科目ナンバリングコード定義に基づき、科目ナンバーを付番します。

<科目ナンバーの構造>



<各ナンバリングコードの定義>

- ① 主催区分コード
当該科目を開講する主催機関（学部・研究科・共通など）をアルファベット2文字で示しています。
- ② 学問分野 大区分コード
学問分野を本学が大きく区分した中で、当該科目が分類される学問分野をアルファベット3文字で示しています。
- ③ レベルコード
当該科目のレベルを数字1文字で示しています。
- ④ 学問分野小区分
本学が大区分として分類した学問分野の中で、さらに分類される分野を小区分として数字1文字で示しています。
- ⑤ 授業形態コード
当該授業の実施形態を数字1文字で示しています。
- ⑥ 使用言語コード
当該授業の教授における使用言語を英字1文字で示しています。

<各コードの詳細>

各ナンバリングコードの詳細及び他学部等の開講科目の科目ナンバーについては、本学ホームページ又はOh-o! Meijiシステムにて確認ください。

<https://www.meiji.ac.jp/koho/course-numbering/index.html>

V 授業内容
日本語
(和泉キャンパス)

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）読解A
担当者	大木 理恵
1. 授業の概要・到達目標	
<p>この授業では、留学生が大学での勉学や活動に必要な日本語能力を身につけるとともに、大学の講義内容を理解し授業に積極的に参加できる能力を養うことを目標とする。そのために、「読解」に加えて、「語彙拡充」、「自然な日本語発音」の学習、また、「聴解」「発表」、「ディスカッション」の活動をする。これらの活動を行うことによって、総合的な日本語能力の育成を目指している。</p>	
2. 授業内容	
<p>第1回：イントロダクション、自己紹介、資料配布、発音学習（1） 第2回：クイズ（1）発音学習（2）、読解（1） 第3回：クイズ（2）、発音学習（3）、読解（2） 第4回：クイズ（3）、発音学習（4）、読解（3） 第5回：クイズ（4）、発音学習（5）、読解（4） 第6回：クイズ（5）、読解（5） 第7回：クイズ（1～5まとめ）、読解（6） 第8回：ディスカッション 第9回：クイズ（6）、発表（1）、読解（7） 第10回：クイズ（7）、発表（2）、読解（8） 第11回：クイズ（8）、発表（3）、読解（9） 第12回：クイズ（9）、発表（4）、読解（10） 第13回：クイズ（10）、発表（5）、読解（11） 第14回：クイズ（6～10まとめ）、期末試験、春学期の課題提出</p> <p>* 授業の進み具合によっては内容が変更することもある。</p>	
3. 履修上の注意	
<ol style="list-style-type: none"> 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらすぐ出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること 6) クイズは授業の最初に行うので遅刻した場合は受けられない。 7) 課題等は指定された提出日より遅れた場合はマイナス評価となるので注意。 8) 授業中、発表者への質問やディスカッションに積極的に参加すること。 9) 授業には毎回辞書を持ってくること。 	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>配布した資料をよく読んで準備をすること。（語彙の意味だけを調べるのではなく、使い方、接続の仕方なども自分で調べること）</p>	
5. 教科書	
<p>『上級日本語コース（読解）』明治大学日本語教育研究室、2020年（無償配布）</p>	
6. 参考書	
<p>授業時に随時紹介する。</p>	
7. 成績評価の方法	
<p>授業への貢献度：20% クイズ：10% 課題・発表：30% 期末試験・課題レポート：40%</p>	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）読解B
担当者	大木 理恵
1. 授業の概要・到達目標	
<p>この授業では、留学生が大学での勉学や活動に必要な日本語能力を身につけるとともに、大学の講義内容を理解し授業に積極的に参加できる能力を養うことを目標とする。そのために、「読解」に加えて、「語彙拡充」、「自然な日本語発音」の学習、また、「聴解」「発表」、「ディスカッション」の活動をする。これらの活動を行うことによって、総合的な日本語能力の育成を目指している。</p>	
2. 授業内容	
<p>第1回：イントロダクション、資料配布、 第2回：クイズ（1）、読解（1） 第3回：クイズ（2）、読解（2） 第4回：クイズ（3）、読解（3） 第5回：クイズ（4）、読解（4） 第6回：クイズ（5）、読解（5） 第7回：クイズ（1～5まとめ）、読解（6） 第8回：ディスカッション 第9回：クイズ（6）、発表（1）、読解（7） 第10回：クイズ（7）、発表（2）、読解（8） 第11回：クイズ（8）、発表（3）、読解（9） 第12回：クイズ（9）、発表（4）、読解（10） 第13回：クイズ（10）、発表（5）、読解（11） 第14回：クイズ（6～10まとめ）、期末試験、秋学期の課題提出</p> <p>* 授業の進み具合によっては内容が変更することもある。</p>	
3. 履修上の注意	
<p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらすぐ出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること 6) クイズは授業の最初に行うので遅刻した場合は受けられない。 7) 課題等は指定された提出日時より遅れた場合はマイナス評価となるので注意。 8) 授業中、発表者への質問やディスカッションに積極的に参加すること。 9) 授業には毎回辞書を持ってこよう。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>配布した資料をよく読んで準備をすること。（語彙の意味だけを調べるのではなく、使い方、接続の仕方なども自分で調べること）</p>	
5. 教科書	
<p>『上級日本語コース（読解）』明治大学日本語教育研究室、2020年（無償配布）</p>	
6. 参考書	
<p>授業時に随時紹介する。</p>	
7. 成績評価の方法	
<p>授業への貢献度：20% クイズ：10% 課題・発表：30% 期末試験・課題レポート：40%</p>	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）読解A
担当者	半田 淳子
1. 授業の概要・到達目標 本授業は「読解」の授業であるが、「意見を述べること」や「発表すること」を組み合わせることで、日本語の総合的な能力の育成を目指している。教材をcritical thinkingの視点から読み、クラス内でのディスカッションを通じて理解を深め、自分自身の意見を持ち、適切な日本語で表現できることを目標とする。授業内の「読解」のほかに、宿題（ワークシート）やクイズ、関連するトピックについてのプレゼンテーションなどの課題がある。	
2. 授業内容 作成教材『上級日本語コース 読解』の、主として前半部分をテキストとして使用し、これまでに習得した日本語力の拡充を図り、大学での勉学に必要とされる、日本語の基礎力を養う。具体的には、一般書が読めるように、文法の知識を増やすとともに、語彙、表現の運用力を伸ばす。また、正確な発音の訓練にも配慮する。 第1回：授業の内容、進め方、評価について、「読解」力の育成に向けてのイントロダクション 第2回～第7回：クイズ、教材①～③の読解、Q&A、ワークシート、ディスカッション、発表 第8回～第13回：クイズ、教材④～⑥の読解、Q&A、ワークシート、ディスカッション、発表 第14回：今学期の振り返り、期末試験 * 内容や進め方は変更することがある。詳細は、第1回目に説明する。	
3. 履修上の注意 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習や復習として、ワークシートや読み物教材（副教材を含む）を課す。 2週間に1度の割合でクイズ（語彙・漢字）をするので、そのための自宅学習も必要である。	
5. 教科書 以下の指定の教科書を使用する。教科書は無償で配布する。 1年読解：『上級日本語コース（読解）』明治大学日本語教育研究室、2020年 なお、必要に応じて、補助教材も使用する。	
6. 参考書 授業中に随時、紹介する。	
7. 成績評価の方法 授業への参加度（ディスカッションや質疑応答を含む）：10% クイズ（主として漢字、語彙等）：10% 宿題（ワークシート等）：10% 発表（ハンドアウトの作成も含む）：10% 期末テスト：60% * 合計で60%以上が合格である。	
8. その他 授業中は積極的に発言し、教室活動に参加すること。 配布された教材・プリントを紛失しないこと。	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）読解B
担当者	半田 淳子
1. 授業の概要・到達目標	
<p>本授業は「読解」の授業であるが、「意見を述べること」や「発表すること」を組み合わせることで、日本語の総合的な能力の育成を目指している。教材をcritical thinkingの視点から読み、クラス内でのディスカッションを通じて理解を深め、自分自身の意見を持ち、適切な日本語で表現できることを目標とする。授業内の「読解」のほかに、宿題（ワークシート）やクイズ、関連するトピックについてのプレゼンテーションなどの課題がある。</p>	
2. 授業内容	
<p>作成教材『上級日本語コース 読解』の、主として後半部分をテキストとして使用し、これまでに習得した日本語力の拡充を図り、大学での勉学に必要とされる、日本語の基礎力を十分に築きあげることを目指す。具体的には、一般書が読めるように、文法の知識を増やすとともに、語彙、表現の運用力を伸ばす。また、正確な発音の訓練にも配慮する。</p> <p>第1回：授業の内容、進め方、評価について、「読解」力の育成に向けてのイントロダクション 第2回～第7回：クイズ、教材①～③の読解、Q&A、ワークシート、ディスカッション、発表 第8回～第13回：クイズ、教材④～⑥の読解、Q&A、ワークシート、ディスカッション、発表 第14回：今学期の振り返り、期末試験</p> <p>* 内容や進め方は変更することがある。詳細は、第1回目に説明する。</p>	
3. 履修上の注意	
<ol style="list-style-type: none"> 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>予習や復習として、ワークシートや読み物教材（副教材を含む）を課す。 2週間に1度の割合でクイズ（語彙・漢字）をするので、そのための自宅学習も必要である。</p>	
5. 教科書	
<p>以下の指定の教科書を使用する。教科書は無償で配布する。 1年読解：『上級日本語コース（読解）』明治大学日本語教育研究室、2020年 なお、必要に応じて、補助教材も使用する。</p>	
6. 参考書	
<p>授業中に随時、紹介する。</p>	
7. 成績評価の方法	
<p>授業への参加度（ディスカッションや質疑応答を含む）：10% クイズ（主として漢字、語彙等）：10% 宿題（ワークシート等）：10% 発表（ハンドアウトの作成も含む）：10% 期末テスト：60% * 合計で60%以上が合格である。</p>	
8. その他	
<p>授業中は積極的に発言し、教室活動に参加すること。 配布された教材・プリントを紛失しないこと。</p>	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）読解A
担当者	田代 ひとみ
1. 授業の概要・到達目標	
<p>作成教材『上級日本語コース 読解』の、主として前半部分をテキストとして使用し、これまでに習得した日本語力の拡充を図り、大学での勉学に必要なとされる、日本語の基礎力を養う。具体的には、一般書が自由に読めるように文法の知識を増やすとともに、語彙、表現の運用力を伸ばす。また、正確な発音の訓練にも配慮する。</p> <p>到達目標は、大学での基本的なアカデミックな活動が円滑にできること、日本の社会・文化への理解を深めることである。</p>	
2. 授業内容	
<p>第1回： イントロダクション 発表について 第2回： 発表の方法・読解 第3回： 読解 第4回： 発表・読解（クイズ） 第5回： 発表・読解 第6回： 発表・読解 第7回： 発表・読解 第8回： 発表・読解（クイズ） 第9回： 発表・読解 第10回： 発表・読解 第11回： 発表・読解 第12回： 発表・読解（クイズ） 第13回： 発表・読解 第14回： 授業の振り返りと試験</p>	
3. 履修上の注意	
<p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>授業で指示した教材を読み、未知語の意味を調べ、課題に取り組んでおくこと。</p>	
5. 教科書	
<p>『上級日本語コース（読解）』明治大学日本語教育研究室、2020年 その他コピー教材を配布する。</p>	
6. 参考書	
7. 成績評価の方法	
<p>試験 30% 授業参加度 30% 課題・小テスト 40%</p>	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）読解B
担当者	田代 ひとみ
1. 授業の概要・到達目標	
<p>作成教材『上級日本語コース 読解』の、主として後半部分をテキストとして使用し、これまでに習得した日本語力の拡充を図り、大学での勉学に必要なとされる、日本語の基礎力を十分に築きあげることを目指す。</p> <p>具体的には、一般書が自由に読めるように、文法の知識を充実させるとともに、語彙、表現の運用力を伸ばす。また、正確な発音の訓練にも配慮する。</p> <p>到達目標は、大学での基本的なアカデミックな活動が円滑にできること、日本の社会・文化への理解を深めることである。</p>	
2. 授業内容	
<p>第1回： イントロダクション 発表について</p> <p>第2回： 速読の方法・読解</p> <p>第3回： 読解</p> <p>第4回： 発表・読解（クイズ）</p> <p>第5回： 発表・読解</p> <p>第6回： 発表・読解</p> <p>第7回： 発表・読解</p> <p>第8回： 発表・読解（クイズ）</p> <p>第9回： 発表・読解</p> <p>第10回： 発表・読解</p> <p>第11回： 発表・読解</p> <p>第12回： 発表・読解（クイズ）</p> <p>第13回： 発表・読解</p> <p>第14回： 授業の振り返りと試験</p>	
3. 履修上の注意	
<p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。</p> <p>2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。</p> <p>3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。</p> <p>4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。</p> <p>5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>授業で指示した教材を読み、未知語の意味を調べ、課題に取り組んでおくこと。</p>	
5. 教科書	
<p>『上級日本語コース（読解）』 明治大学日本語教育研究室、2020年 その他コピー教材を配布する。</p>	
6. 参考書	
7. 成績評価の方法	
<p>試験 30%</p> <p>授業参加度 30%</p> <p>課題・小テスト 40%</p>	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）読解A
担当者	田代 ひとみ
1. 授業の概要・到達目標	
<p>作成教材『上級日本語コース 読解』の、主として前半部分をテキストとして使用し、これまでに習得した日本語力の拡充を図り、大学での勉学に必要とされる、日本語の基礎力を養う。具体的には、一般書が自由に読めるように文法の知識を増やすとともに、語彙、表現の運用力を伸ばす。また、正確な発音の訓練にも配慮する。</p> <p>到達目標は、大学での基本的なアカデミックな活動が円滑にできること、日本の社会・文化への理解を深めることである。</p>	
2. 授業内容	
<p>第1回： イントロダクション 発表について 第2回： 発表の方法・読解 第3回： 読解 第4回： 発表・読解（クイズ） 第5回： 発表・読解 第6回： 発表・読解 第7回： 発表・読解 第8回： 発表・読解（クイズ） 第9回： 発表・読解 第10回： 発表・読解 第11回： 発表・読解 第12回： 発表・読解（クイズ） 第13回： 発表・読解 第14回： 授業の振り返りと試験</p>	
3. 履修上の注意	
<p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>授業で指示した教材を読み、未知語の意味を調べ、課題に取り組んでおくこと。</p>	
5. 教科書	
<p>『上級日本語コース（読解）』明治大学日本語教育研究室、2020年 その他コピー教材を配布する。</p>	
6. 参考書	
7. 成績評価の方法	
<p>試験 30% 授業参加度 30% 課題・小テスト 40%</p>	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）読解B
担当者	田代 ひとみ
1. 授業の概要・到達目標	
<p>作成教材『上級日本語コース 読解』の、主として後半部分をテキストとして使用し、これまでに習得した日本語力の拡充を図り、大学での勉学に必要なとされる、日本語の基礎力を十分に築きあげることを目指す。</p> <p>具体的には、一般書が自由に読めるように、文法の知識を充実させるとともに、語彙、表現の運用力を伸ばす。また、正確な発音の訓練にも配慮する。</p> <p>到達目標は、大学での基本的なアカデミックな活動が円滑にできること、日本の社会・文化への理解を深めることである。</p>	
2. 授業内容	
<p>第1回： イントロダクション 発表について</p> <p>第2回： 速読の方法・読解</p> <p>第3回： 読解</p> <p>第4回： 発表・読解（クイズ）</p> <p>第5回： 発表・読解</p> <p>第6回： 発表・読解</p> <p>第7回： 発表・読解</p> <p>第8回： 発表・読解（クイズ）</p> <p>第9回： 発表・読解</p> <p>第10回： 発表・読解</p> <p>第11回： 発表・読解</p> <p>第12回： 発表・読解（クイズ）</p> <p>第13回： 発表・読解</p> <p>第14回： 授業の振り返りと試験</p>	
3. 履修上の注意	
<p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。</p> <p>2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。</p> <p>3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。</p> <p>4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。</p> <p>5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>授業で指示した教材を読み、未知語の意味を調べ、課題に取り組んでおくこと。</p>	
5. 教科書	
<p>『上級日本語コース（読解）』明治大学日本語教育研究室、2020年 その他コピー教材を配布する。</p>	
6. 参考書	
7. 成績評価の方法	
<p>試験 30%</p> <p>授業参加度 30%</p> <p>課題・小テスト 40%</p>	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）読解A
担当者	坂東 実子
1. 授業の概要・到達目標 さまざまな日本語に触れ、正確に読解することの訓練を行い、語彙力・日本語の運用能力を向上させる。 また、教科書に取り上げられたテーマの中から最も関心を持ったものに関連してショートレポートを書き、プレゼンすることを通し、大学におけるゼミの発表などで必要となるプレゼンテーション能力・論理力の基礎を学習する。大学における口頭発表やレポート作成に必要なアカデミック・スキルを身につけることを目標とする。	
2. 授業内容 第1回：イントロダクション、読解教材1を読む（内容理解）、ワークシート1記入・提出 第2回：読解教材1についてワークシート1発表。教材2を読む（内容理解）、ワークシート2記入・提出 第3回：読解教材2についてワークシート2発表。教材3を読む（内容理解）、ワークシート3記入・提出 第4回：読解教材3についてワークシート3発表。教材4を読む（内容理解）、ワークシート4記入・提出 ※教科書1～3課に登場する語彙や漢字の小テスト 第5回：読解教材4についてワークシート4発表。文学教材A小川未明「野ばら」、ワークシートA記入・提出 第6回：文学教材AについてワークシートA発表。教材5を読む（内容理解）、ワークシート5記入・提出 第7回：読解教材5についてワークシート5発表。教材6を読む（内容理解）、ワークシート6記入・提出 第8回：読解教材6についてワークシート6発表。教材7を読む（内容理解）、ワークシート7記入・提出 ※教科書4～6課に登場する語彙や漢字の小テスト 第9回：読解教材7についてワークシート7発表。文学教材B星新一「おーい でてこーい」、ワークシートB記入・提出 第10回：文学教材BについてワークシートB発表。教材8を読む（内容理解）、ワークシート8記入・提出 第11回：読解教材8についてワークシート8発表。教材9を読む（内容理解）、ワークシート9記入・提出 第12回：読解教材9についてワークシート9に書いたことを各自発表。レポートについて。レポート提出。 ※教科書7～9課に登場する語彙や漢字の小テスト 第13回：レポートプレゼン1 第14回：レポートプレゼン2、一人一言、まとめ	
3. 履修上の注意 授業での積極的な取り組みを重視する。 遅刻・欠席等によって小テストの時間にいなかった場合、0点とする。 授業中、携帯電話・スマートフォン、タブレット、パソコン等は、授業に関係ないことには使用しないこと。（辞書としての使用と、授業の資料閲覧は可） 毎回、教科書と辞書を持ってくること。 ワークシート記入・提出、予習等の家庭学習を必ず行うこと。 【必修日本語科目共通事項】 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。※電車の遅延は日常なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Oh-o!meiji に毎回の配布物をUPするので読んでくこと。ワークシートを講義の2日後までに提出。翌週に添削されて戻って来たワークシートをもとに発表するので、心の準備をする。 語彙・漢字テストに備えて覚える。	
5. 教科書 『上級日本語コース（読解）』明治大学日本語教育研究室、2020年（国際教務事務室にて無料で配布。各自で受け取り、初回授業に必ず持参すること。）	
6. 参考書 必要に応じて授業時、または Oh-o! Meiji を通じて資料を配布する。	
7. 成績評価の方法 ワークシート11回分（各回、提出遅れは2点減点、その他内容不備による減点あり） 小テスト 10点満点を3回実施。 レポート（A4のテンプレート1枚分。11のテーマの中から特に関心をもったものについて。提出遅れは5点減点、その他内容不備による減点あり） 100点満点から、減点分を引いた点数で評価する。	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）読解B
担当者	坂東 実子
1. 授業の概要・到達目標 さまざまな日本語に触れ、正確に読解することの訓練を行い、語彙力・日本語の運用能力を向上させる。 また、教科書に取り上げられたテーマの中から最も関心を持ったものに関連してショートレポートを書き、プレゼンすることを通し、大学におけるゼミの発表などで必要となるプレゼンテーション能力・論理力の基礎を学習する。大学における口頭発表やレポート作成に必要なアカデミック・スキルを身につけることを目標とする。	
2. 授業内容 第1回：イントロダクション、読解教材10を読む（内容理解）、ワークシート10記入・提出 第2回：読解教材10についてワークシート10発表。教材11を読む（内容理解）、ワークシート11記入・提出 第3回：読解教材11についてワークシート11発表。教材12を読む（内容理解）、ワークシート12記入・提出 第4回：読解教材12についてワークシート12発表。教材13を読む（内容理解）、ワークシート13記入・提出 ※教科書10～12課に登場する語彙や漢字の小テスト 第5回：読解教材13についてワークシート13発表。文学教材C清少納言「春はあけぼの」、ワークシートC記入・提出 第6回：文学教材CについてワークシートC発表。教材14を読む（内容理解）、ワークシート14記入・提出 第7回：読解教材14についてワークシート14発表。教材15を読む（内容理解）、ワークシート15記入・提出 第8回：読解教材15についてワークシート15発表。教材16を読む（内容理解）、ワークシート16記入・提出 ※教科書13～15課に登場する語彙や漢字の小テスト 第9回：読解教材16についてワークシート16発表。文学教材D安房直子「鳥」、ワークシートD記入・提出 第10回：文学教材Dについてグループセッション、グループ発表。教材E（未定）を読む（内容理解）、ワークシートE記入・提出 第11回：教材EについてワークシートE発表。教材F（未定）を読む（内容理解）、ワークシートF記入・提出 第12回：教材FについてワークシートF発表。レポートについて。レポート提出。 ※教科書7～9課に登場する語彙や漢字の小テスト 第13回：レポートプレゼン1 第14回：レポートプレゼン2、一人一言、まとめ	
3. 履修上の注意 授業での積極的な取り組みを重視する。 遅刻・欠席等によって小テストの時間にいなかった場合、0点とする。 授業中、携帯電話・スマートフォン、タブレット、パソコン等は、授業に関係ないことには使用しないこと。（辞書としての使用と、授業の資料閲覧は可） 毎回、教科書と辞書を持ってくること。 ワークシート記入・提出、予習等の家庭学習を必ず行うこと。 【必修日本語科目共通事項】 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。※電車の遅延は日常的なもので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Oh-o!meiji に毎回の配布物をUPするので読んでくること。ワークシートを講義の2日後までに提出。翌週に添削されて戻って来たワークシートをもとに発表するので、心の準備をする。 語彙・漢字テストに備えて覚える。	
5. 教科書 『上級日本語コース（読解）』明治大学日本語教育研究室、2020年（国際教務事務室にて無料で配布。各自で受け取り、初回授業に必ず持参すること。）	
6. 参考書 必要に応じて授業時、または Oh-o! Meiji を通じて資料を配布する。	
7. 成績評価の方法 ワークシート11回分（各回、提出遅れは2点減点、その他内容不備による減点あり） 小テスト 10点満点を3回実施。 レポート（A4のテンプレート1枚分。11のテーマの中から特に関心をもったものについて。提出遅れは5点減点、その他内容不備による減点あり） 100点満点から、減点分を引いた点数で評価する。	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN181J
科目名	日本語（1年）読解A
担当者	中沢 佐企子
1. 授業の概要・到達目標 作成教材『上級日本語コース 読解』の、主として前半部分をテキストとして使用し、これまでに習得した日本語力の拡充を図り、大学での勉学に必要なとされる、日本語の基礎力を養う。 具体的には、一般書が自由に読めるように、文法の知識を増やすとともに、語彙、表現の運用力を伸ばす。また、正確な発音の訓練にも配慮する。	
2. 授業内容 授業は基本的に以下のように行う。発音の確認のための音読、内容についての質疑応答、語彙・表現等についての質疑応答、内容についてのディスカッション、個人あるいはグループでの発表。特に、教師との質疑は発話の重要な練習となるものなので、積極的に参加することが求められる。試験の前の回の授業で小テストを行う。 第1回：イントロダクション、読解練習1（質疑による内容確認、発表） 第2回：読解練習2（音読、質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表） 第3回：読解練習3（音読、質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表） 第4回：読解練習4（音読、質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表） 第5回：読解練習5（音読、質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表） 第6回：小テスト、読解練習6（音読、質疑による内容確認、語彙・表現の確認、発表） 第7回：まとめ・中間試験 第8回：読解練習7（音読、質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表） 第9回：読解練習8（音読、質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表） 第10回：読解練習9（音読、質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表） 第11回：読解練習10（音読、質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表） 第12回：読解練習11（音読、質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表） 第13回：小テスト、読解練習12（音読、質疑による内容確認、語彙・表現の確認、発表） 第14回：まとめ・期末試験	
3. 履修上の注意 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 6) 授業時には、積極的に参加することが重要である。積極性と協調性を重視し、答えでは、わかりやすさを重視する。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として、内容を読み、漢字や語彙等を調べておくこと。また、授業以外でも新聞やニュース等に目を通しておくことが望ましい。	
5. 教科書 『上級日本語コース 読解』 明治大学日本語教育研究室 2020年	
6. 参考書 使用しない。	
7. 成績評価の方法 試験（中間・期末） 50%、小テスト 20%、平常点 30% 小テストでは漢字の読み方と語彙・表現の意味の確認を行う。平常点では、予習、質疑応答での答え方、授業中およびディスカッション・発表時の積極性・協調性・参加度等を評価する。 なお、学生が全員、対面授業を受ける場合は、上記のように評価するが、オンラインで受講する学生がいる場合は、上記の評価を以下のように変更する。 課題 70%、平常点 30% （試験と小テストは行わない。）	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN181J
科目名	日本語（1年）読解B
担当者	中沢 佐企子
1. 授業の概要・到達目標	
<p>作成教材『上級日本語コース 読解』の、主として後半部分をテキストとして使用し、これまでに習得した日本語力の拡充を図り、大学での勉学に必要とされる、日本語の基礎力を十分に築きあげることを目指す。</p> <p>具体的には、一般書が自由に読めるように、文法の知識を充実させるとともに、語彙、表現の運用力を伸ばす。また、正確な発音の訓練にも配慮する。</p>	
2. 授業内容	
<p>授業は基本的に以下のように行う。発音の確認のための音読、内容についての質疑応答、語彙・表現等についての質疑応答、内容についてのディスカッション、個人あるいはグループでの発表。特に、教師との質疑は発話の重要な練習となるものなので、積極的に参加することが求められる。試験の前の回の授業で小テストを行う。</p> <p>第1回：イントロダクション、読解練習1（質疑による内容確認、発表） 第2回：読解練習2（音読、質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表） 第3回：読解練習3（音読、質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表） 第4回：読解練習4（音読、質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表） 第5回：読解練習5（音読、質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表） 第6回：小テスト、読解練習6（音読、質疑による内容確認、語彙・表現の確認、発表） 第7回：まとめ・中間試験 第8回：読解練習7（音読、質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表） 第9回：読解練習8（音読、質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表） 第10回：読解練習9（音読、質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表） 第11回：読解練習10（音読、質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表） 第12回：読解練習11（音読、質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表） 第13回：小テスト、読解練習12（音読、質疑による内容確認、語彙・表現の確認、発表） 第14回：まとめ・期末試験</p>	
3. 履修上の注意	
<p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 6) 授業時には、積極的に参加することが重要である。積極性と協調性を重視し、答えでは、わかりやすさを重視する。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>予習として、内容を読み、漢字や語彙等を調べておくこと。また、授業以外でも新聞やニュース等に目を通しておくことが望ましい。</p>	
5. 教科書	
<p>『上級日本語コース 読解』 明治大学日本語教育研究室 2020年</p>	
6. 参考書	
<p>使用しない。</p>	
7. 成績評価の方法	
<p>試験（中間・期末） 50%、小テスト 20%、平常点 30%</p> <p>小テストでは漢字の読み方と語彙・表現の意味の確認を行う。平常点では、予習、質疑応答での答え方、授業中およびディスカッション・発表時の積極性・協調性・参加度等を評価する。</p> <p>なお、学生が全員、対面授業を受ける場合は、上記のように評価するが、オンラインで受講する学生がいる場合は、上記の評価を以下のように変更する。</p> <p>課題 70%、平常点 30% （試験と小テストは行わない。）</p>	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）読解A
担当者	半田 淳子
1. 授業の概要・到達目標	
<p>本授業は「読解」の授業であるが、「意見を述べること」や「発表すること」を組み合わせることで、日本語の総合的な能力の育成を目指している。教材をcritical thinkingの視点から読み、クラス内でのディスカッションを通じて理解を深め、自分自身の意見を持ち、適切な日本語で表現できることを目標とする。授業内の「読解」のほかに、宿題（ワークシート）やクイズ、関連するトピックについてのプレゼンテーションなどの課題がある。</p>	
2. 授業内容	
<p>作成教材『上級日本語コース 読解』の、主として前半部分をテキストとして使用し、これまでに習得した日本語力の拡充を図り、大学での勉学に必要とされる、日本語の基礎力を養う。具体的には、一般書が読めるように、文法の知識を増やすとともに、語彙、表現の運用力を伸ばす。また、正確な発音の訓練にも配慮する。</p> <p>第1回：授業の内容、進め方、評価について、「読解」力の育成に向けてのイントロダクション 第2回～第7回：クイズ、教材①～③の読解、Q&A、ワークシート、ディスカッション、発表 第8回～第13回：クイズ、教材④～⑥の読解、Q&A、ワークシート、ディスカッション、発表 第14回：今学期の振り返り、期末試験</p> <p>* 内容や進め方は変更することがある。詳細は、第1回目に説明する。</p>	
3. 履修上の注意	
<ol style="list-style-type: none"> 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>予習や復習として、ワークシートや読み物教材（副教材を含む）を課す。 2週間に1度の割合でクイズ（語彙・漢字）をするので、そのための自宅学習も必要である。</p>	
5. 教科書	
<p>以下の指定の教科書を使用する。教科書は無償で配布する。 1年読解：『上級日本語コース（読解）』明治大学日本語教育研究室、2020年 なお、必要に応じて、補助教材も使用する。</p>	
6. 参考書	
<p>授業中に随時、紹介する。</p>	
7. 成績評価の方法	
<p>授業への参加度（ディスカッションや質疑応答を含む）：10% クイズ（主として漢字、語彙等）：10% 宿題（ワークシート等）：10% 発表（ハンドアウトの作成も含む）：10% 期末テスト：60% * 合計で60%以上が合格である。</p>	
8. その他	
<p>授業中は積極的に発言し、教室活動に参加すること。 配布された教材・プリントを紛失しないこと。</p>	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）読解B
担当者	半田 淳子
1. 授業の概要・到達目標 本授業は「読解」の授業であるが、「意見を述べること」や「発表すること」を組み合わせることで、日本語の総合的な能力の育成を目指している。教材をcritical thinkingの視点から読み、クラス内でのディスカッションを通じて理解を深め、自分自身の意見を持ち、適切な日本語で表現できることを目標とする。授業内の「読解」のほかに、宿題（ワークシート）やクイズ、関連するトピックについてのプレゼンテーションなどの課題がある。	
2. 授業内容 作成教材『上級日本語コース 読解』の、主として後半部分をテキストとして使用し、これまでに習得した日本語力の拡充を図り、大学での勉学に必要とされる、日本語の基礎力を十分に築きあげることを目指す。具体的には、一般書が読めるように、文法の知識を増やすとともに、語彙、表現の運用力を伸ばす。また、正確な発音の訓練にも配慮する。 第1回：授業の内容、進め方、評価について、「読解」力の育成に向けてのイントロダクション 第2回～第7回：クイズ、教材①～③の読解、Q&A、ワークシート、ディスカッション、発表 第8回～第13回：クイズ、教材④～⑥の読解、Q&A、ワークシート、ディスカッション、発表 第14回：今学期の振り返り、期末試験 * 内容や進め方は変更することがある。詳細は、第1回目に説明する。	
3. 履修上の注意 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なもので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習や復習として、ワークシートや読み物教材（副教材を含む）を課す。 2週間に1度の割合でクイズ（語彙・漢字）をするので、そのための自宅学習も必要である。	
5. 教科書 以下の指定の教科書を使用する。教科書は無償で配布する。 1年読解：『上級日本語コース（読解）』明治大学日本語教育研究室、2020年 なお、必要に応じて、補助教材も使用する。	
6. 参考書 授業中に随時、紹介する。	
7. 成績評価の方法 授業への参加度（ディスカッションや質疑応答を含む）：10% クイズ（主として漢字、語彙等）：10% 宿題（ワークシート等）：10% 発表（ハンドアウトの作成も含む）：10% 期末テスト：60% * 合計で60%以上が合格である。	
8. その他 授業中は積極的に発言し、教室活動に参加すること。 配布された教材・プリントを紛失しないこと。	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）読解A
担当者	井本 美穂
1. 授業の概要・到達目標 大学での学びに必要な基礎的な「読む力」を伸ばすとともに、その学びの基礎となる「考える力」「伝える力」をつけることを目指す。	
2. 授業内容 第1回： イントロダクション（授業の進め方と教材について、評価について） 第2回： 読解1-① クイズ 第3回： 読解1-② クイズ 第4回： 読解2-① クイズ 第5回： 読解2-② クイズ 第6回： 読解3-① クイズ 第7回： 読解3-② クイズ 第8回： 前半の学習内容のまとめ① 第9回： 前半の学習内容のまとめ② 第10回： 読解4-① クイズ 第11回： 読解4-② クイズ 第12回： 読解5-① クイズ 第13回： 読解5-② クイズ 第14回： a: 総復習 b: 授業の振り返り	
3. 履修上の注意 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として行うこと：授業の前に教材を読み、わからない言葉の意味や読み方を調べておくこと 復習として行うこと：学習した教材を読みかえし（音読と黙読）、設問と自分の解答を再確認すること テーマに関連した事柄について、日本語のニュースや新聞記事などを調べ、自分の考えをまとめて発信できるようにすること	
5. 教科書 『上級日本語コース（読解）』明治大学日本語教育研究室、2020年	
6. 参考書 必要があれば、授業の時に紹介する。	
7. 成績評価の方法 クイズ（教材の漢字、ことばの意味など）20% 授業ごとの小レポート40% ワークシート40%	
8. その他 授業のスケジュール及び内容は変更する可能性があります。 テキストの読解教材だけでなく、テーマに関連する読み物（新聞記事など）も学習します。 教材で学習したことを元に、自分の考えをまとめ、発信する力も付けることを目指します。	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）読解B
担当者	井本 美穂
1. 授業の概要・到達目標	
<p>大学での学びに必要な基礎的な「読む」力を伸ばすとともに、その学びの基礎となる「考える力」「伝える力」をつけることを目指す。</p>	
2. 授業内容	
<p>第1回： イントロダクション（授業の進め方と教材について、評価について） 第2回： 読解1-① クイズ 第3回： 読解1-② クイズ 第4回： 読解2-① クイズ 第5回： 読解2-② クイズ 第6回： 読解3-① クイズ 第7回： 読解3-② クイズ 第8回： 前半の学習内容のまとめ① 第9回： 前半の学習内容のまとめ② 第10回： 読解4-① クイズ 第11回： 読解4-② クイズ 第12回： 読解5-① クイズ 第13回： 読解5-② クイズ 第14回： a: 総復習 b: 授業の振り返り</p>	
3. 履修上の注意	
<p>原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>予習として行うこと：授業の前に教材を読み、わからない言葉の意味や読み方を調べておくこと 復習として行うこと：学習した教材を読みかえし（音読と黙読）、設問と自分の解答を再確認すること テーマに関連した事柄について、日本語のニュースや新聞記事などを調べ、自分の考えをまとめて発信できるようにすること</p>	
5. 教科書	
『上級日本語コース（読解）』明治大学日本語教育研究室、2020年	
6. 参考書	
必要があれば、授業の時に紹介する。	
7. 成績評価の方法	
<p>クイズ（教材の漢字、ことばの意味など）20% 授業ごとの小レポート 40% ワークシート 40%</p>	
8. その他	
<p>授業のスケジュール及び内容は変更する可能性があります。 テキストの読解教材だけでなく、テーマに関連する読み物（新聞記事など）も学習します。 教材で学習したことを元に、自分の考えをまとめ、発信する力も付けることを目指します。</p>	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）読解A
担当者	小林 由紀
1. 授業の概要・到達目標 いろいろな文章を読み、漢字や語句の意味などを確認し、内容についてタスクや質問に答えることで理解するようにする。さらに、自分で質問をしたり、引用して意見を言ったりすることで、文章を自分なりのことばで言い換えて利用できるようにする。 大学での学習に必要な基本的な読解力を身につける。書き言葉の文章の文体に慣れ、レベルにあった漢字・語彙の知識を身につける。自分のことばで文章の内容をある程度説明できるようになる。	
2. 授業内容 第1回 インTRODクシヨン、第2課導入 第2回 第2課 語彙・表現 第3回 第2課 内容理解 第4回 第2課 まとめ 第5回 第4課 語彙・表現 第6回 第4課 内容理解 第7回 第4課 まとめ 第8回 第6課 語彙・表現 第9回、第6課 内容理解 第10回、第6課 まとめ 第11回、第7課 語彙・表現 第12回、第7課 内容理解 第13回、第7課 まとめ 第14回 試験、まとめ	
3. 履修上の注意 授業には辞書を持ってくこと。 【必修日本語科目共通事項】 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。※電車の遅延は日常なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・ 次の回の授業で扱う文章を読み、漢字と語彙を調べておくこと。 ・ 当てられた時にテキストが読めるように漢字の読み方を確認しておくこと。 ・ 内容理解の質問にも目を通しておき、授業後にやったところは復習しておくこと。	
5. 教科書 『上級日本語コース（読解）』明治大学日本語教育研究室、2020年	
6. 参考書 必要に応じて随時紹介する。	
7. 成績評価の方法 課題・小テスト 40% 期末試験 40% 平常点（授業参加態度など）20%	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）読解B
担当者	小林 由紀
1. 授業の概要・到達目標	
<p>少し長い文章を読み、漢字や語句の意味などを確認し、内容や構成についてタスクや質問に答えることで理解できるようにする。さらに、自分で質問をしたり、引用して意見を言ったりすることで、文章を自分なりのことばで言い換えて利用できるようにする。</p> <p>大学での学習に必要な読解力を身につける。文章の構成や話の流れを理解した上でそれぞれの文の意味が理解できるようになる。自分のことばで文章の内容を説明できるようになる。</p>	
2. 授業内容	
<p>第1回 インTRODクシヨン、第8課導入 第2回 第8課 語彙・表現 第3回 第8課 内容理解 第4回 第8課 まとめ 第5回 第10課 語彙・表現 第6回 第10課 内容理解 第7回 第10課 まとめ 第8回 第14課 語彙・表現 第9回 第14課 内容理解 第10回 第14課 まとめ 第11回 第15課 語彙・表現 第12回 第15課 内容理解 第13回 第15課 まとめ 第14回 試験、まとめ</p>	
3. 履修上の注意	
<p>授業には辞書を持ってくこと。 【必修日本語科目共通事項】 1) 則として5回以上欠席した者は不合格とする。※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。※電車の遅延は日常的なもので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・次の回の授業で扱う文章を読み、漢字と語彙を調べておくこと。 ・当てられた時にテキストが読めるように漢字の読み方を確認しておくこと。 ・内容理解の質問にも目を通しておき、授業後にやったところは復習しておくこと。 	
5. 教科書	
『上級日本語コース（読解）』明治大学日本語教育研究室、2020年	
6. 参考書	
必要に応じて随時紹介する。	
7. 成績評価の方法	
<p>課題・小テスト 40% 期末試験 40% 平常点（授業参加態度など）20%</p>	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）作文A
担当者	田代 ひとみ
1. 授業の概要・到達目標	
<p>大学で学ぶ外国人留学生にとっての日本語は、単に一般的な日常言語としての道具である以上に、何よりも勉学の基礎的な技能として不可欠なものであり、そこで必要とされる技能も多岐にわたっている。この授業では、それらの技能のうち、特にレポート作成のための基礎的訓練を行う。『上級日本語コース 作文』の前半部分をテキストとして使用し、論述文に求められる基本的な論旨展開のパターンに習熟し、書き言葉で特徴的に用いられる語彙・表現の運用力の定着を図ることを目標とする。</p> <p>到達目標は、大学生として求められる文章がわかりやすく書けるようになることである。</p>	
2. 授業内容	
<p>第1回：a イントロダクション b I. 原稿用紙の使い方・点の打ち方 第2回：a 文章表現の練習1 b I. フィードバック II. 人物の経歴を述べる 第3回：a 文章表現の練習2 b II. フィードバック 第4回：a 文章表現の練習3 b メールの書き方 XII. 手紙文の形式 第5回：a 文章表現の練習4 b III. フィードバック 第6回：a 文章表現の練習5 b IV. 仕組み・手順・方法を述べる 第7回：a 文章表現の練習6 b IV. フィードバック 第8回：a 文章表現の練習7 b V. 内容を整理する 第9回：a 文章表現の練習8 b V. フィードバック 第10回：a 文章表現の練習9 b VI. 調査結果を説明する 第11回：a 文章表現の練習10 b VI. フィードバック 第12回：a 文章表現の練習11 b VII. 原因・結果を述べる 第13回：a 文章表現の練習12 b VII. フィードバック 第14回：a 期末試験 b 授業の振り返り</p>	
3. 履修上の注意	
<p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらすぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 授業への出席、作文練習への取り組みを重視する。受講生の自主的な予習・復習が大切である。 作文は宿題として完成させること。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
作文課題の作成、練習課題の完成	
5. 教科書	
『上級日本語コース（作文）』（明治大学日本語教育研究室）を主教材とし、コピー教材を副教材とする。	
6. 参考書	
7. 成績評価の方法	
<p>課題提出（作文） 50% 試験 20% 平常点 30%</p>	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）作文B
担当者	田代 ひとみ
1. 授業の概要・到達目標	
<p>この授業では、「日本語作文・前期」に引き続き、『上級日本語コース 作文』をテキストとして使用し、意図する内容を論理的に言語化するための訓練を行う。教養科目のレポート作成が行えるように、文法的な知識をさらに深め、書き言葉に用いられる語彙・表現をいっそう増やし、それらの運用力を高めると共に、論述文の論旨展開に習熟することを目指す。</p> <p>また、受講者の関心に応じたテーマを設定し、構成メモの作成、口頭報告の際に使用するハンドアウト(レジュメ)の作成、論理的な文章展開をもったレポート作成などに取り組む。</p> <p>大学で求められるレポート・ハンドアウトを問題なく作成できることが到達目標である。</p>	
2. 授業内容	
<p>第1回：a イントロダクション b VIII. 意見を述べる (1) レポートの文体 第2回：a VIII. フィードバック b IX. 意見を述べる (2) 第3回：a IX. フィードバック b レポートとは・構成要素・作成のステップ・テーマの紹介 第4回：a IX. b テーマの決定 b 予備調査 第5回：図書館ガイダンス 第6回：a 参考文献確認 b アウトライン作成 第7回：a アウトラインのフィードバック b 引用の方法 第8回：a 引用文フィードバック b 要約の方法 序論の作成 第9回：a 要約文フィードバック b 内容付きアウトライン作成方法 第10回：内容付きアウトラインのフィードバック 第11回：a レポートの文型・表現 b 結論の書き方 第12回：初稿レポート提出 発表の方法・レジュメの作成 第13回：発表 第14回：初稿レポートのフィードバック</p>	
3. 履修上の注意	
<p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 授業への出席、作文練習への取り組みを重視する。受講生の自主的な予習・復習が大切である。 作文は宿題として完成させること。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
作文課題の作成、指定された課題の完成	
5. 教科書	
『上級日本語コース（作文）』（明治大学日本語教育研究室）を主教材とし、その他、必要に応じて補助教材を使用する。	
6. 参考書	
7. 成績評価の方法	
<p>練習(作文提出) 30% 期末課題(レポート・発表) 50% 平常点 20%</p>	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）作文A
担当者	中沢 佐企子
1. 授業の概要・到達目標	
<p>大学で学ぶ外国人留学生にとっての日本語は、単に一般的な日常言語としての道具である以上に、何よりも勉学の基礎的な技能として不可欠なものであり、そこで必要とされる技能も多岐にわたっている。この授業では、それらの技能のうち、特に、レポート作成のための基礎的訓練を行う。『上級日本語コース 作文』の前半部分をテキストとして使用し、論述分に求められる基本的な論旨展開のパターンに習熟し、書き言葉で特徴的に用いられる語彙・表現の運用力の定着を図ることを目標とする。</p>	
2. 授業内容	
<p>第1回：イントロダクション、テキストI「原稿用紙の使い方」の練習、練習問題 第2回：II「人物の経歴を述べる」の練習 第3回：II「人物の経歴を述べる」の整理 第4回：IV「仕組み・手順・方法を述べる」の練習 第5回：IV「仕組み・手順・方法を述べる」の整理 第6回：V「内容を整理する」の練習 第7回：V「内容を整理する」の整理 第8回：VI「調査結果を説明する」の練習 第9回：VI「調査結果を説明する」の整理 第10回：レポートの書き方の練習 第11回：レポートの書き方の整理 第12回：VII「原因・結果を述べる」の練習 第13回：VII「原因・結果を述べる」の整理 第14回：まとめ・発表</p>	
3. 履修上の注意	
<p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 6) 作文は基本的に授業中に手書きで書き、提出する。ただし、オンラインで受講する学生がいる場合は、この限りではない。 7) 授業への出席、作文練習への取り組みを重視する。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>言葉の訓練であるので、受講生の自主的な学習が大切である。文法や語彙・表現等がうまく使いこなせない学生は、復習することが望ましい。</p>	
5. 教科書	
『上級日本語コース 作文』明治大学日本語教育研究室 2019年	
6. 参考書	
使用しない。	
7. 成績評価の方法	
<p>練習（作文提出） 80%、平常点 20%（授業への参加度、積極性、協調性、作文のためのディスカッション・発表等）。 なお、欠席等で作文を遅れて提出した場合は-30%で計算する。</p>	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）作文B
担当者	中沢 佐企子
1. 授業の概要・到達目標	
<p>この授業では、「日本語作文・前期」に引き続き、『上級日本語コース 作文』をテキストとして使用し、意図する内容を論理的に言語化するための訓練を行う。教養科目のレポート作成が行えるように、文法的な知識をさらに深め、書き言葉に用いられる語彙・表現をいっそう増やし、それらの運用力を高めるとともに、論述文の論旨展開に習熟することを目指す。</p> <p>また、受講者の関心に応じたテーマを設定し、構成メモの作成、口頭報告の際に使用するハンドアウト（レジュメ）の作成、論理的な文章展開をもったレポート作成などに取り組む。</p>	
2. 授業内容	
<p>第1回：VIII「意見を述べる（1）」の練習 第2回：VIII「意見を述べる（1）」の整理 第3回：IX「意見を述べる（2）」の練習 第4回：IX「意見を述べる（2）」の整理 第5回：X「意見を述べる（3）」の練習 第6回：X「意見を述べる（3）」の整理 第7回：XI「意見を述べる（4）」の練習 第8回：XI「意見を述べる（4）」の整理 第9回：XII「手紙文の形式」の練習 第10回：XII「手紙文の形式」の整理 第11回：XIII「文章を要約する」の練習 第12回：XIII「文章を要約する」の整理 第13回：XIV「論の構成と展開」、XV「論文の作成」の練習 第14回：まとめ・発表</p>	
3. 履修上の注意	
<ol style="list-style-type: none"> 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 6) 作文は基本的に授業中に手書きで書き、提出する。ただし、オンラインで受講する学生がいる場合は、この限りではない。 7) 授業への出席、作文練習への取り組みを重視する。 	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>言葉の訓練であるので、受講生の自主的な学習が大切である。文法や語彙・表現等がうまく使いこなせない学生は、復習することが望ましい。</p>	
5. 教科書	
<p>『上級日本語コース 作文』 明治大学日本語教育研究室 2019年</p>	
6. 参考書	
<p>使用しない。</p>	
7. 成績評価の方法	
<p>練習（作文提出） 80%、平常点 20%（授業への参加度、積極性、協調性、作文のためのディスカッション・発表等）。 なお、欠席等で作文を遅れて提出した場合は-30%で計算する。</p>	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）作文A
担当者	足立 章子
1. 授業の概要・到達目標 外国人留学生が大学での勉学に必要なとされるのは何よりもまず十分な日本語力である。この授業では、その中で特に日本語の作文能力の向上を目指した練習を行う。 具体的には、『上級日本語コース 作文』の前半部分を主教材として使用し、小論文・レポート作成に向けての、文章表現上の基礎的訓練を行う。特に論述文の基本的なパターンに習熟し、書き言葉に特徴的な語彙・表現の運用力の定着を図る。	
2. 授業内容 第1回：a: イントロダクション b: 文体 第2回：II. 人物の経歴を述べる 第3回：文法・表現の練習（1）動詞 第4回：III. ストーリーを叙述する 第5回：文法・表現の練習（2）助詞 第6回：IV. 仕組み・手順・方法を述べる 第7回：文法・表現の練習（3）呼応 第8回：パフォーマンス 紹介と説明 第9回：V. 内容を整理する（対比・比較1） 第10回：文法・表現の練習（4）名詞化、読み手への配慮 第11回：VI. 調査結果を説明する（対比・比較2） 第12回：文法・表現の練習（5）段落 第13回：VII. 原因・結果を述べる（問題の解決） 第14回：a: 試験 b: 講義全体の振り返りとまとめ	
3. 履修上の注意 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらすぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書の復習をして、習った語彙や表現などは使えるようにすること。	
5. 教科書 『上級日本語コース（作文）』明治大学日本語教育研究室（非売品）を主教材とする。	
6. 参考書 特になし。	
7. 成績評価の方法 作文：40% クイズ：15% パフォーマンス：5% 期末試験：25% 授業参加の積極性：出席、授業態度の積極性、練習問題などの提出など 15% 総計で59%以下の得点は不合格となる。また、単位取得には原則として授業数の2/3以上の出席が必要である。	
8. その他 教科書は初回の授業前に準備しておくこと。毎回使用するので持参すること。	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）作文B
担当者	足立 章子
1. 授業の概要・到達目標	
<p>外国人留学生が大学での勉学に必要なとされるのは何よりもまず十分な日本語力である。この授業では、その中で特に日本語の作文能力の向上を目指した練習を行う。</p> <p>具体的には、『上級日本語コース 作文』の後半部分を主教材として使用し、小論文・レポート作成に向けての、文章表現上の基礎的訓練を行う。特に論述文の基本的なパターンに習熟し、書き言葉に特徴的な語彙・表現の運用力の定着を図る。また、自分の意図したテーマを論理的に展開させていくためのアウトライン作成（段落構成）能力を身につける。</p>	
2. 授業内容	
<p>第1回：a：イントロダクション b：VIII. 意見を述べる（1）（問題の解決）</p> <p>第2回：文法・表現の練習（6）適切な表現</p> <p>第3回：IX. 意見を述べる（2）（容認と主張）</p> <p>第4回：文法・表現の練習（7）長い文</p> <p>第5回：X. 意見を述べる（3）（論述や意見の検証）</p> <p>第6回：文法・表現の練習（8）指示詞</p> <p>第7回：XI. 意見を述べる（4）（事実文と意見文の区別）</p> <p>第8回：文法・表現の練習（9）接続詞</p> <p>第9回：XII. 手紙文の形式 コミュニケーションツール</p> <p>第10回：XIII. 文章を要約する</p> <p>第11回：文法・表現の練習（10）内容予測</p> <p>第12回：XIV. 論の構成と展開（主題と文章構成）</p> <p>第13回：文法・表現の練習（11）立場、主張、根拠</p> <p>第14回：a：試験 b：講義全体の振り返りとまとめ</p>	
3. 履修上の注意	
<p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。</p> <p>2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。</p> <p>3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。</p> <p>4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。</p> <p>5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
教科書の復習をして、習った語彙や表現などは使えるようにすること。	
5. 教科書	
『上級日本語コース（作文）』明治大学日本語教育研究室（非売品）を主教材とする。	
6. 参考書	
特になし。	
7. 成績評価の方法	
<p>作文：40%</p> <p>クイズ：15%</p> <p>課題：5%</p> <p>期末試験：25%</p> <p>授業参加の積極性：出席、授業態度の積極性、練習問題などの提出など 15%</p> <p>総計で59%以下の得点は不合格となる。また、単位取得には原則として授業数の2/3以上の出席が必要である。</p>	
8. その他	
教科書は初回の授業前に準備しておくこと。毎回使用するので持参すること。	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN181J
科目名	日本語（1年）作文A
担当者	小林 真紀子
1. 授業の概要・到達目標	
この授業は、日本の大学で必要とされる日本語作文能力の向上（アカデミックスタイル、適切な言語表現、説得力のある内容・構成）を目指した練習を行う。具体的には、『上級日本語コース（作文）』の前半部分を主教材として使用し、論述の基本的なパターンに習熟し、書き言葉で特徴的に用いられる語彙・表現の運用力の定着を図ることを目標とする。	
2. 授業内容	
授業では『上級日本語コース（作文）』の前半部分を用いて 600~800 字程度の課題作文を書く。それを書き直すことも宿題となる。	
<p>第1回：イントロダクション、アカデミック・ライティングへの準備(1)、I. 原稿用紙の使い方、句読点の使い方、自己紹介文</p> <p>第2回：自己紹介文 Q&A セッション、II. 人物の経歴を述べる、【作文1】</p> <p>第3回：作文1 Q&A セッション、アカデミック・ライティングへの準備(2)</p> <p>第4回：III. ストーリーを叙述する、【作文2】</p> <p>第5回：言語表現練習①、作文2 Q&A セッション</p> <p>第6回：IV. 仕組み・手順・方法を述べる、【作文3】</p> <p>第7回：言語表現練習②、作文3 Q&A セッション</p> <p>第8回：V. 内容を整理する（対比・比較1）(1)</p> <p>第9回：V. 内容を整理する（対比・比較1）(2)、【作文4】</p> <p>第10回：言語表現練習③、作文4 Q&A セッション</p> <p>第11回：VI. 調査結果を説明する（対比・比較2）、【作文5】</p> <p>第12回：言語表現練習④、作文5 Q&A セッション</p> <p>第13回：言語表現練習⑤、XII. 手紙文の形式</p> <p>第14回：期末試験、まとめ</p>	
3. 履修上の注意	
<ul style="list-style-type: none"> ・作文はオリジナルであること。引用した場合は、必ず正しい書き方で引用元を書かなければならない。これができない場合は、剽窃として成績は不合格となる。 ・授業では他の受講者の作文も読むので、お互いに意見を出し合って学びあってほしい。 ・成績を付ける際に必要なので、必ず自分の提出した作文はまとめて保存しておくこと。 <p>【必修日本語科目共通事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・スケジュールをよく見て、[練習（宿題）]は、各課に入る前に事前に取り組んでおくこと。 ・宿題の作文は必ず提出すること。また添削された作文は書き直して再度提出すること。 	
5. 教科書	
『上級日本語コース（作文）』（2019）明治大学日本語教育研究室を主教材とし、その他必要に応じてコピー教材を配布する。	
6. 参考書	
必要に応じて授業時に資料を配布する。	
7. 成績評価の方法	
課題（作文と修正）（50%）、期末試験（30%）、授業への参加度（20%）により、総合的に評価する。	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）作文B
担当者	小林 真紀子
1. 授業の概要・到達目標 この授業では、「日本語作文・前期」に引き続き、『上級日本語コース（作文）』の後半部分を主教材として使用し、意図する内容を論理的に言語化するための訓練を行う。特に レポート作成の手順を学び、文法的な知識や言語表現力をさらに深め、それらの運用力を高めることを目指す。また、受講者の関心に応じたテーマを設定し、根拠に基づいて結果と考察を論理的にまとめたレポート作成に取り組む。	
2. 授業内容 授業では『上級日本語コース（作文）』の後半部分を用いて 600~800 字程度の課題作文を書く。最終レポートは自分が選んだテーマについて 2000 字程度書く。 第1回：イントロダクション、Ⅶ. 原因・理由と結果、【作文6】 第2回：言語表現練習⑥、作文6Q&Aセッション、Ⅷ. 文章を要約する 第3回：Ⅷ. 意見を述べる(1)（要点の整理）【作文7】 第4回：言語表現練習⑦、作文7Q&Aセッション 第5回：Ⅸ. 意見を述べる(2)（容認と主張）【作文8】 第6回：言語表現練習⑧、作文8Q&Aセッション 第7回：Ⅹ. 意見を述べる(3)（論述や意見の検証）【作文9】 第8回：言語表現練習⑨、作文9Q&Aセッション 第9回：レポートとは何か、作成の手順、Ⅺ. 意見を述べる(4)（事実文と意見文の区別） 第10回：ⅩⅣ~ⅩⅤ. 論の構成と展開（主題と文章構成）【最終レポートテーマ決定】 第11回：【最終レポート】 詳細なアウトラインの検討会 第12回：【最終レポート】 初稿の進捗をチェック、根拠に基づく結果と考察の意見交換 第13回：【最終レポート】 要約発表 第14回：【最終レポート】 最終稿に向けての検討会、まとめ	
3. 履修上の注意 <ul style="list-style-type: none"> ・作文、最終レポートはオリジナルであること。引用した場合は、必ず正しい書き方で引用元を書かなければならない。これができない場合は、剽窃として成績は不合格となる。 ・授業では他の受講者の作文も読むので、お互いに意見を出し合って学びあってほしい。 ・成績を付ける際に必要なので、必ず自分の提出した作文（修正、清書、評価など）はまとめて保存しておくこと。 【必修日本語科目共通事項】 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらすぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 <ul style="list-style-type: none"> ・スケジュールをよく見て、[練習（宿題）]は、各課に入る前に事前に取り組んでおくこと。 ・宿題の作文は必ず提出すること。また添削された作文は書き直して再度提出すること。 	
5. 教科書 『上級日本語コース（作文）』（2019）明治大学日本語教育研究室を主教材とし、その他必要に応じてコピー教材を配布する。	
6. 参考書 必要に応じて授業時に資料を配布する。	
7. 成績評価の方法 課題（構成・論理性・文法・内容などで評価する）(40%)、訂正後の改善度 40% 授業への参加度（20%）により、総合的に評価する。	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）作文A
担当者	戸村 佳代
1. 授業の概要・到達目標 小論文・レポート作成のための、文章表現上の基礎的訓練を行う。特に、論述文の基本的な展開パターンに習熟し、自分の意図したテーマを論理的に展開できるようになることを目標とする。教養科目のレポート作成に必要な文法の知識をさらに深め、書き言葉に特徴的な語彙・表現の運用力の定着を図る。	
2. 授業内容 これまでに習得した文法の知識を深め、書き言葉に用いられる語彙・表現を増やして使いこなせるレベルにまで習熟し、今後の勉学の基礎を築くための練習を行う。 第1回：イントロダクション 第2回：インタビュー／構成メモ作成①（他者紹介） 第3回：作文練習①（他者紹介） 第4回：フィードバック、校正記号の見方、電子メールのマナーと書き方 第5回：原稿用紙の使い方 第6回：句読点の使い方（練習） 第7回：構成メモ作成② 第8回：作文練習② 第9回：フィードバック／構成メモ作成③ 第10回：作文練習③ 第11回：フィードバック／構成メモ作成④ 第12回：作文練習④ 第13回：フィードバック 第14回：a 期末試験／b まとめ	
3. 履修上の注意 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 <input type="checkbox"/> 授業を欠席した場合には0h-o!Meijiでその日の授業内容・課題を確認し、期限通りに課題を提出すること。 <input type="checkbox"/> 0h-o! Meiji または、電子メールにファイル添付することで課題提出を行うことがある。 <input type="checkbox"/> 文字化け等のトラブルを回避するため、Meiji Mail を利用し、使用言語を「日本語」とすること。 <input type="checkbox"/> MS-Office 等、コンピュータの操作に不慣れな学生は、大学が提供する講習会等に参加して基本技能を身につけること。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 <input type="checkbox"/> 各課の練習に入る前に教科書の執筆例（作文例）の表現・語彙を予習しておくこと。 <input type="checkbox"/> 授業内に作文を書き終わらなかった場合には、指示された期限までに0h-o! Meiji または、電子メールにファイルを添付して提出すること。 <input type="checkbox"/> 添削された課題の修正箇所を見直し、各自で書き直しの作業を行うこと。	
5. 教科書 <input type="checkbox"/> 『上級日本語コース 作文』（明治大学日本語教育研究室） ※ 国際教育事務室で配布 <input type="checkbox"/> コピー教材	
6. 参考書	
7. 成績評価の方法 試験 30% 課題（構成メモ・作文） 50% 平常点（授業への取り組み等を評価） 20% ※課題提出の期限に遅れた場合には評価が下がるので注意すること ※遅刻2回を欠席1回とみなす。 ※以下の条件をすべて満たすものを評価の対象とする ●欠席回数が4回以下であること ●期末試験を受験していること	
8. その他 コンピュータの操作、MS-Word に不慣れな学生は、必要に応じて、大学が提供している各種講習会を受講すること。	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）作文B
担当者	戸村 佳代
1. 授業の概要・到達目標	
<p>この授業では、春学期に引き続き、小論文・レポート作成のための基礎的訓練を行う。書き言葉に特徴的な語彙・表現の運用力を向上させるだけでなく、自分の意図したテーマを論理的に展開させていくことを主眼とし、教養科目のレポート執筆を行えるようにする。</p> <p>論文作成上の基本的な方法（構成メモの作成、引用のしかた、注・参考文献の付し方、等）を身につける。</p>	
2. 授業内容	
<p>最終課題レポートの執筆に向けて、各自がテーマを設定し、図表や具体的なデータを駆使しながら文章にまとめていく作業を行う。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回：テーマの設定 第3回：資料整理の仕方 第4回：構成メモ作成① 第5回：口頭報告会① 第6回：作文練習① 第7回：フィードバック 第8回：構成メモ作成② 第9回：作文練習② 第10回：フィードバック 第11回：最終課題構成メモ作成 第12回：口頭報告会②／フィードバック 第13回：最終課題準備／注・参考文献一覧について 第14回：a 期末試験／b まとめ</p>	
3. 履修上の注意	
<p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。</p> <p>○ 授業を欠席した場合には0h-o!Meiji でその日の授業内容・課題を確認し、期限通りに課題を提出すること。 ○ 0h-o! Meiji または、電子メールにファイル添付することで課題提出を行うことがある。 ○ 文字化け等のトラブルを回避するため、Meiji Mail を利用し、使用言語を「日本語」とすること。 ○ MS-Office 等、コンピュータの操作に不慣れな学生は、大学が提供する講習会等に参加して基本技能を身につけること。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>○ 各課の練習に入る前に教科書の執筆例（作文例）の表現・語彙を予習しておくこと。 ○ 授業内に作文を書き終わらなかった場合には、指示された期限までに0h-o! Meiji または、電子メールにファイルを添付して提出すること。 ○ 添削された課題の修正箇所を見直し、各自で書き直しの作業を行うこと。</p>	
5. 教科書	
<p>○ 『上級日本語コース 作文』（明治大学日本語教育研究室） ※ 国際教育事務室で配布 ○ コピー教材</p>	
6. 参考書	
7. 成績評価の方法	
<p>試験 30% 課題（構成メモ・作文） 50% 平常点（授業への取り組み等を評価） 20%</p> <p>※課題提出の期限に遅れた場合には評価が下がるので注意すること ※遅刻2回を欠席1回とみなす。 ※以下の条件をすべて満たすものを評価の対象とする</p> <ul style="list-style-type: none"> ●欠席回数が4回以下であること ●期末試験を受験していること 	
8. その他	
<p>コンピュータの操作、MS-Wordに不慣れな学生は、必要に応じて、大学が提供している各種講習会を受講すること。</p>	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）作文A
担当者	酒井 知子
1. 授業の概要・到達目標	
<p>各回のテーマに沿って、実際に作文練習を繰り返すことで、日本語によるレポート・小論文作成の技術を身につける。レポート・論文に特有の語彙・表現や、文章の基本的なパターンを学習し、その定着を図る。大学における基礎的なレポート・レジュメ作成が問題なく行える日本語能力・作文技術の習得を目標とする。また発表を通じ、アカデミックな場における日本語運用能力も高めていく。</p>	
2. 授業内容	
<p>第1回：イントロダクション、原稿用紙の使い方 第2回：レポートの文体、弐手紙文・メール文 第3回：句読点①、Ⅱ人物の経歴を述べる（時間・過程・推移）練習 第4回：句読点②、Ⅱ作文 第5回：間違えやすい文法①、Ⅳ仕組み・手順・方法を述べる 第6回：間違えやすい文法②、Ⅳ作文 第7回：引用①、参考文献の書き方、ⅩⅠ意見を述べる（4） 第8回：引用②Ⅴ内容を整理する（対比・比較1）練習 第9回：Ⅴ作文 第10回：Ⅵ「調査結果を説明する（対比・比較2）図表を読む」練習・発表① 第11回：Ⅵ作文・発表② 第12回：Ⅶ「原因・結果を述べる（問題の解決）」練習・発表③・学期末レポートについて 第13回：Ⅶ作文・発表④ 第14回：a全体の振り返り・発表⑤</p>	
3. 履修上の注意	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業での積極的な取り組みを重視する。 ・予習等の家庭学習を必ず行うこと。 ・授業中、携帯電話・スマートフォン、タブレット、パソコン等は授業に関係ないことには使用しないこと。（辞書としての使用と、授業の資料閲覧は可） <p>ただし作文を書く際、パソコンを持ってこることがのぞましい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回、教科書、日本語辞書（電子辞書等、可）を持ってこること。 <p>【日本語科目共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ・40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 ・15分までの電車等の「遅延証明書」は考慮せず、遅刻として記録する。（日常的に遅延するので、時間に余裕をもって通学すること） ・遅刻した場合、来たことをすぐに教員に申し出ること。（申し出ないと出席として記録されない場合がある） ・授業中に無断で退室しないこと。（無断退室が発覚した場合、欠席扱いとなる場合がある。体調不良等のときは教員に申し出ること） 	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業で各課の「練習」を行う前に教科書（作文例等を含む）の表現・語彙を予習しておく。 ・授業内に作文を書き終わらなかった場合、指示された期限までにOh-o!Meiji または、電子メールにファイル添付して提出する。 	
5. 教科書	
<ul style="list-style-type: none"> ・『上級日本語コース（作文）』明治大学日本語教育研究室、2019年（国際教務事務室にて無料で配布。各自で受け取り、初回授業に持って来ること） 	
6. 参考書	
<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて授業時に資料を配布する 	
7. 成績評価の方法	
<p>課題作文 40%（提出が遅れた場合は減点） 学期末レポート 30% 発表 20% 授業態度 10% ※5回以上欠席（40分以上の遅刻は欠席扱い）したものは評価の対象としない。</p>	
8. その他	
<p>特になし</p>	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）作文B
担当者	酒井 知子
1. 授業の概要・到達目標 各回のテーマに沿って、実際に作文練習を繰り返すことで、日本語によるレポート・小論文作成の技術を身につける。レポート・論文に特有の語彙・表現や、文章の基本的なパターンを学習し、その定着を図る。大学における基礎的なレポート・レジュメ作成が問題なく行える日本語能力・作文技術の習得を目標とする。後期は1500～2000字のレポートを書けるようにする。 また発表を通じ、アカデミックな場における日本語運用能力も高めていく。	
2. 授業内容 第1回：イントロダクション、要約練習① 第2回：要約練習②・Ⅷ意見を述べる練習 第3回：要約練習③・Ⅷ作文 第4回：要約練習④・Ⅸ意見を述べる（2）練習 第5回：要約練習⑤・Ⅸ作文 第6回：要約練習⑥・Ⅹ意見を述べる（3）練習 第7回：要約練習⑦・Ⅹ作文 第8回：ⅩⅣ論の構成と展開 第9回：レポート作成① 構成メモ・学期末レポートについて 第10回：レポート作成②序論・発表① 第11回：レポート作成③本論・発表② 第12回：レポート作成④本論・発表③ 第13回：レポート作成⑤結論・発表④ 第14回：全体の振り返り・発表⑤	
3. 履修上の注意 <ul style="list-style-type: none"> ・授業での積極的な取り組みを重視する。 ・予習等の家庭学習を必ず行うこと。 ・授業中、携帯電話・スマートフォン、タブレット、パソコン等は、授業に関係ないことには使用しないこと。（辞書としての使用と、授業の資料閲覧は可） ただし、作文を書く際、パソコンを持ってこることがのぞましい。 <ul style="list-style-type: none"> ・毎回、教科書、日本語辞書（電子辞書等、可）を持ってこること。 【日本語科目共通】 <ul style="list-style-type: none"> ・原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ・40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 ・15分までの電車等の「遅延証明書」は考慮せず、遅刻として記録する。 （日常的に遅延するので、時間に余裕をもって通学すること） ・遅刻した場合、来たことをすぐに教員に申し出ること。 （申し出ないと出席として記録されない場合がある） ・授業中に無断で退室しないこと。（無断退室が発覚した場合、欠席扱いとなる場合がある。体調不良等のときは教員に申し出ること） 	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 <ul style="list-style-type: none"> ・授業で各課の「練習」を行う前に教科書（作文例等を含む）の表現・語彙を予習しておく。 ・授業内に作文を書き終わらなかった場合、指示された期限までにOh-no!Meiji または、電子メールにファイル添付して提出する。 	
5. 教科書 <ul style="list-style-type: none"> ・『上級日本語コース（作文）』明治大学日本語教育研究室、2019年（国際教務事務室にて無料で配布。各自で受け取り、初回授業に持って来ること） 	
6. 参考書 必要に応じて授業時に資料を配布する	
7. 成績評価の方法 学期末レポート 40% 課題作文 30%（提出が遅れた場合は減点） 発表 20% 授業態度 10% ※5回以上欠席（40分以上の遅刻は欠席扱い）したものは評価の対象としない。	
8. その他 特になし	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）作文A
担当者	関口 美緒
1. 授業の概要・到達目標 年間を通して様々なライティング方法を学んでいく。春学期では、基本的な作文の仕組みや構造について学習する。作文のための準備（インタビュー、データのグラフ化、手紙）も行う。また、発表を行うことで、読者にメッセージが明確に伝達されるかも検証する。	
2. 授業内容 1. 第1課 作文用紙添削 オリエンテーション・作文用紙の使い方〈自己紹介提出〉 2. 第2課 人物の経歴 語句・表現・読解・音読 〈要約の提出〉 3. 内容・作文の構成 〈メモの提出〉 4. ペア（講師指定）の意見を書く 〈作文提出〉 5. 発表・質疑応答（作文の清書を提出）〈発表〉 6. 第4課 仕組み・手順 語句・表現・読解・説明 〈要約の提出〉 7. 内容・調査・メモ書き 〈メモの提出〉 8. ペアワーク 〈作文の下書き〉 8. 発表（調査した手順をクラスメイトに報告する）〈発表〉〈清書〉 9. 第6課 調査結果 語句・表現・読解（次回までに課題を考える）〈要約の提出〉 10. 内容・グラフ・調査（グラフを書く）〈課題の提出〉 11. 意見交換 Voice thread または Video 〈作文提出〉 12. 発表・質疑応答（作文の清書を提出）〈発表〉 13. 意見交換 14. 期末の振り返り・期末試験 注：ただし、クラスの状況によって変更の可能性がある。 毎週、Oh! Meiji 上、次週の予定の詳細な情報がアップされる。 進め方：それぞれの課ごとに、以下のように進めるのが望ましい。 音読または黙読→要約+講義→意見交換（Voice thread 等+講義→作文を書く→添削→清書→発表（Video）	
3. 履修上の注意 1) 原則として5回以上欠席した者（週ごとの提出物や Voice thread/video の返信を怠った場合）は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 「作文」のクラスでは、特に著作権を侵害する行為（コピペ等）や翻訳アプリ等使用の禁止。 3) クラスで書いた作文を共有するため、個人情報に気をつけること。 4) ディスカッションの場でもあるため、誹謗中傷は許されない。 お互いの意見を尊重し、敬うこと。お互いに、学びあうこと。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 準備学習（予習・復習等）の内容 言葉の勉強は、予習・復習が大切である。 予習：受講生は、自宅ですべての教材を読んでおく。単語のチェックや漢字の正しい読み方も予習しておく。 復習：学習した内容について自分で考え、意見を述べる。添削で修正された作文は必ず清書して再提出する。（清書の提出がない場合、大幅な減点が見込まれる。）	
5. 教科書 教科書：『上級日本語コース（作文）』 明治大学日本語教育研究室（大学より配布される）	
6. 参考書	
7. 成績評価の方法 授業参加度（VT・レポート）20%、作文 35%、発表 15%、小テスト（EDOMODO）20%、期末試験 10% 注：引用や参考資料などの扱い（著作権等）について、細心の注意を払うこと。また、翻訳ソフトは使わないこと。したがって、コピペなどが発覚した場合、大幅な減点が見込まれる。	
8. その他 https://voicethread.com/groups/subscribe/23563596/78390f16f/ (Voice thread URL) 1. コロナ禍で授業の編成や方法、また学生自身の環境が不確定な状況であるため、状況によってシラバスの変更が予想される。特に意見交換やペアワークについては不確定である。 2. 小テスト&期末試験（EDOMODO に登録してください）。 https://new.edmodo.com/groups/2022-38306872?utm_source=clas	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）作文B
担当者	関口 美緒
1. 授業の概要・到達目標 年間を通して様々なライティング方法を学んでいく。春学期では、基本的な作文の仕組みや構造について学習する。作文のための準備（インタビュー、データのグラフ化、手紙）も行う。また、発表を行うことで、読者にメッセージが明確に伝達されるかも検証する。	
2. 授業内容 1. 春学期の復習 作文のタイプの確認 〈小テスト〉 2. 第7課原因・理由と結果 語句・表現・読解・音読 〈要約の提出〉 3. 内容・作文の構成 〈メモの提出〉 4. ペア（講師指定）の意見を書く 〈作文提出〉 5. 発表・質疑応答（作文の清書を提出）〈発表〉 6. 第8課意見を述べる1 語句・表現・読解・説明 〈要約の提出〉 7. （要点整理） 内容・調査・メモ書き 〈メモの提出〉 8. 発表（調査した手順をクラスメイトに報告する）〈発表〉 9. 第9課意見を述べる2 語句・表現・読解（次回までに課題を考える）〈要約の提出〉 10. （容認と主張） 内容・グラフ・調査（グラフを書く）〈課題の提出〉 11. 発表・質疑応答（作文の清書を提出）〈作文提出〉 12. 第10課意見を述べる3 語句・表現・読解（次回までに課題を考える） 13. （論述・意見の検証） 内容・グラフ・調査（グラフを書く） 〈グラフの提出〉 14. 発表・学期のまとめ〈発表〉 注：ただし、クラスの状況によって変更の可能性がある。 毎週、Oh! Meiji 上、または Email/voice thread 上に宿題と次週の予定の詳細な情報がアップされる。 進め方：それぞれの課ごとに、以下のように進めるのが望ましい。 音読または黙読→要約+講義→意見交換（Voice thread 等+講義→作文を書く→添削→清書→発表（Video）	
3. 履修上の注意 1) 原則として5回以上欠席した者（週ごとの提出物やVoice thread/videoの返信を怠った場合）は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 「作文」のクラスでは、特に著作権を侵害する行為（コピー等）や翻訳アプリ等使用の禁止。 3) クラスで書いた作文を共有するため、個人情報に気をつけること。 4) ディスカッションの場でもあるため、誹謗中傷は許されない。 お互いの意見を尊重し、敬うこと。お互いに、学びあうこと。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 準備学習（予習・復習等）の内容 言葉の勉強は、予習・復習が大切である。 予習：受講生は、自宅で事前に教材を読んでおく。単語のチェックや漢字の正しい読み方も予習しておく。 復習：学習した内容について自分で考え、意見を述べる。添削で修正された作文は必ず清書して再提出する。（清書の提出がない場合、大幅な減点が見込まれる。）	
5. 教科書 教科書：『上級日本語コース（作文）』明治大学日本語教育研究室（大学より配布される）	
6. 参考書 特になし	
7. 成績評価の方法 授業参加度（VT・レポート）20%、作文35%、発表15%、小テスト（EDOMODO）20%、期末試験10% 注：引用や参考資料などの扱い（著作権等）について、細心の注意を払うこと。また、翻訳ソフトは使わないこと。したがって、コピーなどが発覚した場合、大幅な減点が見込まれる。	
8. その他 1. コロナ禍で授業の編成や方法、また学生自身の環境が不確定な状況であるため、状況によってシラバスの変更が予想される。特に意見交換やペアワークについては不確定である。 2. 小テスト&期末試験（EDOMODO）に登録してください。 https://new.edmodo.com/groups/2022-38306875?utm_source=classes_page Class Code: psrqcy Voice Thread https://voicethread.com/groups	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）作文A
担当者	糸川 優
1. 授業の概要・到達目標	
<p>これから大学生活を送るにあたり、必要となる日本語の書く能力の基礎を固める。アウトラインを作成し、堅固なものとする中で、考えたことを形にしていくプロセスを体験する。また、グループまたはペアで相互にチェックすることによって、各自が自分の書いたものを推敲できる力を養う。最終的に、4-5程度のディスコースからなるアカデミックな文章が書けるようにする。</p>	
2. 授業内容	
<p>第1回 インTRODクシヨン（授業の進め方、提出物について、自己表現、原稿用紙の使い方） 第2回 ①メール（他の媒体との比較、体裁等） ②「人物の経歴を述べる」目的・手順説明 第3回 （仮）アウトライン相互チェック 第4回 フィードバックをもとに、原稿（第一稿）執筆 第5回 第一稿をもとに、推敲力をつけるための相互チェック 第6回 相互チェックをもとに第二稿執筆 第7回 「仕組み・手順・方法を述べる」フローチャートを相互チェック 第8回 フローチャートをもとに（仮）アウトライン執筆、相互チェック 第9回 本アウトラインのフィードバックをみながら、原稿（第一稿）執筆 第10回 原稿（第一稿）をもとに相互チェック 第11回 「原因・理由と結果」ブレインストーミングの方法 第12回 ①ブレインマップをもとに（仮）アウトライン作成②（仮）アウトラインをもとに相互チェック 第13回 本アウトライン作成 第14回 原稿（第一稿）執筆 *内容・進度は変更の可能性があります。</p>	
3. 履修上の注意	
<p>目的意識をもって自主的に取り組むことを求める。 書いたものにコピーペストがあった場合、また、自動翻訳を用いた疑いがある場合、単位は与えられない。 常にPCを準備すること。 課題が多いので、スケジュール表を常に確認のこと。</p> <p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>第1回 課題：自己表現 シート、自己紹介動画を作成（各20分） 第2回 課題：①メールを書いて送信（20分）②「人物の経歴を述べる」質問シート作成（60分）（仮）アウトライン作成（90分） 第3回 課題：本アウトライン完成（20分） 第4回 課題：原稿（第一稿）完成（180分） 第5回 第6回 課題：①第二稿完成（60分）②「仕組み・手順・方法を述べる」フローチャートを作成（60分） 第7回 課題：①修正フローチャート完成（40分）②人物描写の最終稿を完成（30分） 第8回 課題：本アウトライン提出（40分） 第9回 課題：原稿（第一稿）完成（180分） 第10回 課題：第二稿完成（100分） 第11回 課題：①「仕組み・手順・方法を述べる」最終稿完成（30分）②ブレインマップ完成（180分） 第12回 第13回 課題：本アウトライン完成（60分） 第14回 課題：フィードバックをもとに最終稿執筆（30分）</p>	
5. 教科書	
『上級日本語コース（作文）』（明治大学日本語教育研究室）	
6. 参考書	
『論文・レポートの基本』石黒圭（日本実業出版社） 『レポート・論文作成法』井下千以子（慶應義塾大学出版会）	
7. 成績評価の方法	
授業への参加・貢献度 15%、課題 85%	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）作文B
担当者	糸川 優
1. 授業の概要・到達目標 これから大学生活を送るにあたり、必要となる日本語の書く能力の基礎を固める。アウトラインを作成し、堅固なものとする中で、考えたことを形にしていくプロセスを体験する。また、グループまたはペアで相互にチェックすることによって、各自が自分の書いたものを推敲できる力を養う。最終的に、4-5程度のディスコースからなるアカデミックな文章が書けるようにする。	
2. 授業内容 第1回 イントロダクション（授業の進め方、提出物について）、文章の構成 第2回 序論（部分）の役割、アウトライン、ブレインストーミングについて、「意見を述べる（1）」ブレインストーミング 第3回（仮）アウトライン相互チェック、本アウトライン作成 第4回 アウトラインフィードバック、修正、原稿執筆 第5回 アウトラインフィードバック、修正、原稿執筆 第6回 原稿の個別フィードバック 第7回 原稿の個別フィードバック 第8回 「意見を述べる（2）」ブレインストーミング、（仮）アウトライン 第9回（仮）アウトライン相互チェック、本アウトライン 第10回 アウトライン個別フィードバック 第11回 アウトライン個別フィードバック 第12回 原稿（第一稿）執筆 第13回 原稿の個別フィードバック、最終稿完成 第14回 原稿の個別フィードバック、最終稿完成 * 内容・進度は変更の可能性があります。	
3. 履修上の注意 目的意識をもって自主的に取り組むことを求める。 書いたものにコピーペーストがあった場合、また、自動翻訳を用いた疑いがある場合、単位は与えられない。 常にPCを準備すること。 課題が多いので、スケジュール表を常に確認のこと。 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 第2回 準備：付箋2、3色 課題：（仮）アウトライン完成（80分） 第3回 課題：本アウトライン完成（20分） 第4・5回 課題：原稿（第一稿）完成（180分） 第6・7回 課題：最終稿完成（30分） 第8回 準備：付箋2、3色 課題：（仮）アウトライン提出（40分） 第9回 課題：本アウトライン完成（30分） 第12回 課題：原稿完成（60分） 第13・14回 課題：最終稿完成（30分）	
5. 教科書 『上級日本語コース（作文）』（明治大学日本語教育研究室）	
6. 参考書 『論文・レポートの基本』石黒圭（日本実業出版社） 『レポート・論文作成法』井下千以子（慶應義塾大学出版会）	
7. 成績評価の方法 授業への参加・貢献度 15%、課題 85%	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）作文A
担当者	小林 由紀
1. 授業の概要・到達目標 大学生活に必要な書くことについての基本的な知識について解説し、練習問題や実際の文章の作成を通して、知識が身につくようにする。 大学での学習に必要な基本的な書く力を身につける。書き言葉と話し言葉の違いを理解し、適切な語や表現を選択して書けるようになる。学術的な文章に必要な基本的な表現を使えるようになり、また基本的な文章構造を意識して書けるようになる。	
2. 授業内容 第1回 インTRODクシヨン、第1課 第2回 第2課 第3回 第3課① 第4回 第3課② 第5回 第4課① 第6回 第4課② 第7回 第5課① 第8回 第5課② 第9回 第6課① 第10回 第6課② 第11回 第7課① 第12回 第7課② 第13回 第12課 暑中見舞い 第14回 授業内試験、まとめ	
3. 履修上の注意 授業には辞書を持ってくること。 【必修日本語科目共通事項】 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。※電車の遅延は日常なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 新しい課の内容に目を通しておくこと。 課題・作文を作成するため、必要な語句などを調べたり、内容について考えたりしておくこと。 課題・作文について時間内で終わらなかった部分については仕上げて後日提出すること。	
5. 教科書 『上級日本語コース（作文）』明治大学日本語教育研究室、2019年	
6. 参考書 必要に応じて随時紹介する。	
7. 成績評価の方法 課題・作文の提出 50% 試験 30% 平常点（授業参加態度など）20%	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）作文B
担当者	小林 由紀
1. 授業の概要・到達目標 大学生活で必要な書くことについての知識について解説し、文章の作成などを通して、知識が身につくようにする。自分の考えに沿って資料を集めレポートを作成することにより、実践的な技術が身につくようにする。 大学での学習に必要な書く力を身につける。文章の目的に合わせて適切な表現を選択できるようになり、文章構成を意識して書けるようになる。さらに、人の意見を引用したり、自分の考えをまとめてわかりやすく表現できるようになる。レポートをまとめるときの基本的な知識を理解する。	
2. 授業内容 第1回 インTRODクシヨン、第8課① 第2回 第8課② 第3回 第9課① 第4回 第9課② 第5回 第13課① 第6回 第13課② 第7回 第10課① 第8回 第10課② 第9回 第12課 第10回 第14・15課 第11回 第11課 第12回 まとまった作品を完成するため、構成と展開を考える 第13回 参考文献 第14回 発表、まとめ	
3. 履修上の注意 授業には辞書を持ってくること。 【必修日本語科目共通事項】 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。※電車の遅延は日常なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらすぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 課題・作文を作成するため、必要な語句などを調べたり、内容について考えたりしておくこと。 課題・作文について時間内で終わらなかった部分については仕上げて後日提出すること。	
5. 教科書 『上級日本語コース（作文）』明治大学日本語教育研究室、2019年 そのほかコピー教材	
6. 参考書 必要に応じて随時紹介する。	
7. 成績評価の方法 課題・作文の提出 50% 発表とレポート 30% 平常点（授業参加態度など）20%	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN281J
科目名	日本語（2年）精読A
担当者	田代 ひとみ
1. 授業の概要・到達目標	
<p>この授業では、大学での勉学に不可欠な日本語の技能のうち、特に、文章を深く理解するための高度な読解力を身につけることを主たる目的とする。単に文法や語彙の拡充や読み能力の進展を図るだけでなく、論述文の文章構造と論理展開の特性を正確に捉え、習熟するための練習を中心に授業展開することにより、教養課程におけるテキスト・専門書の読解に必要な日本語力を育成する。</p> <p>到達目標は、内容について十分な理解のうえ、討論できるようになること、大学でのアカデミックな活動に問題なく参加できることである。</p>	
2. 授業内容	
<p>第1回：イントロダクション・受講の仕方 第2回：読解1 第3回：読解1 第4回：読解1 課題提出 第5回：読解2 第6回：読解2 第7回：読解2 課題提出 第8回：読解3 第9回：読解3 第10回：読解3 課題提出 第11回：読解4 第12回：読解4 第13回：読解4 課題提出 第14回：a 授業の振り返り b 試験</p>	
3. 履修上の注意	
<p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 積極的に議論に参加すること。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>授業で指示した教材を読み、タスクをしておくこと。</p>	
5. 教科書	
<p>コピー教材を配布する。</p>	
6. 参考書	
7. 成績評価の方法	
<p>試験 30% 授業参加度 30% 課題・小テスト 40%</p>	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN281J
科目名	日本語（2年）精読B
担当者	田代 ひとみ
1. 授業の概要・到達目標 「2年精読・前期」と同様、日本語の論述文の文章構造と論理展開の特性を捉えながらまとまった分量の文章の内容を正確に読み取るための訓練を行う。この授業では、単に文法力の強化・語彙の拡充・読み能力の進展を図るだけでなく、受講者は自らの関心・目的に沿ってさまざまな種類の文章を読み、その内容を主体的・批判的に読み解き、その内容に基づいた評論やディスカッションを行うことが求められる。 到達目標は緻密な読解をふまえ、大学のアカデミックな活動に問題なく参加できるようになることである。	
2. 授業内容 第1回：a インTRODクシヨン b 読解のポイント 第2回：a 発表の方法2 b 読解1 第3回：a 発表の方法3 b 読解1 第4回：a 発表1 b 読解1 第5回：a 発表2 b 読解2 第6回：a 発表3 b 読解2 第7回：a 発表4 b 読解2 第8回：a 発表5 b 読解3 第9回：a 発表6 b 読解3 第10回：a 発表7 b 読解3 第11回：a 発表8 b 読解4 第12回：a 発表9 b 読解4 第13回：a 発表10 b 読解4 第14回：a 授業の振り返り b 試験	
3. 履修上の注意 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 積極的に議論に参加すること。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で指示した教材を読み、タスクの準備をしておくこと。	
5. 教科書 コピー教材を配布する。	
6. 参考書	
7. 成績評価の方法 試験 30% 授業参加度 30% 課題・小テスト 40%	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN281J
科目名	日本語（2年）精読A
担当者	中沢 佐企子
1. 授業の概要・到達目標	
<p>この授業では、大学での勉学に不可欠な日本語の技能のうち、特に、文章を深く理解するための高度な読解力を身につけることを主たる目的とする。</p> <p>単に文法や語彙の拡充や読み能力の進展を図るだけでなく、論述文の文章構造と論理展開の特性を正確に捉え、習熟するための練習を中心に授業展開することにより、教養課程におけるテキスト・専門書の読解に必要となる日本語力を育成する。</p>	
2. 授業内容	
<p>授業では、内容的にまとまりのある文章をテキストとして使用し、内容に関する質疑応答とディスカッションの形で進めていく。内容についての質問には、ただ、本文を読み上げるだけではなく、自分の言葉で内容をうまくまとめて答える練習等を行う。試験の前の回の授業で小テストを行う。</p> <p>第1回：イントロダクション、読解練習1（質疑による内容確認、発表）</p> <p>第2回：読解練習2（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表）</p> <p>第3回：読解練習3（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表）</p> <p>第4回：読解練習4（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表）</p> <p>第5回：読解練習5（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表）</p> <p>第6回：小テスト、読解練習6（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、発表）</p> <p>第7回：まとめ・中間試験</p> <p>第8回：読解練習7（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表）</p> <p>第9回：読解練習8（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表）</p> <p>第10回：読解練習9（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表）</p> <p>第11回：読解練習10（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表）</p> <p>第12回：読解練習11（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表）</p> <p>第13回：小テスト、読解練習12（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、発表）</p> <p>第14回：まとめ・期末試験</p>	
3. 履修上の注意	
<p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。</p> <p>2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。</p> <p>3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。</p> <p>4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。</p> <p>5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。</p> <p>6) 前もって配布された教材はきちんと予習してくること。教材は一度しか配布しない。</p> <p>7) 授業時には、積極的に参加することが重要である。積極性と協調性を重視し、答えでは、わかりやすさを重視する。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>教材は前もって配布するので、予習として、内容を読み、漢字や語彙等を調べておくこと。また、授業以外でも新聞やニュース等に目を通しておくことが望ましい。</p>	
5. 教科書	
<p>使用しない。プリント教材。</p>	
6. 参考書	
<p>使用しない。</p>	
7. 成績評価の方法	
<p>試験（中間・期末） 50%、小テスト 20%、平常点 30%</p> <p>小テストでは漢字の読み方と語彙・表現の意味の確認を行う。平常点では、予習、質疑応答での答え方、授業中およびディスカッション・発表時の積極性・協調性・参加度等を評価する。</p> <p>なお、学生が全員、対面授業を受ける場合は上記のように評価するが、オンラインで受講する学生がいる場合は、上記の評価を以下のように変更する。</p> <p>課題 70%、平常点 30%</p> <p>（試験と小テストは行わない。）</p>	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN281J
科目名	日本語（2年）精読B
担当者	中沢 佐企子
1. 授業の概要・到達目標	
<p>「2年精読・前期」と同様、日本語の論述文の文章構造と論理展開の特性を捉えながらまとまった分量の文章の内容を正確に読み取るための訓練を行う。</p> <p>この授業では、単に文法力の強化・語彙の拡充・読み能力の進展を図るだけでなく、受講者は自らの関心・目的に沿ってさまざまな種類の文章を読み、その内容を主体的・批判的に読み解き、その内容に基づいた評論やディスカッションを行うことが求められる。</p>	
2. 授業内容	
<p>授業では、内容的にまとまりのある文章をテキストとして使用し、内容に関する質疑応答とディスカッションの形で進めていく。内容についての質問には、ただ、本文を読み上げるだけではなく、自分の言葉で内容をうまくまとめて答える練習等を行う。試験の前の回の授業で小テストを行う。</p> <p>第1回：イントロダクション、読解練習1（質疑による内容確認、発表）</p> <p>第2回：読解練習2（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表）</p> <p>第3回：読解練習3（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表）</p> <p>第4回：読解練習4（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表）</p> <p>第5回：読解練習5（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表）</p> <p>第6回：小テスト、読解練習6（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、発表）</p> <p>第7回：まとめ・中間試験</p> <p>第8回：読解練習7（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表）</p> <p>第9回：読解練習8（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表）</p> <p>第10回：読解練習9（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表）</p> <p>第11回：読解練習10（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表）</p> <p>第12回：読解練習11（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表）</p> <p>第13回：小テスト、読解練習12（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、発表）</p> <p>第14回：まとめ・期末試験</p>	
3. 履修上の注意	
<ol style="list-style-type: none"> 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 6) 前もって配布された教材はきちんと予習してくること。教材は一度しか配布しない。 7) 授業時には、積極的に参加することが重要である。積極性と協調性を重視し、答えでは、わかりやすさを重視する。 	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>教材は前もって配布するので、予習として、内容を読み、漢字や語彙等を調べておくこと。また、授業以外でも新聞やニュース等に目を通しておくことが望ましい。</p>	
5. 教科書	
<p>使用しない。プリント教材。</p>	
6. 参考書	
<p>使用しない。</p>	
7. 成績評価の方法	
<p>試験（中間・期末） 50%、小テスト 20%、平常点 30%</p> <p>小テストでは漢字の読み方と語彙・表現の意味の確認を行う。平常点では、予習、質疑応答での答え方、授業中およびディスカッション・発表時の積極性・協調性・参加度等を評価する。</p> <p>なお、学生が全員、対面授業を受ける場合は上記のように評価するが、オンラインで受講する学生がいる場合は、上記の評価を以下のように変更する。</p> <p>課題 70%、平常点 30%</p> <p>（試験と小テストは行わない。）</p>	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN281J
科目名	日本語（2年）精読A
担当者	半田 淳子
1. 授業の概要・到達目標	
<p>本授業は「精読」の授業であり、教材を深く読み込み、様々なテーマについて多角的な視点から議論し批評する。個人で考えるだけでなく、グループ内で話し合うことを通じて、自らの意見を再考する。結果をレポートにまとめたり、プレゼンテーションをしたりすることで、それぞれの専門分野で役に立つ日本語の総合的な能力の育成を目指している。授業内の活動のほかに、宿題（ワークシート）やクイズ、関連するトピックについてのプレゼンテーション（あるいは、レポート）などの課題がある。</p>	
2. 授業内容	
<p>この授業では、大学での勉学に不可欠な日本語の技能のうち、特に、文章を深く理解するための高度な読解力を身につけることを主たる目的とする。</p> <p>単に文法や語彙の拡充や読み能力の進展を図るだけでなく、論述文の文章構造と論理展開の特性を正確に捉え、習熟するための練習を中心に授業展開することにより、教養課程におけるテキスト・専門書の読解に必要な日本語力を育成する。</p> <p>第1回：授業の内容、進め方、評価についてのイントロダクション 第2回～第7回：クイズ、教材①～③の読解、Q&A、ワークシート、ディスカッション、発表 第8回～第13回：クイズ、教材④～⑥の読解、Q&A、ワークシート、ディスカッション、発表 第14回：今学期の振り返り、期末試験</p> <p>* 内容や進め方は変更することがある。詳細は、第1回目のガイダンスで説明するので、必ず出席すること。</p>	
3. 履修上の注意	
<ol style="list-style-type: none"> 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>予習や復習として、ワークシートや読み物教材（副教材を含む）を課す。</p> <p>2週間に1度の割合でクイズ（語彙・漢字）をするので、そのための自宅学習も必要である。</p>	
5. 教科書	
<p>教科書は使用しない。</p> <p>批判的な思考力が育成できるような精読のための教材を用意する。</p> <p>必要に応じて、補助教材も配布する。</p>	
6. 参考書	
<p>授業中に随時、紹介する。</p>	
7. 成績評価の方法	
<p>授業への参加度（ディスカッションや質疑応答を含む）：10%</p> <p>クイズ（主として漢字、語彙等）：10%</p> <p>宿題（ワークシート等）：10%</p> <p>プレゼンテーション（資料の作成も含む）など：10%</p> <p>期末テスト：60%</p> <p>* 合計で60%以上が合格である。</p>	
8. その他	
<p>授業中は積極的に発言し、教室活動に参加すること。</p> <p>配布された教材・プリントを紛失しないこと。</p>	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN281J
科目名	日本語（2年）精読B
担当者	半田 淳子
1. 授業の概要・到達目標	
<p>本授業は「精読」の授業であり、教材を深く読み込み、様々なテーマについて多角的な視点から議論し批評する。個人で考えるだけでなく、グループ内で話し合うことを通じて、自らの意見を再考する。結果をレポートにまとめたり、プレゼンテーションをしたりすることで、それぞれの専門分野で役に立つ日本語の総合的な能力の育成を目指している。授業内の活動のほかに、宿題（ワークシート）やクイズ、関連するトピックについてのプレゼンテーション（あるいは、レポート）などの課題がある。</p>	
2. 授業内容	
<p>「2年精読・前期」と同様、日本語の論述文の文章構造と論理展開の特性を捉えながら、まとまった分量の文章の内容を正確に読み取るための訓練を行う。</p> <p>この授業では、単に文法力の強化・語彙の拡充・読み能力の進展を図るだけでなく、受講者は自らの関心・目的に沿ってさまざまな種類の文章を読み、その内容を主体的・批判的に読み解き、その内容に基づいた評論やディスカッションを行うことが求められる。</p> <p>第1回：授業の内容、進め方、評価についてのイントロダクション 第2回～第7回：クイズ、教材①～③の読解、Q&A、ワークシート、ディスカッション、発表 第8回～第13回：クイズ、教材④～⑥の読解、Q&A、ワークシート、ディスカッション、発表 第14回：今学期の振り返り、期末試験</p> <p>* 内容や進め方は変更することがある。詳細は、第1回目のガイダンスで説明するので、必ず出席すること。</p>	
3. 履修上の注意	
<p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>予習や復習として、ワークシートや読み物教材を課す。 2週間に1度の割合でクイズ（語彙・漢字）をするので、そのための自宅学習も必要である。</p>	
5. 教科書	
<p>教科書は使用しない。 批判的な思考力が育成できるような精読のための教材を用意する。 必要に応じて、補助教材も配布する。</p>	
6. 参考書	
<p>授業中に随時、紹介する。</p>	
7. 成績評価の方法	
<p>授業への参加度（ディスカッションや質疑応答を含む）：10% クイズ（主として漢字、語彙等）：10% 宿題（ワークシート等）：10% プレゼンテーション（資料の作成も含む）など：10% 期末テスト：60% * 合計で60%以上が合格である。</p>	
8. その他	
<p>授業中は積極的に発言し、教室活動に参加すること。 配布された教材・プリントを紛失しないこと。</p>	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN281J
科目名	日本語（2年）精読A
担当者	中沢 佐企子
1. 授業の概要・到達目標	
<p>この授業では、大学での勉学に不可欠な日本語の技能のうち、特に、文章を深く理解するための高度な読解力を身につけることを主たる目的とする。</p> <p>単に文法や語彙の拡充や読み能力の進展を図るだけでなく、論述文の文章構造と論理展開の特性を正確に捉え、習熟するための練習を中心に授業展開することにより、教養課程におけるテキスト・専門書の読解に必要となる日本語力を育成する。</p>	
2. 授業内容	
<p>授業では、内容的にまとまりのある文章をテキストとして使用し、内容に関する質疑応答とディスカッションの形で進めていく。内容についての質問には、ただ、本文を読み上げるだけではなく、自分の言葉で内容をうまくまとめて答える練習等を行う。試験の前の回の授業で小テストを行う。</p> <p>第1回：イントロダクション、読解練習1（質疑による内容確認、発表）</p> <p>第2回：読解練習2（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表）</p> <p>第3回：読解練習3（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表）</p> <p>第4回：読解練習4（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表）</p> <p>第5回：読解練習5（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表）</p> <p>第6回：小テスト、読解練習6（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、発表）</p> <p>第7回：まとめ・中間試験</p> <p>第8回：読解練習7（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表）</p> <p>第9回：読解練習8（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表）</p> <p>第10回：読解練習9（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表）</p> <p>第11回：読解練習10（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表）</p> <p>第12回：読解練習11（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表）</p> <p>第13回：小テスト、読解練習12（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、発表）</p> <p>第14回：まとめ・期末試験</p>	
3. 履修上の注意	
<ol style="list-style-type: none"> 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 6) 前もって配布された教材はきちんと予習してくること。教材は一度しか配布しない。 7) 授業時には、積極的に参加することが重要である。積極性と協調性を重視し、答えでは、わかりやすさを重視する。 	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>教材は前もって配布するので、予習として、内容を読み、漢字や語彙等を調べておくこと。また、授業以外でも新聞やニュース等に目を通しておくことが望ましい。</p>	
5. 教科書	
<p>使用しない。プリント教材。</p>	
6. 参考書	
<p>使用しない。</p>	
7. 成績評価の方法	
<p>試験（中間・期末） 50%、小テスト 20%、平常点 30%</p> <p>小テストでは漢字の読み方と語彙・表現の意味の確認を行う。平常点では、予習、質疑応答での答え方、授業中およびディスカッション・発表時の積極性・協調性・参加度等を評価する。</p> <p>なお、学生が全員、対面授業を受ける場合は上記のように評価するが、オンラインで受講する学生がいる場合は、上記の評価を以下のように変更する。</p> <p>課題 70%、平常点 30%</p> <p>（試験と小テストは行わない。）</p>	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN281J
科目名	日本語（2年）精読B
担当者	中沢 佐企子
1. 授業の概要・到達目標 「2年精読・前期」と同様、日本語の論述文の文章構造と論理展開の特性を捉えながらまとまった分量の文章の内容を正確に読み取るための訓練を行う。 この授業では、単に文法力の強化・語彙の拡充・読み能力の進展を図るだけでなく、受講者は自らの関心・目的に沿ってさまざまな種類の文章を読み、その内容を主体的・批判的に読み解き、その内容に基づいた評論やディスカッションを行うことが求められる。	
2. 授業内容 授業では、内容的にまとまりのある文章をテキストとして使用し、内容に関する質疑応答とディスカッションの形で進めていく。内容についての質問には、ただ、本文を読み上げるだけではなく、自分の言葉で内容をうまくまとめて答える練習等を行う。試験の前の回の授業で小テストを行う。 第1回：イントロダクション、読解練習1（質疑による内容確認、発表） 第2回：読解練習2（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表） 第3回：読解練習3（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表） 第4回：読解練習4（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表） 第5回：読解練習5（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表） 第6回：小テスト、読解練習6（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、発表） 第7回：まとめ・中間試験 第8回：読解練習7（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表） 第9回：読解練習8（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表） 第10回：読解練習9（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表） 第11回：読解練習10（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表） 第12回：読解練習11（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、ディスカッション・発表） 第13回：小テスト、読解練習12（質疑による内容確認、語彙・表現の確認、発表） 第14回：まとめ・期末試験	
3. 履修上の注意 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 6) 前もって配布された教材はきちんと予習してくること。教材は一度しか配布しない。 7) 授業時には、積極的に参加することが重要である。積極性と協調性を重視し、答えでは、わかりやすさを重視する。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教材は前もって配布するので、予習として、内容を読み、漢字や語彙等を調べておくこと。また、授業以外でも新聞やニュース等に目を通しておくことが望ましい。	
5. 教科書 使用しない。プリント教材。	
6. 参考書 使用しない。	
7. 成績評価の方法 試験（中間・期末） 50%、小テスト 20%、平常点 30% 小テストでは漢字の読み方と語彙・表現の意味の確認を行う。平常点では、予習、質疑応答での答え方、授業中およびディスカッション・発表時の積極性・協調性・参加度等を評価する。 なお、学生が全員、対面授業を受ける場合は上記のように評価するが、オンラインで受講する学生がいる場合は、上記の評価を以下のように変更する。 課題 70%、平常点 30% （試験と小テストは行わない。）	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN281J
科目名	日本語（2年）精読A
担当者	坂東 実子
1. 授業の概要・到達目標	
<p>大学での勉学に必要な、整理しながら読む力、精密な読解力を養う。文学的文章、評論的文章（自然科学、社会科学、人文科学）を深く読み、文の構造や論理展開の仕方を学び、的確に理解する練習を行う。音読を通して文章のリズムを身につける。</p> <p>また、各課の文章について語彙を理解し読解した後に、「わかったこと」、「考えたこと」などをワークシートにまとめて提出し、翌週発表する。最後に、テーマを一つ選んでさらに深く考察するショートレポートを作成し、プレゼンする。</p>	
2. 授業内容	
<p>第1回：イントロダクション、教材1を読む（内容理解）、ワークシート1記入・提出</p> <p>第2回：教材1についてワークシート1に書いたことを各自発表。教材2を読む（内容理解）、ワークシート2記入・提出</p> <p>第3回：教材2についてワークシート2に書いたことを各自発表。教材2を読む（内容理解）、ワークシート3記入・提出</p> <p>第4回：教材3についてワークシート3に書いたことを各自発表。教材2を読む（内容理解）、ワークシート4記入・提出</p> <p>第5回：教材4についてワークシート4に書いたことを各自発表。教材2を読む（内容理解）、ワークシート5記入・提出</p> <p>第6回：教材5についてワークシート5に書いたことを各自発表。教材2を読む（内容理解）、ワークシート6記入・提出</p> <p>第7回：教材6についてワークシート6に書いたことを各自発表。教材2を読む（内容理解）、ワークシート7記入・提出</p> <p>第8回：教材7についてワークシート7に書いたことを各自発表。教材2を読む（内容理解）、ワークシート8記入・提出</p> <p>第9回：教材8についてワークシート8に書いたことを各自発表。教材2を読む（内容理解）、ワークシート9記入・提出</p> <p>第10回：教材9についてワークシート9に書いたことを各自発表。教材2を読む（内容理解）、ワークシート10記入・提出</p> <p>第11回：教材10についてワークシート10に書いたことを各自発表。教材2を読む（内容理解）、ワークシート11記入・提出</p> <p>第12回：教材11についてワークシート11に書いたことを各自発表。レポートについて。レポート提出。</p> <p>第13回：レポートプレゼン1</p> <p>第14回：レポートプレゼン2、一人一言、まとめ</p>	
3. 履修上の注意	
<p>様々なテーマについての新書レベルの批評・論説文、文学教材、講演・スピーチなどを読み、毎回、その文章について、「初めて知った語彙・漢字」「わかったこと」「考えたこと」をワークシートに記入して2日後までに提出。</p> <p>前週のワークシートの添削を受け取り、授業で「考えたこと」を発表。</p> <p>この繰り返しで11のテーマを取り上げる。</p> <p>「考えたこと」とは、ただ理解するだけでなく、「同様のことはAについても言えるだろう」、「日本ではこのようなことが起きているが、自分の国ではどうだろう」、「問題解決のための工夫の良いアイディアはないだろうか」などで、他学生の考えを聴く中で、より能動的に考える習慣を身につけて行く。</p> <p>【必修日本語科目共通事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>Oh-o!meiji に毎回の配布物をUPするので読んでくること。ワークシートを講義の2日後までに提出。翌週に添削されて戻って来たワークシートをもとに発表するので、心の準備をする。</p>	
5. 教科書	
なし。各種教材はその都度配布。	
6. 参考書	
使用しない	
7. 成績評価の方法	
<p>ワークシート11回分（各回、提出遅れは2点減点、その他内容不備による減点あり）</p> <p>レポート（A4のテンプレート1枚分。11のテーマの中から特に興味をもったものについて。提出遅れは5点減点、その他内容不備による減点あり）</p> <p>100点満点から、減点分を引いた点数で評価する。</p>	
8. その他	
<p>関心のあるテーマのリクエストにも応じます。</p> <p>昨年度は「ゆとり教育」「暗い小説」のリクエストがありました。</p> <p>連絡先：bando25@gmail.com</p>	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN281J
科目名	日本語（2年）精読B
担当者	坂東 実子
1. 授業の概要・到達目標	
<p>大学での勉学に必要な、整理しながら読む力、精密な読解力を養う。文学的文章、評論的文章（自然科学、社会科学、人文科学）を深く読み、文の構造や論理展開の仕方を学び、的確に理解する練習を行う。音読を通して文章のリズムを身につける。</p> <p>また、各課の文章について語彙を理解し読解した後に、「わかったこと」、「考えたこと」などをワークシートにまとめて提出し、翌週発表する。最後に、テーマを一つ選んでさらに深く考察するショートレポートを作成し、プレゼンする。</p>	
2. 授業内容	
<p>第1回：イントロダクション、教材1を読む（内容理解）、ワークシート1記入・提出</p> <p>第2回：教材1についてワークシート1に書いたことを各自発表。教材2を読む（内容理解）、ワークシート2記入・提出</p> <p>第3回：教材2についてワークシート2に書いたことを各自発表。教材2を読む（内容理解）、ワークシート3記入・提出</p> <p>第4回：教材3についてワークシート3に書いたことを各自発表。教材2を読む（内容理解）、ワークシート4記入・提出</p> <p>第5回：教材4についてワークシート4に書いたことを各自発表。教材2を読む（内容理解）、ワークシート5記入・提出</p> <p>第6回：教材5についてワークシート5に書いたことを各自発表。教材2を読む（内容理解）、ワークシート6記入・提出</p> <p>第7回：教材6についてワークシート6に書いたことを各自発表。教材2を読む（内容理解）、ワークシート7記入・提出</p> <p>第8回：教材7についてワークシート7に書いたことを各自発表。教材2を読む（内容理解）、ワークシート8記入・提出</p> <p>第9回：教材8についてワークシート8に書いたことを各自発表。教材2を読む（内容理解）、ワークシート9記入・提出</p> <p>第10回：教材9についてワークシート9に書いたことを各自発表。教材2を読む（内容理解）、ワークシート10記入・提出</p> <p>第11回：教材10についてワークシート10に書いたことを各自発表。教材2を読む（内容理解）、ワークシート11記入・提出</p> <p>第12回：教材11についてワークシート11に書いたことを各自発表。レポートについて。レポート提出。</p> <p>第13回：レポートプレゼン1</p> <p>第14回：レポートプレゼン2、一人一言、まとめ</p>	
3. 履修上の注意	
<p>様々なテーマについての新書レベルの批評・論説文、文学教材、講演・スピーチなどを読み、毎回、その文章について、「初めて知った語彙・漢字」「わかったこと」「考えたこと」をワークシートに記入して2日後までに提出。</p> <p>前週のワークシートの添削を受け取り、授業で「考えたこと」を発表。</p> <p>この繰り返しで11のテーマを取り上げる。</p> <p>「考えたこと」とは、ただ理解するだけでなく、「同様のことはAについても言えるだろう」、「日本ではこのようなことが起きているが、自分の国ではどうだろう」、「問題解決のための工夫の良いアイディアはないだろうか」などで、他学生の考えを聴く中で、より能動的に考える習慣を身につけて行く。</p> <p>【必修日本語科目共通事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>Oh-o!meiji に毎回の配布物をUPするので読んでくること。ワークシートを講義の2日後までに提出。翌週に添削されて戻って来たワークシートをもとに発表するので、心の準備をする。</p>	
5. 教科書	
なし。各種教材はその都度配布。	
6. 参考書	
使用しない	
7. 成績評価の方法	
<p>ワークシート11回分（各回、提出遅れは2点減点、その他内容不備による減点あり）</p> <p>レポート（A4のテンプレート1枚分。11のテーマの中から特に興味をもったものについて。提出遅れは5点減点、その他内容不備による減点あり）</p> <p>100点満点から、減点分を引いた点数で評価する。</p>	
8. その他	
関心のあるテーマのリクエストにも応じます。	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN281J
科目名	日本語（2年）精読A
担当者	足立 章子
1. 授業の概要・到達目標	
<p>この授業では、日本語の文章の精読を行う。内容を深く理解し、筆者の意図を把握し、文字で書かれていないことも推測して行う。読んだ内容を整理し、内容のレビューを書き、読んだ内容について意見を述べるなど、読んだ内容を自分の考えの補助に使用するためのスキルを学ぶ。読みのスキルだけではなく、書く・話すを通じて、相手に伝えるアカデミック・スキルの習得を目指す。</p>	
2. 授業内容	
<p>第1回：a：イントロダクション b：語彙力</p> <p>第2回：序章</p> <p>第3回：第1章（1）読みのプロセス</p> <p>第4回：第1章（2）楽しく読む</p> <p>第5回：第2章（1）読む技術</p> <p>第6回：第2章（2）読解ストラテジー</p> <p>第7回：読み物（1）</p> <p>第8回：第3章（1）話題ストラテジー</p> <p>第9回：第3章（2）スキーマ</p> <p>第10回：第4章（1）取捨選択ストラテジー</p> <p>第11回：第4章（2）文頭文末</p> <p>第12回：第5章（1）視覚化ストラテジー</p> <p>第13回：第5章（2）視点の違い</p> <p>第14回：a：読み物（2） b：講義全体の振り返りとまとめ</p>	
3. 履修上の注意	
<p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。</p> <p>2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。</p> <p>3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。</p> <p>4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。</p> <p>5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>授業前に、予定の章に目を通し、読めない漢字、知らない語彙などを確認しておくこと。</p>	
5. 教科書	
<p>石黒圭『「読む」技術 速読・精読・味読の力をつける』光文社新書</p>	
6. 参考書	
<p>特になし。</p>	
7. 成績評価の方法	
<p>授業内課題：40%</p> <p>授業外課題：10%</p> <p>クイズ：10%</p> <p>期末レポート：20%</p> <p>授業参加の積極性：出席、授業態度の積極性など 20%</p> <p>総計で59%以下の得点は不合格となる。また、単位取得には原則として授業数の2/3以上の出席が必要である。</p>	
8. その他	
<p>教科書は2回目の授業前までに準備すること。</p> <p>授業中に情報をまとめたり、考えをまとめたりするので、ノート・レポート用紙・ノートブック・タブレットなど自分で使いやすいものでよいので、メモや書いた情報を共有できるツールを持ってくること。</p>	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN281J
科目名	日本語（2年）精読B
担当者	足立 章子
1. 授業の概要・到達目標	
<p>この授業では、日本語の文章の精読を行う。内容を深く理解し、筆者の意図を把握し、文字で書かれていないことも推測して行う。読んだ内容を整理し、内容のレビューを書き、読んだ内容について意見を述べるなど、読んだ内容を自分の考えの補助に使用するためのスキルを学ぶ。読みのスキルだけではなく、書く・話すを通じて、相手に伝えるアカデミック・スキルの習得を目指す。</p>	
2. 授業内容	
<p>第1回：a：イントロダクション b：論理的構造</p> <p>第2回：第6章（1）予測ストラテジー</p> <p>第3回：第6章（2）展開</p> <p>第4回：第7章（1）文脈ストラテジー</p> <p>第5回：第7章（2）結束性</p> <p>第6回：読み物（1）</p> <p>第7回：第8章（1）行間ストラテジー</p> <p>第8回：第8章（2）背景知識</p> <p>第9回：第8章（3）表現意図</p> <p>第10回：第9章（1）解釈ストラテジー</p> <p>第11回：第9章（2）創造的</p> <p>第12回：第10章（1）記憶ストラテジー</p> <p>第13回：第10章（2）換言・要約</p> <p>第14回：a：読み物（2） b：講義全体の振り返りとまとめ</p>	
3. 履修上の注意	
<p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。</p> <p>2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。</p> <p>3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。</p> <p>4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。</p> <p>5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>授業前に、予定の章に目を通し、読めない漢字、知らない語彙などを確認しておくこと。</p>	
5. 教科書	
<p>石黒圭『「読む」技術 速読・精読・味読の力をつける』光文社新書</p>	
6. 参考書	
<p>特になし。</p>	
7. 成績評価の方法	
<p>授業内課題：40%</p> <p>授業外課題：10%</p> <p>クイズ：10%</p> <p>期末レポート：20%</p> <p>授業参加の積極性：出席、授業態度の積極性など 20%</p> <p>総計で59%以下の得点は不合格となる。また、単位取得には原則として授業数の2/3以上の出席が必要である。</p>	
8. その他	
<p>教科書は2回目の授業前までに準備すること。</p> <p>授業中に情報をまとめたり、考えをまとめたりするので、ノート・レポート用紙・ノートブック・タブレットなど自分で使いやすいものでよいので、メモや書いた情報を共有できるツールを持ってくること。</p>	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN281J
科目名	日本語（2年）精読A
担当者	酒井 知子
1. 授業の概要・到達目標 日本語の高度な運用力を伸ばすため、様々なタイプの文章を日本語によって正確に読解することの訓練を行う。また、授業で口頭発表とその資料となるレジュメの作成を行うことを通し、大学におけるゼミの発表や就職後に必要となるプレゼンテーション能力・論理力の基礎を学習する。大学における口頭発表やレポート作成に必要な日本語能力として、正確で論理的な読解とレジュメ作成のための知識・技術の習得を目標とする。	
2. 授業内容 各回の授業では、精読技術を向上させる練習として、本文の読解、内容把握・自分の意見をまとめたフィードバックシートの提出、担当者による発表、グループワーク等を行う。 第1回：イントロダクション 第2回：練習1（読解、発表、グループワーク） 第3回：練習2（読解、発表、グループワーク） 第4回：練習3（読解、発表、グループワーク） 第5回：練習4（読解、発表、グループワーク） 第6回：練習5（読解、発表、グループワーク） 第7回：練習6（読解、発表、グループワーク） 中間レポート提出 第8回：練習7（読解、発表、グループワーク） 第9回：練習8（読解、発表、グループワーク） 第10回：練習9（読解、発表、グループワーク） 第11回：練習10（読解、発表、グループワーク） 第12回：練習11（読解、発表、グループワーク） 第13回：練習12（読解、発表、グループワーク） 第14回：練習13（読解、発表、グループワーク）・全体振り返り 学期末レポート提出	
3. 履修上の注意 <ul style="list-style-type: none"> ・授業での積極的な取り組みを重視する。グループワーク、クラスワークにも積極的に参加すること。 ・遅刻・欠席等によってフィードバックシートを提出しなかった場合、0点とする。 ・授業中、携帯電話・スマートフォン、タブレット、パソコン等は、授業に関係ないことには使用しないこと。（辞書としての使用と、授業の資料閲覧は可） ・毎回、教科書、日本語辞書（電子辞書等、可）を持ってくること。 ・予習等の家庭学習を必ず行うこと。 【日本語科目共通】 <ul style="list-style-type: none"> ・原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ・40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 ・15分までの電車等の「遅延証明書」は考慮せず、遅刻として記録する。（日常的に遅延するので、時間に余裕をもって通学すること） ・遅刻した場合、来たことをすぐに教員に申し出ること。（申し出ないと出席として記録されない場合がある） ・授業中に無断で退室しないこと。（無断退室が発覚した場合、欠席扱いとなる場合がある。体調不良等のときは教員に申し出ること） 	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：事前に授業範囲の文章をチェックし、表現・語彙等を調べておく。 復習：わからなかった表現・語彙等を復習する。	
5. 教科書 教科書は使用しない。資料を授業時、または Oh-o! Meiji を通じて配布する。	
6. 参考書 必要に応じて授業時に資料を配布する。	
7. 成績評価の方法 レポート（中間・期末）50% フィードバックシート・授業態度 20% 口頭発表（レジュメを含む）30% ※5回以上欠席（40分以上の遅刻で欠席扱い）したものは評価の対象としない ※期末試験を受験しなかったものは評価の対象としない。 ※口頭発表をしなかったものは評価の対象としない。	
8. その他 特になし	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN281J
科目名	日本語（2年）精読B
担当者	酒井 知子
1. 授業の概要・到達目標	
<p>日本語の高度な運用力を伸ばすため、様々なタイプの文章を日本語によって正確に読解することの訓練を行う。また、授業で口頭発表とその資料となるレジュメの作成を行うことを通し、大学におけるゼミの発表や就職後に必要となるプレゼンテーション能力・論理力の基礎を学習する。大学における口頭発表やレポート作成に必要な日本語能力として、正確で論理的な読解とレジュメ作成のための知識・技術の習得を目標とする。</p>	
2. 授業内容	
<p>各回の授業では、精読技術を向上させる練習として、本文の読解、内容把握度・自分の意見をまとめたフィードバックシートの提出、担当者による発表、グループワークを行う。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回：練習1（読解、発表、グループワーク） 第3回：練習2（読解、発表、グループワーク） 第4回：練習3（読解、発表、グループワーク） 第5回：練習4（読解、発表、グループワーク） 第6回：練習5（読解、発表、グループワーク） 第7回：練習6（読解、発表、グループワーク） 中間レポート提出 第8回：練習7（読解、発表、グループワーク） 第9回：練習8（読解、発表、グループワーク） 第10回：練習9（読解、発表、グループワーク） 第11回：練習10（読解、発表、グループワーク） 第12回：練習11（読解、発表、グループワーク） 第13回：練習12（読解、発表、グループワーク） 第14回：練習13 a 全体の振り返り（読解、発表、グループワーク）・全体振り返り 学期末レポート提出</p>	
3. 履修上の注意	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業での積極的な取り組みを重視する。グループワーク、クラスワークにも積極的に参加すること。 ・遅刻・欠席等によってフィードバックシートを提出しなかった場合、0点とする。 ・授業中、携帯電話・スマートフォン、タブレット、パソコン等は、授業に関係ないことには使用しないこと。（辞書としての使用と、授業の資料閲覧は可） ・毎回、教科書、日本語辞書（電子辞書等、可）を持ってくること。 ・予習等の家庭学習を必ず行うこと。 <p>【日本語科目共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ・40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 ・15分までの電車等の「遅延証明書」は考慮せず、遅刻として記録する。（日常的に遅延するので、時間に余裕をもって通学すること） ・遅刻した場合、来たことをすぐに教員に申し出ること。（申し出ないと出席として記録されない場合がある） ・授業中に無断で退室しないこと。（無断退室が発覚した場合、欠席扱いとなる場合がある。体調不良等のときは教員に申し出ること） 	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>予習：事前に授業範囲の文章をチェックし、表現・語彙等を調べておく。 復習：わからなかった表現・語彙等を復習する。</p>	
5. 教科書	
教科書は使用しない。資料を授業時、または Oh-o! Meiji を通じて配布する。	
6. 参考書	
必要に応じて授業時に資料を配布する。	
7. 成績評価の方法	
<p>レポート（中間・期末）50% フィードバックシート・平常 20% 口頭発表（レジュメを含む）30%</p> <p>※5回以上欠席（40分以上の遅刻で欠席扱い）したものは評価の対象としない ※期末試験を受験しなかったものは評価の対象としない。 ※口頭発表をしなかったものは評価の対象としない。</p>	
8. その他	
特になし	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN281J
科目名	日本語（2年）精読A
担当者	酒井 知子
1. 授業の概要・到達目標	
<p>日本語の高度な運用力を伸ばすため、様々なタイプの文章を日本語によって正確に読解することの訓練を行う。また、授業で口頭発表とその資料となるレジュメの作成を行うことを通し、大学におけるゼミの発表や就職後に必要となるプレゼンテーション能力・論理力の基礎を学習する。大学における口頭発表やレポート作成に必要な日本語能力として、正確で論理的な読解とレジュメ作成のための知識・技術の習得を目標とする。</p>	
2. 授業内容	
<p>各回の授業では、精読技術を向上させる練習として、本文の読解、内容把握・自分の意見をまとめたフィードバックシートの提出、担当者による発表、グループワーク等を行う。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回：練習1（読解、発表、グループワーク） 第3回：練習2（読解、発表、グループワーク） 第4回：練習3（読解、発表、グループワーク） 第5回：練習4（読解、発表、グループワーク） 第6回：練習5（読解、発表、グループワーク） 第7回：練習6（読解、発表、グループワーク） 中間レポート提出 第8回：練習7（読解、発表、グループワーク） 第9回：練習8（読解、発表、グループワーク） 第10回：練習9（読解、発表、グループワーク） 第11回：練習10（読解、発表、グループワーク） 第12回：練習11（読解、発表、グループワーク） 第13回：練習12（読解、発表、グループワーク） 第14回：練習13（読解、発表、グループワーク）・全体の振り返り 学期末レポート</p>	
3. 履修上の注意	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業での積極的な取り組みを重視する。グループワーク、クラスワークにも積極的に参加すること。 ・遅刻・欠席等によってフィードバックシートを提出しなかった場合、0点とする。 ・授業中、携帯電話・スマートフォン、タブレット、パソコン等は、授業に関係ないことには使用しないこと。（辞書としての使用と、授業の資料閲覧は可） ・毎回、教科書、日本語辞書（電子辞書等、可）を持ってくること。 ・予習等の家庭学習を必ず行うこと。 <p>【日本語科目共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ・40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 ・15分までの電車等の「遅延証明書」は考慮せず、遅刻として記録する。（日常的に遅延するので、時間に余裕をもって通学すること） ・遅刻した場合、来たことをすぐに教員に申し出ること。（申し出ないと出席として記録されない場合がある） ・授業中に無断で退室しないこと。（無断退室が発覚した場合、欠席扱いとなる場合がある。体調不良等のときは教員に申し出ること） 	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>予習：事前に授業範囲の文章をチェックし、表現・語彙等を調べておく。 復習：わからなかった表現・語彙等を復習する。</p>	
5. 教科書	
教科書は使用しない。資料を授業時、または Oh-o! Meiji を通じて配布する。	
6. 参考書	
必要に応じて授業時に資料を配布する。	
7. 成績評価の方法	
<p>レポート（中間・期末）50% フィードバックシート・平常 20% 口頭発表（レジュメを含む）30% ※5回以上欠席（40分以上の遅刻で欠席扱い）したものは評価の対象としない ※期末試験を受験しなかったものは評価の対象としない。 ※口頭発表をしなかったものは評価の対象としない。</p>	
8. その他	
特になし	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN281J
科目名	日本語（2年）精読B
担当者	酒井 知子
1. 授業の概要・到達目標	
<p>日本語の高度な運用力を伸ばすため、様々なタイプの文章を日本語によって正確に読解することの訓練を行う。また、授業で口頭発表とその資料となるレジユメの作成を行うことを通し、大学におけるゼミの発表や就職後に必要となるプレゼンテーション能力・論理力の基礎を学習する。大学における口頭発表やレポート作成に必要な日本語能力として、正確で論理的な読解とレジユメ作成のための知識・技術の習得を目標とする。</p>	
2. 授業内容	
<p>各回の授業では、精読技術を向上させる練習として、本文の読解、内容把握度・自分の意見をまとめたフィードバックシートの提出、担当者による発表、グループワーク等を行う。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回：練習1（読解、発表、グループワーク） 第3回：練習2（読解、発表、グループワーク） 第4回：練習3（読解、発表、グループワーク） 第5回：練習4（読解、発表、グループワーク） 第6回：練習5（読解、発表、グループワーク） 第7回：練習6（読解、発表、グループワーク） 中間レポート提出 第8回：練習7（読解、発表、グループワーク） 第9回：練習8（読解、発表、グループワーク） 第10回：練習9（読解、発表、グループワーク） 第11回：練習10（読解、発表、グループワーク） 第12回：練習11（読解、発表、グループワーク） 第13回：練習12（読解、発表、グループワーク） 第14回：練習13（読解、発表、グループワーク） 全体の振り返り 学期末レポート提出</p>	
3. 履修上の注意	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業での積極的な取り組みを重視する。グループワーク、クラスワークにも積極的に参加すること。 ・遅刻・欠席等によってフィードバックシートを提出しなかった場合、0点とする。 ・授業中、携帯電話・スマートフォン、タブレット、パソコン等は、授業に関係ないことには使用しないこと。（辞書としての使用と、授業の資料閲覧は可） ・毎回、教科書、日本語辞書（電子辞書等、可）を持ってくること。 ・予習等の家庭学習を必ず行うこと。 <p>【日本語科目共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ・40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 ・15分までの電車等の「遅延証明書」は考慮せず、遅刻として記録する。（日常的に遅延するので、時間に余裕をもって通学すること） ・遅刻した場合、来たことをすぐに教員に申し出ること。（申し出ないと出席として記録されない場合がある） ・授業中に無断で退室しないこと。（無断退室が発覚した場合、欠席扱いとなる場合がある。体調不良等のときは教員に申し出ること） 	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>予習：事前に授業範囲の文章をチェックし、表現・語彙等を調べておく。</p> <p>復習：わからなかった表現・語彙等を復習する。</p>	
5. 教科書	
教科書は使用しない。資料を授業時、または Oh-o! Meiji を通じて配布する。	
6. 参考書	
必要に応じて授業時に資料を配布する。	
7. 成績評価の方法	
<p>レポート（中間・期末）50%</p> <p>フィードバックシート・平常 20%</p> <p>口頭発表（レジユメを含む）30%</p> <p>※5回以上欠席（40分以上の遅刻で欠席扱い）したものは評価の対象としない</p> <p>※期末試験を受験しなかったものは評価の対象としない。</p> <p>※口頭発表をしなかったものは評価の対象としない。</p>	
8. その他	
特になし	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN281J
科目名	日本語（2年）精読A
担当者	半田 淳子
1. 授業の概要・到達目標	
<p>本授業は「精読」の授業であり、教材を深く読み込み、様々なテーマについて多角的な視点から議論し批評する。個人で考えるだけでなく、グループ内で話し合うことを通じて、自らの意見を再考する。結果をレポートにまとめたり、プレゼンテーションをしたりすることで、それぞれの専門分野で役に立つ日本語の総合的な能力の育成を目指している。授業内の活動のほかに、宿題（ワークシート）やクイズ、関連するトピックについてのプレゼンテーション（あるいは、レポート）などの課題がある。</p>	
2. 授業内容	
<p>この授業では、大学での勉学に不可欠な日本語の技能のうち、特に、文章を深く理解するための高度な読解力を身につけることを主たる目的とする。</p> <p>単に文法や語彙の拡充や読み能力の進展を図るだけでなく、論述文の文章構造と論理展開の特性を正確に捉え、習熟するための練習を中心に授業展開することにより、教養課程におけるテキスト・専門書の読解に必要な日本語力を育成する。</p> <p>第1回：授業の内容、進め方、評価についてのイントロダクション 第2回～第7回：クイズ、教材①～③の読解、Q&A、ワークシート、ディスカッション、発表 第8回～第13回：クイズ、教材④～⑥の読解、Q&A、ワークシート、ディスカッション、発表 第14回：今学期の振り返り、期末試験</p> <p>* 内容や進め方は変更することがある。詳細は、第1回目のガイダンスで説明するので、必ず出席すること。</p>	
3. 履修上の注意	
<ol style="list-style-type: none"> 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>予習や復習として、ワークシートや読み物教材（副教材を含む）を課す。</p> <p>2週間に1度の割合でクイズ（語彙・漢字）をするので、そのための自宅学習も必要である。</p>	
5. 教科書	
<p>教科書は使用しない。</p> <p>批判的な思考力が育成できるような精読のための教材を用意する。</p> <p>必要に応じて、補助教材も配布する。</p>	
6. 参考書	
<p>授業中に随時、紹介する。</p>	
7. 成績評価の方法	
<p>授業への参加度（ディスカッションや質疑応答を含む）：10% クイズ（主として漢字、語彙等）：10% 宿題（ワークシート等）：10% プレゼンテーション（資料の作成も含む）など：10% 期末テスト：60% * 合計で60%以上が合格である。</p>	
8. その他	
<p>授業中は積極的に発言し、教室活動に参加すること。</p> <p>配布された教材・プリントを紛失しないこと。</p>	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN281J
科目名	日本語（2年）精読B
担当者	半田 淳子
1. 授業の概要・到達目標	
<p>本授業は「精読」の授業であり、教材を深く読み込み、様々なテーマについて多角的な視点から議論し批評する。個人で考えるだけでなく、グループ内で話し合うことを通じて、自らの意見を再考する。結果をレポートにまとめたり、プレゼンテーションをしたりすることで、それぞれの専門分野で役に立つ日本語の総合的な能力の育成を目指している。授業内の活動のほかに、宿題（ワークシート）やクイズ、関連するトピックについてのプレゼンテーション（あるいは、レポート）などの課題がある。</p>	
2. 授業内容	
<p>「2年精読・前期」と同様、日本語の論述文の文章構造と論理展開の特性を捉えながら、まとまった分量の文章の内容を正確に読み取るための訓練を行う。</p> <p>この授業では、単に文法力の強化・語彙の拡充・読み能力の進展を図るだけでなく、受講者は自らの関心・目的に沿ってさまざまな種類の文章を読み、その内容を主体的・批判的に読み解き、その内容に基づいた評論やディスカッションを行うことが求められる。</p> <p>第1回：授業の内容、進め方、評価についてのイントロダクション 第2回～第7回：クイズ、教材①～③の読解、Q&A、ワークシート、ディスカッション、発表 第8回～第13回：クイズ、教材④～⑥の読解、Q&A、ワークシート、ディスカッション、発表 第14回：今学期の振り返り、期末試験</p> <p>* 内容や進め方は変更することがある。詳細は、第1回目に説明する。</p>	
3. 履修上の注意	
<ol style="list-style-type: none"> 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>予習や復習として、ワークシートや読み物教材（副教材を含む）を課す。</p> <p>2週間に1度の割合でクイズ（語彙・漢字）をするので、そのための自宅学習も必要である。</p>	
5. 教科書	
<p>教科書は使用しない。</p> <p>批判的な思考力が育成できるような精読のための教材を用意する。</p> <p>必要に応じて、補助教材も配布する。</p>	
6. 参考書	
<p>授業中に随時、紹介する。</p>	
7. 成績評価の方法	
<p>授業への参加度（ディスカッションや質疑応答を含む）：10% クイズ（主として漢字、語彙等）：10% 宿題（ワークシート等）：10% プレゼンテーション（資料の作成も含む）など：10% 期末テスト：60% * 合計で60%以上が合格である。</p>	
8. その他	
<p>授業中は積極的に発言し、教室活動に参加すること。</p> <p>配布された教材・プリントを紛失しないこと。</p>	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN281J
科目名	日本語（2年）精読A
担当者	大木 理恵
1. 授業の概要・到達目標	
この授業では、大学の勉学や活動に必要となる日本語能力、特に、文章を読み込んで内容を深く正確に理解すること、また自らも発信できるような能力を養うことを目標とする。そのために、「精読」に加えて、「語彙の拡充」「発表」「ディスカッション」の活動をする。また、注意深く講義を聴く力を養うために「聴解」も行う。これらの活動を行うことによって、大学でのアカデミックな活動に積極的に参加できるような総合的な日本語能力の向上を目指している。	
2. 授業内容	
<p>第1回：イントロダクション、自己紹介、資料配布</p> <p>第2回：クイズ（1）、精読（1）</p> <p>第3回：クイズ（2）、精読（2）</p> <p>第4回：クイズ（3）、精読（3）</p> <p>第5回：クイズ（4）、精読（4）</p> <p>第6回：クイズ（5）、精読（5）</p> <p>第7回：クイズ（1～5まとめ）、精読（6）</p> <p>第8回：ディスカッション</p> <p>第9回：クイズ（6）、発表（1）、精読（7）</p> <p>第10回：クイズ（7）、発表（2）、精読（8）</p> <p>第11回：クイズ（8）、発表（3）、精読（9）</p> <p>第12回：クイズ（9）、発表（4）、精読（10）、</p> <p>第13回：クイズ（10）、発表（5）、精読（11）</p> <p>第14回：クイズ（6～10まとめ）期末試験、春学期の課題提出</p> <p>* 授業の進み具合によっては内容が変更することもある。</p>	
3. 履修上の注意	
<p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。※特別な理由がある場合には届け出ること。</p> <p>2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。</p> <p>3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。</p> <p>4) 遅刻した場合、教室に入ったらすぐ出席することを担当教員に申し出ること。</p> <p>5) 授業中に無断で退室しないこと。※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること</p> <p>6) クイズは授業の最初に行うので遅刻した場合は受けられない。</p> <p>7) 課題等は指定された提出日時より遅れた場合はマイナス評価となるので注意。</p> <p>8) 授業中、発表者への質問やディスカッションに積極的に参加すること。</p> <p>9) 授業には毎回辞書を持ってくること。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
配布した資料をよく読んで準備をすること。（語彙の意味だけを調べるのではなく、使い方、接続の仕方なども自分で調べること）	
5. 教科書	
使用しない。	
6. 参考書	
授業時に随時紹介する。	
7. 成績評価の方法	
<p>授業への貢献度：20%</p> <p>クイズ：10%</p> <p>課題・発表：30%</p> <p>期末試験・課題レポート：40%</p>	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN281J
科目名	日本語（2年）精読B
担当者	大木 理恵
1. 授業の概要・到達目標	
<p>この授業では、大学の勉学や活動に必要となる日本語能力、特に、文章を読み込んで内容を深く正確に理解すること、また自らも発信できるような能力を養うことを目標とする。そのために、「精読」に加えて、「語彙の拡充」「発表」「ディスカッション」の活動をする。また、注意深く講義を聴く力を養うために「聴解」も行う。これらの活動をすることによって、大学でのアカデミックな活動に積極的に参加できるような総合的な日本語能力の向上を目指している。</p>	
2. 授業内容	
<p>第1回：イントロダクション、資料配布、課題説明 第2回：クイズ（1）、グループ活動（1）、精読（1） 第3回：クイズ（2）、グループ活動（2）、精読（2） 第4回：クイズ（3）、グループ活動（3）、精読（3） 第5回：クイズ（4）、グループ活動（4）、精読（4） 第6回：クイズ（5）、グループ活動（5）、精読（5） 第7回：クイズ（1～5まとめ）、グループ活動（6）、精読（6） 第8回：クイズ（6）、グループ活動（7）、精読（7） 第9回：ディスカッション、 第10回：クイズ（7）、発表（1）、精読（8） 第11回：クイズ（8）、発表（2）、精読（9） 第12回：クイズ（9）、発表（3）、精読（10） 第13回：クイズ（10）、発表（4）、精読（11） 第14回：クイズ（6～10まとめ）、期末試験、秋学期の課題レポート提出</p> <p>* 授業の進み具合は内容が変更することもある。</p>	
3. 履修上の注意	
<p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入った後すぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること 6) クイズは授業の最初に行うので遅刻した場合は受けられない。 7) 課題等は指定された提出日時より遅れた場合はマイナス評価となるので注意。 8) 授業中、発表者への質問やディスカッションに積極的に参加すること。 9) 授業には毎回辞書を持ってこよう。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>配布した資料をよく読んで準備をすること。（語彙の意味だけを調べるのではなく、使い方、接続の仕方なども自分で調べること）</p>	
5. 教科書	
<p>使用しない</p>	
6. 参考書	
<p>授業時に随時紹介する</p>	
7. 成績評価の方法	
<p>授業への貢献度：20% クイズ：10% 課題・発表：30% 期末試験・課題レポート：40%</p>	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN281J
科目名	日本語（2年）速読A
担当者	田代 ひとみ
1. 授業の概要・到達目標	
<p>日本語の高度な運用力を伸ばす訓練の一つとして、さまざまな種類の文章について、その内容をすばやく読みとる練習を中心に行う。また、単に文章の内容を読みとるだけでなく、その概略を要約できるようにする。さらに、書き言葉を用いた文章作成に慣れるように、テキストに関する練習・課題を課す。このほか、毎回、受講者が興味を持った新聞・雑誌記事を発表する活動も行う。</p> <p>到達目標は大学で必要な文章を迅速に的確に読み取り、大学でのアカデミックな活動に問題なく参加できることである。</p>	
2. 授業内容	
<p>第1回：a イントロダクション b 発表の方法 第2回：a 読解1 速読のポイント 第3回：a 発表 b 読解1 第4回：a 発表 b 読解2（クイズ） 第5回：a 発表 b 読解2 第6回：a 発表 b 読解3 第7回：a 発表 b 読解3 第8回：a 発表 b 読解4（クイズ） 第9回：a 発表 b 読解4 第10回：a 発表 b 読解5 第11回：a 発表 b 読解5 第12回：a 発表 b 読解6（クイズ） 第13回：a 発表 b 読解6 第14回：a 授業の振り返り b 試験</p>	
3. 履修上の注意	
<p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 グループワーク・クラス全体での活動を行うので、積極的に議論に参加すること。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>指示された課題の準備をしておくこと。 授業で学んだ語彙・表現の読み方・意味をまとめておくこと</p>	
5. 教科書	
<p>コピー教材を配布する。</p>	
6. 参考書	
7. 成績評価の方法	
<p>試験 30% 授業参加度 30% 課題・小テスト 40%</p>	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN281J
科目名	日本語（2年）速読B
担当者	田代 ひとみ
1. 授業の概要・到達目標	
<p>日本語の高度な運用力を伸ばす訓練の一つとして、いくつかのテーマについて、自主的に調査し、報告する練習を行う。また、そうした練習を通じて、報告に用いる資料（レジュメ）の作成についての知識を習得し、基本的な書式（構成、引用、参考文献、等々）を身につける。</p> <p>さらに、報告されたテーマについて討論を行い、質問とそれに対する応答、意見述べ等を通じて、議論に必要な高度な日本語力を養う。到達目標は大学でのアカデミックな活動に問題なく参加できることである。</p>	
2. 授業内容	
<p>第1回：a インTRODクシヨン b 調査の方法1 第2回：a 調査の方法2 b レジュメの作り方 第3回：a 報告の方法3 b 速読1 第4回：a 発表1 b 速読2（要約作成） 第5回：a 発表2 b 速読3 第6回：a 発表3 b 速読4 第7回：a 発表4 b 速読5（要約作成） 第8回：a 発表5 b 速読6 第9回：a 発表6 b 速読7 第10回：a 発表7 b 速読8（要約作成） 第11回：a 発表8 b 速読9 第12回：a 発表9 b 速読10 第13回：a 発表10 b 速読11（要約作成） 第14回：a 授業の振り返り b 試験</p>	
3. 履修上の注意	
<p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 積極的に議論に参加すること。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>授業で指示した教材を読んでおくこと。</p>	
5. 教科書	
<p>コピー教材を配布する。</p>	
6. 参考書	
7. 成績評価の方法	
<p>試験 30% 授業参加度 30% 課題・小テスト 40%</p>	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN281J
科目名	日本語（2年）速読A
担当者	田代 ひとみ
1. 授業の概要・到達目標	
<p>日本語の高度な運用力を伸ばす訓練の一つとして、さまざまな種類の文章について、その内容をすばやく読みとる練習を中心に行う。また、単に文章の内容を読みとるだけでなく、その概略を要約できるようにする。さらに、書き言葉を用いた文章作成に慣れるように、テキストに関する練習・課題を課す。このほか、毎回、受講者が興味を持った新聞・雑誌記事を発表する活動も行う。</p> <p>到達目標は大学で必要な文章を迅速に的確に読み取り、大学でのアカデミックな活動に問題なく参加できることである。</p>	
2. 授業内容	
<p>第1回：a イントロダクション b 発表の方法 第2回：a 読解1 b 速読のポイント 第3回：a 発表 b 読解1 第4回：a 発表 b 読解2（クイズ） 第5回：a 発表 b 読解2 第6回：a 発表 b 読解3 第7回：a 発表 b 読解3 第8回：a 発表 b 読解4（クイズ） 第9回：a 発表 b 読解4 第10回：a 発表 b 読解5 第11回：a 発表 b 読解5 第12回：a 発表 b 読解6（クイズ） 第13回：a 発表 b 読解6 第14回：a 授業の振り返り b 試験</p>	
3. 履修上の注意	
<p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 グループワーク・クラス全体での活動を行うので、積極的に議論に参加すること。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>指示された課題の準備をしておくこと。 授業で学んだ語彙・表現の読み方・意味をまとめておくこと</p>	
5. 教科書	
<p>コピー教材を配布する。</p>	
6. 参考書	
7. 成績評価の方法	
<p>試験 30% 授業参加度 30% 課題・小テスト 40%</p>	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN281J
科目名	日本語（2年）速読B
担当者	田代 ひとみ
1. 授業の概要・到達目標	
<p>日本語の高度な運用力を伸ばす訓練の一つとして、いくつかのテーマについて、自主的に調査し、報告する練習を行う。また、そうした練習を通じて、報告に用いる資料（レジュメ）の作成についての知識を習得し、基本的な書式（構成、引用、参考文献、等々）を身につける。</p> <p>さらに、報告されたテーマについて討論を行い、質問とそれに対する応答、意見述べ等を通じて、議論に必要な高度な日本語力を養う。到達目標は大学でのアカデミックな活動に問題なく参加できることである。</p>	
2. 授業内容	
<p>第1回：a インTRODクシヨン b 調査の方法1 第2回：a 調査の方法2 b レジュメの作り方 第3回：a 報告の方法3 b 速読1 第4回：a 発表1 b 速読2（要約作成） 第5回：a 発表2 b 速読3 第6回：a 発表3 b 速読4 第7回：a 発表4 b 速読5（要約作成） 第8回：a 発表5 b 速読6 第9回：a 発表6 b 速読7 第10回：a 発表7 b 速読8（要約作成） 第11回：a 発表8 b 速読9 第12回：a 発表9 b 速読10 第13回：a 発表10 b 速読11（要約作成） 第14回：a 授業の振り返り b 試験</p>	
3. 履修上の注意	
<p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 積極的に議論に参加すること。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>授業で指示した教材を読んでおくこと。</p>	
5. 教科書	
<p>コピー教材を配布する。</p>	
6. 参考書	
7. 成績評価の方法	
<p>試験 30% 授業参加度 30% 課題・小テスト 40%</p>	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN281J
科目名	日本語（2年）速読A
担当者	戸村 佳代
1. 授業の概要・到達目標	
<p>新書レベルの一般書を読みこなせるように、文法の知識を深め、書き言葉に用いられる語彙・表現をいっそう増やす。また、接続表現を手がかりに文章構造と論理展開に注目することにより、さまざまな種類の文章をすばやく読みとれるようになることを目指す。</p> <p>さらに、口頭発表の練習を通して、報告資料（レジュメ）の作成に必要な知識・技能を身につける。</p>	
2. 授業内容	
<p>日本語の高度な運用力を伸ばす訓練の一つとして、いくつかのテーマについて口頭報告する訓練を行う。また、そうした練習の中で、報告に用いる資料（レジュメ）の作成についての知識を習得し、基本的な書式（構成、引用、参考文献、等々）の作成についても習熟する。さらに、報告されたテーマについてディスカッションを行い、質問とそれに対する応答、意見述べなど、議論に必要な高度な日本語力を養う。</p> <p>【各回の授業の進め方】※ 予習を前提に授業を進める。</p> <p>(1) 小テスト（漢字、語彙・表現、予習チェック） (2) 担当者による口頭報告 (3) 文章の内容把握チェック (4) ディスカッション</p> <p>【授業進行予定】</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回：テーマ(1) ハンドアウトと発表用資料の作り方 第3回：テーマ(2) 読解・口頭発表・ディスカッション 第4回：テーマ(3) 読解・口頭発表・ディスカッション 第5回：テーマ(4) 読解・口頭発表・ディスカッション 第6回：テーマ(5) 読解・口頭発表・ディスカッション 第7回：テーマ(6) 読解・口頭発表・ディスカッション 第8回：テーマ(7) 読解・口頭発表・ディスカッション 第9回：テーマ(8) 読解・口頭発表・ディスカッション 第10回：テーマ(9) 読解・口頭発表・ディスカッション 第11回：テーマ(10) 読解・口頭発表・ディスカッション 第12回：テーマ(11) 読解・口頭発表・ディスカッション 第13回：テーマ(12) 読解・口頭発表・ディスカッション 第14回：a 試験／b まとめ</p>	
3. 履修上の注意	
<p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。</p> <p>2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。</p> <p>3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。</p> <p>4) 遅刻した場合、教室に入ったらずい出席することを担当教員に申し出ること。</p> <p>5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。</p> <p>○ 指定されたクラスで受講すること</p> <p>○ 授業資料の配付等を Oh-o! Meiji を利用して行う。</p> <p>○ 文字化け等のトラブルを回避するため、できるだけ Meiji Mail を利用し、使用言語を「日本語」とすること。</p> <p>○ 授業の始めに毎回小テストを行うので遅刻しないこと。</p> <p>未受験の小テストは「0点」として扱う。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>○ Oh-o! Meiji でダウンロードした「語彙・表現リスト」を利用して、予習を義務付ける。</p> <p>○ 発表担当者は、指定された期限までに、ハンドアウト（レジュメ）、パワーポイントのファイルを授業前に提出してチェックを受けること。</p>	
5. 教科書	
コピー教材	
6. 参考書	
<p>・機能語用例データベース「はごろも」: [url]https://www.hagoromo-text.work/[url]</p> <p>・『2022年の日本の論点』</p>	
7. 成績評価の方法	
平常点	30%
(小テスト、授業への取り組み)	
課題・授業での発表	30%
試験・レポート	40%
<p>※やむを得ない理由による場合を除き、欠席・遅刻をした場合は、その回の小テストは0点とする。</p> <p>※遅刻2回を欠席1回とみなす。</p> <p>※以下の条件をすべて満たすものを評価の対象とする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欠席回数が4回以下であること ・授業での口頭報告（発表）を行っていること ・学期末試験を受験していること 	
8. その他	
<p>予習のための「語彙・表現リスト」は、Oh-o! Meiji で配布する。また、口頭説明（発表）に際してはハンドアウトの作成と配布を義務付ける。Meiji Mail が利用できるようにしておくこと。MS-Word や Power Point の操作に不慣れな学生は、必要に応じて、大学の各種講習会を受講すること。</p>	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN281J						
科目名	日本語（2年）速読B						
担当者	戸村 佳代						
1. 授業の概要・到達目標							
<p>この授業では、春学期に引き続き、文章を素早く読み取る練習と文章構造と論理展開に注目しながら論述文の内容を理解する訓練を行う。パワーポイントを利用したプレゼンテーションと効果的な説明資料の作成に習熟することを目指し、ディスカッションやディベートを通して、日本語による議論に必要な高度な日本語力を養う。</p>							
2. 授業内容							
<p>日本語の高度な運用力を伸ばす訓練の一つとして、いくつかのテーマについて、自主的に調査し報告する訓練を行う。また、そうした練習の中で、パワーポイントのスライド作成等を行い、要点を押さえた資料の作り方や日本語によるプレゼンテーションに習熟する。さらに、報告されたテーマについてディスカッションやディベートを行い、質問とそれに対する応答、意見述べなどを通して、議論に必要な高度な日本語力を養う。</p> <p>【各回の授業の進め方】※ 予習を前提に授業を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 小テスト（漢字、語彙・表現、予習チェック） (2) 担当者による口頭報告 (3) 文章の内容把握チェック (4) ディスカッション／ディベート <p>【授業進行予定】</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回：テーマ(1) 読解・口頭発表・ディスカッション 第3回：テーマ(2) 読解・口頭発表・ディスカッション 第4回：テーマ(3) 読解・口頭発表・ディスカッション 第5回：テーマ(4) 読解・口頭発表・ディスカッション 第6回：テーマ(5) 読解・口頭発表・ディスカッション 第7回：テーマ(6) 読解・口頭発表・ディスカッション 第8回：テーマ(7) 読解・口頭発表・ディスカッション 第9回：テーマ(8) 読解・口頭発表・ディスカッション 第10回：テーマ(9) 読解・口頭発表・ディスカッション 第11回：テーマ(10) 読解・口頭発表・ディスカッション 第12回：テーマ(11) 読解・口頭発表・ディスカッション 第13回：テーマ(12) 読解・口頭発表・ディスカッション 第14回：a 試験／b まとめ</p>							
3. 履修上の注意							
<ol style="list-style-type: none"> 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 <p>○ 授業資料の配付等を Oh-o! Meiji を利用して行う。 ○ 文字化け等のトラブルを回避するため、Meiji Mail を利用し、使用言語を「日本語」とすること。 ○ 授業の始めに毎回小テストを行うので遅刻しないこと。 未受験の小テストは「0点」として扱う。</p>							
4. 準備学習（予習・復習等）の内容							
<p>○ Oh-o! Meiji でダウンロードした「語彙・表現リスト」を利用して、予習を義務付ける。 ○ 発表担当者は、指定された期限までに、ハンドアウト（レジュメ）、パワーポイントのファイルを授業前に提出してチェックを受けること。</p>							
5. 教科書							
コピー教材（主に文藝春秋社『論点100』等から抜粋）							
6. 参考書							
<p>・機能語用例データベース「はごろも」: [url]https://www.hagoromo-text.work/[url] ・『2022年の日本の論点』（文藝春秋社）</p>							
7. 成績評価の方法							
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">平常点 （小テスト、授業への取り組み）</td> <td style="text-align: right; vertical-align: top;">30%</td> </tr> <tr> <td>課題・授業での発表</td> <td style="text-align: right; vertical-align: top;">30%</td> </tr> <tr> <td>試験・レポート</td> <td style="text-align: right; vertical-align: top;">40%</td> </tr> </table> <p>※やむを得ない理由による場合を除き、欠席・遅刻をした場合は、その回の小テストは0点とする。 ※遅刻2回を欠席1回とみなす。 ※以下の条件をすべて満たすものを評価の対象とする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欠席回数が4回以下であること ・授業での口頭報告（発表）を行っていること ・学期末試験を受験していること 		平常点 （小テスト、授業への取り組み）	30%	課題・授業での発表	30%	試験・レポート	40%
平常点 （小テスト、授業への取り組み）	30%						
課題・授業での発表	30%						
試験・レポート	40%						
8. その他							
<p>予習のための「語彙・表現リスト」は、Oh-o! Meiji で配布する。また、口頭説明（発表）に際してはハンドアウトの作成と配布を義務付ける。Meiji Mail が利用できるようにしておくこと。MS-Word や Power Point の操作に不慣れな学生は、必要に応じて、大学の各種講習会を受講すること。</p>							

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN281J
科目名	日本語（2年）速読A
担当者	足立 章子
1. 授業の概要・到達目標 この授業では、日本語の高度な運用力を伸ばすために、情報収集を行う、情報の整理を行う、内容をまとめる、報告する、発表するという一連の活動練習を行う。 読み取った情報を活用し、説得力ある内容で相手に伝え、アカデミックなコミュニケーションができることを目指す。さらに、ツールなどを使用し、多角的に情報発信できるようにする。	
2. 授業内容 第1回：a：イントロダクション b：読解の仕方 第2回：はじめに 第1章（1）真意を理解する 第3回：第1章（2）真意を推し量る 第4回：発表・報告（大学紹介） 第5回：第2章（1）会話能力 第6回：第2章（2）センサーを動かす 第7回：第2章（3）地雷を踏まない 第8回：第2章（4）背景を知る 第9回：プレゼンテーション準備 第10回：第2章（5）メディア・リテラシー 第11回：第2章（6）ネット情報 第12回：第2章（7）編集された情報 第13回：プレゼンテーション 第14回：a：読み物 b：講義全体の振り返りとまとめ	
3. 履修上の注意 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書は復習をして、意味が曖昧な語彙などは辞書で調べ、語彙力を養うこと。	
5. 教科書 齋藤孝『大人の読解力を鍛える』幻冬舎新書	
6. 参考書 特になし。	
7. 成績評価の方法 授業内課題：40% プレゼンテーション：10% クイズ：10% 期末レポート：20% 授業参加の積極性：出席、授業態度の積極性など 20% 総計で59%以下の得点は不合格となる。また、単位取得には原則として授業数の2/3以上の出席が必要である。	
8. その他 教科書は2回目の授業前までに準備すること。 授業中に情報をまとめたり、考えをまとめたりするので、ノート・レポート用紙・ノートブック・タブレットなど自分で使いやすいものでよいので、メモや書いた情報を共有できるツールを持ってくること。	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN281J
科目名	日本語（2年）速読B
担当者	足立 章子
1. 授業の概要・到達目標	
<p>この授業では、日本語の高度な運用力を伸ばすために、情報収集を行う、情報の整理を行う、内容をまとめる、報告する、発表するという一連の活動練習を行う。</p> <p>読み取った情報を活用し、説得力ある内容で相手に伝え、アカデミックなコミュニケーションができることを目指す。さらに、ツールなどを使用し、多角的に情報発信できるようにする。</p>	
2. 授業内容	
<p>第1回：a：イントロダクション b：レビューについて</p> <p>第2回：読み物（1）</p> <p>第3回：第3章（1）小説</p> <p>第4回：第3章（2）音読</p> <p>第5回：第3章（3）短い読み物</p> <p>第6回：第3章（4）新聞やネット</p> <p>第7回：第3章（5）歌詞の世界</p> <p>第8回：第3章（6）イメージ</p> <p>第9回：第3章（7）映像</p> <p>第10回：第3章（8）絵</p> <p>第11回：第3章（9）スポーツ</p> <p>第12回：プレゼンテーション（1）Aグループ</p> <p>第13回：プレゼンテーション（2）Bグループ</p> <p>第14回：a：読み物（2） b：講義全体の振り返りとまとめ</p>	
3. 履修上の注意	
<p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。</p> <p>2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。</p> <p>3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。</p> <p>4) 遅刻した場合、教室に入ったらすぐに出席することを担当教員に申し出ること。</p> <p>5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>教科書は復習をして、意味が曖昧な語彙などは辞書で調べ、語彙力を養うこと。</p>	
5. 教科書	
<p>齋藤孝『大人の読解力を鍛える』幻冬舎新書</p>	
6. 参考書	
<p>特になし。</p>	
7. 成績評価の方法	
<p>授業内課題：35%</p> <p>授業外課題：5%</p> <p>プレゼンテーション：10%</p> <p>クイズ：10%</p> <p>期末レポート：20%</p> <p>授業参加の積極性：出席、授業態度の積極性など 20%</p> <p>総計で59%以下の得点は不合格となる。また、単位取得には原則として授業数の2/3以上の出席が必要である。</p>	
8. その他	
<p>教科書は2回目の授業前までに準備すること。</p> <p>授業中に情報をまとめたり、考えをまとめたりするので、ノート・レポート用紙・ノートブック・タブレットなど自分で使いやすいものでよいので、メモや書いた情報を共有できるツールを持ってくること。</p>	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN281J
科目名	日本語（2年）速読A
担当者	小林 真紀子
1. 授業の概要・到達目標 この授業では、日本語の高度な運用力を伸ばす訓練の一つとして、特に日本語のさまざまな文章を適当なスピードで読み取る練習を行う。読むことを通して語彙や文法の知識だけではなく、すばやく読み取る技法も同時に養う。また、単に文章の内容理解だけではなく、ワークシートや簡単なレジュメを用いたアクティブ・ラーニングを取り入れ、その内容の概略や意見を口頭で説明できるようにする。さらに、受講者が自ら選んだ本のブックレポートを課題として課す。	
2. 授業内容 授業では以下の流れで一つのトピックを1～2回に分けて活動する。 このクラスは予習を中心として進め、クラスでの活動は知識の確認、発表、議論が中心となる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 基礎&実践練習（速読の技法の習得） 2) 読解のことは確認クイズ、背景知識の確認 3) 担当者による内容報告やピアリーディングなどを取り入れた内容確認 4) ディスカッション、またはミニ発表 第1回：イントロダクション、基礎練習①、速読とは 第2回：基礎練習②、読解（1） 第3回：基礎練習③、読解（2） 第4回：基礎練習④、読解（3）、ブックレポート文献の選定 第5回：基礎練習⑤、読解（4） 第6回：基礎練習⑥、読解（5） 第7回：実践練習①、読解（5）ミニ発表、ブックレポート中間報告 第8回：実践練習②、読解（6） 第9回：実践練習③、読解（7） 第10回：実践練習④、読解（8） 第11回：実践練習⑤、読解（9） 第12回：実践練習⑥、読解（10） 第13回：実践練習⑦、読解（11） 第14回：読解（11）発表、ディスカッション、ブックレポート、まとめ ＊クラスの人数、進度などによって変更する可能性がある。	
3. 履修上の注意 <ul style="list-style-type: none"> ・授業参加度は積極的、建設的、かつ創造的に授業や課題に取り組むことが重視される。 ・すべての提出物は受講者自身のオリジナルのものであること、引用した場合は、出典を必ず明記する必要がある。 ・Oh-o!Meiji を利用して資料提示や課題提出を行うことがあるため、随時確認すること。 【日本語必修科目共通事項】 <ol style="list-style-type: none"> 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 <ul style="list-style-type: none"> ・日ごろからさまざまな分野の文章に教室外でも広く興味関心を持つようにする。 ・読解を読み、漢字や語彙などを確認しておく。毎回、ことは確認クイズをクラスの初めに行う。 ・あらかじめ決めた担当者が各読解のレジュメを作成し発表する。（クラスの初めに今期扱うトピックは紹介する予定） ・スケジュールをよく見て、授業のために必要な準備を行うこと。またより深いディスカッションのためには、下調べをするなどの準備も必要であるので積極的に取り組むことを望む。 	
5. 教科書 プリント教材を使用するため、授業時に配布する。	
6. 参考書 必要に応じて授業時に資料を配布する。	
7. 成績評価の方法 授業参加度（ことは確認クイズ、授業への取り組み）（20%）、課題（20%）、口頭発表（レジュメを含む）（30%）、ブックレポート（30%）により、総合的に評価する。	
8. その他 特記事項なし	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN281J
科目名	日本語（2年）速読B
担当者	小林 真紀子
1. 授業の概要・到達目標 この授業では、春学期の速読の訓練の応用として、比較的普遍的なテーマを自ら探し、それについて課題発見、文献調査、データ収集などの方法によって課題解決を行い口頭発表する練習を行う。論理的な思考を日本語で行うために必要な形式、表現、ストラテジーを使用して口頭発表を行うことを目標とする。また、口頭発表の際に必要なレジュメの作成についても練習し、最終発表では準備をした上で根拠のある意見を述べ合う討論ができるようになる。	
2. 授業内容 この授業では、より広い話題に積極的に触れることを意識して、新聞記事などから時事問題を取り上げ、その中から議論すべき点を取りだして討論や発表を行っていく。毎回、記事などの内容をすばやく読み取り、それについて段階的に口頭表現能力を伸ばしていき、最終的に一つの大きな発表ができるようにする。個人発表(1)はポスター発表、個人発表(2)はレジュメを使った最終発表である。また、毎回クラスの初めに、あらかじめ決めた担当者が「最近のニュース」を取り上げ紹介する時間を設ける。 第1回：イントロダクション、目標設定 第2回：速読1：見出しの付け方、要約する 第3回：速読2：きっかけとなる記事から話題を深める 第4回：速読3：論点を深める 第5回：速読4：論拠を説明する 第6回：速読5：引用の仕方、ポスター発表準備 第7回：個人発表（1）ポスター発表、振り返り 第8回：討論の仕方、討論① 第9回：討論② 第10回：発表準備、レジュメや表現の確認 第11回：個人発表（2） 第12回：個人発表（2） 第13回：個人発表（2） 第14回：個人発表（2）、個人発表の振り返り ＊クラスの人数、進度などによって変更する可能性がある。	
3. 履修上の注意 ・教材は配布する。その他、自分の発表原稿、調べた資料、クラスメートからの評価表などは大切な授業の記録であるので、必ずファイルにとじて、毎回授業に持参すること。 ・すべての提出物は受講者自身のオリジナルのものであること、引用した場合は、出典を必ず明記する必要がある。 ・Oh-o!Meiji を利用して資料提示や課題提出を行うことがあるため、随時確認すること。 【必修日本語科目共通事項】 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・課題として、話すための資料調べ、発表準備などを課す。毎回、次の時間の活動のために準備が必要となる。準備をして授業に参加するとディスカッションも活発になるので積極的に取り組むことを望む。 ・毎回、クラスの初めに「最近のニュース」を1つ取り上げ紹介するので、担当日となった際は準備すること。 ・社会的な話題について話せるように語彙を増やすこと。	
5. 教科書 プリント教材を使用するため、授業時に配布する。	
6. 参考書 必要に応じて授業時に資料を配布する。	
7. 成績評価の方法 授業参加度（10%）、課題（20%）、ポスター発表（発表、振り返り）（20%）、討論2回（課題を含む）（20%）、最終発表でのパフォーマンス（30%）により、総合的に評価する。	
8. その他 特記事項なし	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN281J
科目名	日本語（2年）速読A
担当者	酒井 知子
1. 授業の概要・到達目標	
<p>日本語の高度な運用力を伸ばすため、新書レベルの本を中心に扱い、日本語によって素早く読解することの訓練を行う。また、授業で口頭発表とその資料となるレジュメの作成を行うことを通し、大学におけるゼミの発表や就職後に必要となるプレゼンテーション能力・情報収集能力の基礎を学習する。大学における口頭発表やレポート作成に必要な日本語能力として、速読・情報収集・レジュメ作成のための知識・技術の習得を目標とする。</p>	
2. 授業内容	
<p>各回の授業では、速読技術を向上させる練習として、黙読による速読、内容把握度・自分の意見をまとめたフィードバックシート、担当者による口頭での内容説明、グループワーク等を行う。</p> <p>第1回: イントロダクション、速読練習① 第2回: 練習1（黙読、口頭発表、グループワーク、フィードバックシート）速読練習② 第3回: 練習2（黙読、口頭発表、グループワーク、フィードバックシート）速読練習③ 第4回: 練習3（黙読、口頭発表、グループワーク、フィードバックシート）速読練習④ 第5回: 練習4（黙読、口頭発表、グループワーク、フィードバックシート）速読練習⑤ 第6回: 練習5（黙読、口頭発表、グループワーク、フィードバックシート）速読練習⑥ 第7回: 練習6（黙読、口頭発表、グループワーク、フィードバックシート）中間レポート提出 第8回: 練習7（黙読、口頭発表、グループワーク、フィードバックシート） 第9回: 練習8（黙読、口頭発表、グループワーク、フィードバックシート） 第10回: 練習9（黙読、口頭発表、グループワーク、フィードバックシート） 第11回: 練習10（黙読、口頭発表、グループワーク、フィードバックシート） 第12回: 練習11（黙読、口頭発表、グループワーク、フィードバックシート） 第13回: 練習12（黙読、口頭発表、グループワーク、フィードバックシート） 第14回: 練習13（黙読、口頭発表、グループワーク、フィードバックシート）全体の振り返り、学期末レポート提出</p>	
3. 履修上の注意	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業での積極的な取り組みを重視する。グループワーク、クラスワークにも積極的に参加すること。 ・ 遅刻・欠席等によってフィードバックシートを提出しなかった場合、0点とする。 ・ 授業中、携帯電話・スマートフォン、タブレット、パソコン等は、授業に関係ないことには使用しないこと。 (辞書としての使用と、授業の資料閲覧は可) ・ 毎回、教科書、日本語辞書（電子辞書等、可）を持ってくること。 ・ 予習等の家庭学習を必ず行うこと。 <p>【日本語科目共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ・ 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 ・ 15分までの電車等の「遅延証明書」は考慮せず、遅刻として記録する。 (日常的に遅延するので、時間に余裕をもって通学すること) ・ 遅刻した場合、来たことをすぐに教員に申し出ること。 (申し出ないと出席として記録されない場合がある) ・ 授業中に無断で退室しないこと。 (無断退室が発覚した場合、欠席扱いとなる場合がある。体調不良等のときは教員に申し出ること) 	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>予習: 事前に授業範囲の文章をチェックし、表現・語彙等を調べておく。 復習: わからなかった表現・語彙等を復習する。</p>	
5. 教科書	
教科書は使用しない。資料を授業時、または Oh-o!Meiji を通じて配布する。	
6. 参考書	
必要に応じて授業時に資料を配布する。	
7. 成績評価の方法	
レポート（中間・学期末）	50%
フィードバックシート・平常	20%
口頭発表（レジュメ含む）	30%
<p>※5回以上欠席（40分以上の遅刻で欠席扱い）したものは評価の対象としない。 ※期末試験を受験しなかったものは評価の対象としない。 ※口頭発表をしなかったものは評価の対象としない。</p>	
8. その他	
特になし	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN281J
科目名	日本語（2年）速読B
担当者	酒井 知子
1. 授業の概要・到達目標	
<p>日本語の高度な運用力を伸ばすため、新書レベルの本、新聞を中心に扱い、日本語によって素早く読解することの訓練を行う。また、授業で口頭発表とその資料となるレジュメの作成を行うことを通し、大学におけるゼミの発表や就職後に必要となるプレゼンテーション能力・情報収集能力の基礎を学習する。大学における口頭発表やレポート作成に必要な日本語能力として、速読・情報収集・レジュメ作成のための知識・技術の習得を目標とする。</p>	
2. 授業内容	
<p>各回の授業では、速読技術を向上させる練習として、黙読による速読、内容把握度・自分の意見をまとめたフィードバックシートの提出、グループワークなどを行う。</p> <p>第1回:イントロダクション 第2回:練習1（黙読、口頭発表、グループワーク、フィードバックシート） 第3回:練習2（黙読、口頭発表、グループワーク、フィードバックシート） 第4回:練習3（黙読、口頭発表、グループワーク、フィードバックシート） 第5回:練習4（黙読、口頭発表、フィードバックシート） 第6回:練習5（黙読、口頭発表、グループワーク、フィードバックシート） 第7回:練習6（黙読、口頭発表、グループワーク、フィードバック）中間レポート提出 第8回:練習7（黙読、口頭発表、グループワーク、フィードバックシート） 第9回:練習8（黙読、口頭発表、グループワーク、フィードバックシート） 第10回:練習9（黙読、口頭発表、グループワーク、フィードバックシート） 第11回:練習10（黙読、口頭発表、グループワーク、フィードバックシート） 第12回:練習11（黙読、口頭発表、グループワーク、フィードバックシート） 第13回:練習12（黙読、口頭発表、グループワーク、フィードバックシート） 第14回:練習13（黙読、口頭発表、グループワーク、フィードバックシート）全体の振り返り、学期末レポート提出</p>	
3. 履修上の注意	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業での積極的な取り組みを重視する。グループワーク、クラスワークにも積極的に参加すること。 ・遅刻・欠席等によってフィードバックシートを提出しなかった場合、0点とする。 ・授業中、携帯電話・スマートフォン、タブレット、パソコン等は、授業に関係ないことには使用しないこと。 (辞書としての使用と、授業の資料閲覧は可) ・毎回、教科書、日本語辞書（電子辞書等、可）を持ってくること。 ・予習等の家庭学習を必ず行うこと。 <p>【日本語科目共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ・40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 ・15分までの電車等の「遅延証明書」は考慮せず、遅刻として記録する。 (日常的に遅延するので、時間に余裕をもって通学すること) ・遅刻した場合、来たことをすぐに教員に申し出ること。 (申し出ないと出席として記録されない場合がある) ・授業中に無断で退室しないこと。 (無断退室が発覚した場合、欠席扱いとなる場合がある。体調不良等のときは教員に申し出ること) 	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>予習:事前に授業範囲の文章をチェックし、表現・語彙等を調べておく。 復習:わからなかった表現・語彙等を復習する。</p>	
5. 教科書	
教科書は使用しない。資料を授業時、または Oh-o!Meiji を通じて配布する。	
6. 参考書	
必要に応じて授業時に資料を配布する。	
7. 成績評価の方法	
レポート（中間・期末）	50%
フィードバックシート・平常	20%
口頭発表（レジュメ含む）	30%
<p>※5回以上欠席（40分以上の遅刻で欠席扱い）したものは評価の対象としない。 ※期末試験を受験しなかったものは評価の対象としない。 ※口頭発表をしなかったものは評価の対象としない。</p>	
8. その他	
特になし	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN281J
科目名	日本語（2年）速読A
担当者	中沢 佐企子
1. 授業の概要・到達目標	
<p>日本語の高度な運用力を伸ばす訓練の一つとして、さまざまな種類の文章について、その内容をすばやく読みとる練習を中心に行う。また、単に文章の内容を読みとるだけでなく、その内容の概略を口頭で説明できるようにする。</p> <p>さらに、書き言葉を用いた文章作成になれるように、テキストに関するレポートの作成を課題として課す。</p>	
2. 授業内容	
<p>授業では、決められた時間内にテキストを速読し、タスクをする。その後、内容の説明・確認等を行う。内容についての討論や発表等も行う予定である。</p> <p>第1回：イントロダクション、練習1（黙読、タスク） 第2回：練習2（音読による内容確認、口頭による内容説明、討論・発表等） 第3回：練習3（黙読、タスク） 第4回：練習4（音読による内容確認、口頭による内容説明、討論・発表等） 第5回：練習5（黙読、タスク） 第6回：練習6（音読による内容確認、口頭による内容説明、討論・発表等） 第7回：練習7（黙読、タスク） 第8回：練習8（音読による内容確認、口頭による内容説明、討論・発表等） 第9回：練習9（黙読、タスク） 第10回：練習10（音読による内容確認、口頭による内容説明、討論・発表等） 第11回：練習11（黙読、タスク） 第12回：練習12（音読による内容確認、口頭による内容説明、討論・発表等） 第13回：練習13（黙読、タスク） 第14回：練習14（音読による内容確認、口頭による内容説明、討論・発表等）・まとめ</p>	
3. 履修上の注意	
<p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 6) 授業時には、積極的に参加することが重要である。積極性と協調性を重視し、答えでは、わかりやすさを重視する。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>授業以外でも新聞やニュース等に目を通しておくことが望ましい。</p>	
5. 教科書	
<p>使用しない。プリント教材。</p>	
6. 参考書	
<p>使用しない。</p>	
7. 成績評価の方法	
<p>課題（タスクシート、レポート等）70%、平常点 30%</p> <p>平常点では、質疑応答での答え方、口頭説明、討論・発表、授業中の積極性・協調性・参加度等を評価する。 欠席等でタスクを遅れて提出した場合は-30%で評価する。</p>	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN281J
科目名	日本語（2年）速読B
担当者	中沢 佐企子
1. 授業の概要・到達目標	
<p>日本語の高度な運用力を伸ばす訓練の一つとして、いくつかのテーマについて、自主的に調査し、報告する練習を行う。また、そうした練習を通して、報告に用いる資料（レジュメ）の作成についての知識を習得し、基本的な書式（構成、引用、参考文献、等々）を身につける。</p> <p>さらに、報告されたテーマについて自由討論を行い、質問とそれに対する応答、意見述べなどを通して、議論に必要な高度な日本語力を養う。</p>	
2. 授業内容	
<p>授業は、次の2度の発表により、テーマを展開する練習の形で行う。発表だけではなく、質疑応答での質問および回答も重視する。</p> <p>なお、学生数によって、下記のシラバスの予定は変動する可能性がある。学生数が少ない場合は、討論や発表等も行う。</p> <p>1回目の発表：自分が読んだ本、見た映画等について、必要な資料を調べて紹介する。</p> <p>2回目の発表：自由に設定したテーマについて、必要な資料を収集・整理し、その調査内容・結果等について説明する。（パワーポイント、レジュメ作成）</p> <p>第1回：イントロダクション（発表の注意点等の説明）・発表日を決める</p> <p>第2回：1回目の発表と質疑応答1</p> <p>第3回：1回目の発表と質疑応答2</p> <p>第4回：1回目の発表と質疑応答3</p> <p>第5回：1回目の発表と質疑応答4</p> <p>第6回：2回目の発表と質疑応答1</p> <p>第7回：2回目の発表と質疑応答2</p> <p>第8回：2回目の発表と質疑応答3</p> <p>第9回：2回目の発表と質疑応答4</p> <p>第10回：2回目の発表と質疑応答5</p> <p>第11回：2回目の発表と質疑応答6</p> <p>第12回：2回目の発表と質疑応答7</p> <p>第13回：2回目の発表と質疑応答8</p> <p>第14回：まとめ・発表</p>	
3. 履修上の注意	
<ol style="list-style-type: none"> 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 6) 授業に出席し、発表するだけでなく、質疑応答時に積極的に質問することを重視する。また、積極性だけでなく協調性も重視する。 7) レポートは発表の次の授業で提出する。提出日を厳守すること。 	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>発表は決めた予定の日に行うこと。発表のための準備は余裕を持ってすること。また、授業以外でも新聞やニュース等に目を通しておくことが望ましい。</p>	
5. 教科書	
<p>使用しない。</p>	
6. 参考書	
<p>使用しない。</p>	
7. 成績評価の方法	
<p>発表・レジュメ・質疑応答（質問への答え方） 70%、レポート 10%、平常点 20%</p> <p>平常点では、質疑応答での質問の聞き方、討論と発表、授業中の積極性・協調性・参加度等を評価する。</p>	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN281J
科目名	日本語（2年）速読A
担当者	中沢 佐企子
1. 授業の概要・到達目標	
<p>日本語の高度な運用力を伸ばす訓練の一つとして、さまざまな種類の文章について、その内容をすばやく読みとる練習を中心に行う。また、単に文章の内容を読みとるだけでなく、その内容の概略を口頭で説明できるようにする。</p> <p>さらに、書き言葉を用いた文章作成になれるように、テキストに関するレポートの作成を課題として課す。</p>	
2. 授業内容	
<p>授業では、決められた時間内にテキストを速読し、タスクをする。その後、内容の説明・確認等を行う。内容についての討論や発表等も行う予定である。</p> <p>第1回：イントロダクション、練習1（黙読、タスク） 第2回：練習2（音読による内容確認、口頭による内容説明、討論・発表等） 第3回：練習3（黙読、タスク） 第4回：練習4（音読による内容確認、口頭による内容説明、討論・発表等） 第5回：練習5（黙読、タスク） 第6回：練習6（音読による内容確認、口頭による内容説明、討論・発表等） 第7回：練習7（黙読、タスク） 第8回：練習8（音読による内容確認、口頭による内容説明、討論・発表等） 第9回：練習9（黙読、タスク） 第10回：練習10（音読による内容確認、口頭による内容説明、討論・発表等） 第11回：練習11（黙読、タスク） 第12回：練習12（音読による内容確認、口頭による内容説明、討論・発表等） 第13回：練習13（黙読、タスク） 第14回：練習14（音読による内容確認、口頭による内容説明、討論・発表等）・まとめ</p>	
3. 履修上の注意	
<p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 6) 授業時には、積極的に参加することが重要である。積極性と協調性を重視し、答えでは、わかりやすさを重視する。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>授業以外でも新聞やニュース等に目を通しておくことが望ましい。</p>	
5. 教科書	
<p>使用しない。プリント教材。</p>	
6. 参考書	
<p>使用しない。</p>	
7. 成績評価の方法	
<p>課題（タスクシート、レポート等）70%、平常点 30%</p> <p>平常点では、質疑応答での答え方、口頭説明、討論・発表、授業中の積極性・協調性・参加度等を評価する。 欠席等でタスクを遅れて提出した場合は-30%で評価する。</p>	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN281J
科目名	日本語（2年）速読B
担当者	中沢 佐企子
1. 授業の概要・到達目標	
<p>日本語の高度な運用力を伸ばす訓練の一つとして、いくつかのテーマについて、自主的に調査し、報告する練習を行う。また、そうした練習を通して、報告に用いる資料（レジュメ）の作成についての知識を習得し、基本的な書式（構成、引用、参考文献、等々）を身につける。</p> <p>さらに、報告されたテーマについて自由討論を行い、質問とそれに対する応答、意見述べなどを通して、議論に必要な高度な日本語力を養う。</p>	
2. 授業内容	
<p>授業は、次の2度の発表により、テーマを展開する練習の形で行う。発表だけではなく、質疑応答での質問および回答も重視する。</p> <p>なお、学生数によって、下記のシラバスの予定は変動する可能性がある。学生数が少ない場合は、討論や発表等も行う。</p> <p>1回目の発表：自分が読んだ本、見た映画等について、必要な資料を調べて紹介する。</p> <p>2回目の発表：自由に設定したテーマについて、必要な資料を収集・整理し、その調査内容・結果等について説明する。（パワーポイント、レジュメ作成）</p> <p>第1回：イントロダクション（発表の注意点等の説明）・発表日を決める</p> <p>第2回：1回目の発表と質疑応答1</p> <p>第3回：1回目の発表と質疑応答2</p> <p>第4回：1回目の発表と質疑応答3</p> <p>第5回：1回目の発表と質疑応答4</p> <p>第6回：2回目の発表と質疑応答1</p> <p>第7回：2回目の発表と質疑応答2</p> <p>第8回：2回目の発表と質疑応答3</p> <p>第9回：2回目の発表と質疑応答4</p> <p>第10回：2回目の発表と質疑応答5</p> <p>第11回：2回目の発表と質疑応答6</p> <p>第12回：2回目の発表と質疑応答7</p> <p>第13回：2回目の発表と質疑応答8</p> <p>第14回：まとめ・発表</p>	
3. 履修上の注意	
<ol style="list-style-type: none"> 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 6) 授業に出席し、発表するだけでなく、質疑応答時に積極的に質問することを重視する。また、積極性だけでなく協調性も重視する。 7) レポートは発表の次の授業で提出する。提出日を厳守すること。 	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>発表は決めた予定の日に行うこと。発表のための準備は余裕を持ってすること。また、授業以外でも新聞やニュース等に目を通しておくことが望ましい。</p>	
5. 教科書	
<p>使用しない。</p>	
6. 参考書	
<p>使用しない。</p>	
7. 成績評価の方法	
<p>発表・レジュメ・質疑応答（質問への答え方） 70%、レポート 10%、平常点 20%</p> <p>平常点では、質疑応答での質問の聞き方、討論と発表、授業中の積極性・協調性・参加度等を評価する。</p>	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN281J
科目名	日本語（2年）速読A
担当者	関口 美緒
1. 授業の概要・到達目標 日本語の高度な運用力を伸ばす訓練の一つとして、さまざまな種類の文章や内容をすばやく読み取るための基礎知識と技術、そしてそれらの練習を行う。このクラスはオンデマンド型である。Voice thread や講師のビデオ講義を通して、受講する。クラスメイトとは、Voice thread やメッセージビデオ、推薦する本などで意見交換や感想を交換し、メッセージを発信する。このクラスを通して、日本語の読解力（インプット）と発信力（アウトプット）の向上を目指す。	
2. 授業内容 1 読書の技法全般(多読・速読・精読・熟読) 2 速読の技法概要 3 Prepare: スキャニング(基本) 4 Prepare2: スキャニング(練習) 5 Step 1: プレビュー 6 Step 2: オーバービュー 7 Step 3: スキミング1 8 Step 4: スキミング2 9 Step 5: スピードリーディング 10 Step 6: レビュー 11 ニュースの速読 12 その他 速読練習 13 発表と評価1 14 発表と評価2 注: ただし、クラスの状況によって変更の可能性がある。	
3. 履修上の注意 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 授業の課題、意見交換、予習・復習等、各週までに提出すること。提出期限厳守。 その他、基本的な注意事項は明治大学規約を参照。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 1) 予習: 講師の講義 (Voice thread/youtube 等) を毎週受講する。 2) 毎週、講義内容の PPT (Voice thread 等) に自分の意見等メッセージを入れる。 3) 復習: 小テストを受ける。 宿題: 読書ノート (読んだ本: 何分、内容紹介 Voice message でクラスメイトに紹介。	
5. 教科書 特になし 基本的に講師作成資料。	
6. 参考書 松崎久純 (2009) 『究極の速読法 リーディングハニー-6つのステップ』 研究社 佐藤優 (2012) 『読書の技法』 東洋経済新報社 岡まゆみ (2018) 『中上級のための速読日本語』 The Japan Times	
7. 成績評価の方法 授業参加度 20% (Voice thread 上やクラス内でのディスカッション・質問の回答・意見交換) 小テスト 20% (EDOMODO オンラインテスト) 読書ノート (10冊) 20% 感想文 10% (「私の推薦図書」) 発表 10% 期末テスト 20%	
8. その他 VT=Voice thread https://voicethread.com/groups/subscribe/23563591/8841fb50f/ 読書ノートはクラスメイトと情報を共有する。Voice thread やビデオメッセージも共有する。(そのため、個人情報は発信しないこと。) EDOMODO ; https://new.edmodo.com/groups/2022-38383808?utm_source=classes_page Class Code (EDOMODO): xb56ry	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN281J
科目名	日本語（2年）速読B
担当者	関口 美緒
1. 授業の概要・到達目標 日本語の高度な運用力を伸ばす訓練の一つとして、さまざまな種類の文章や内容をすばやく読み取るための基礎知識と技術、そしてそれらの練習を行う。このクラスはオンデマンド型である。Voice thread や講師のビデオ講義を通して、受講する。クラスメイトとは、Voice thread やメッセージビデオ、推薦する本などで意見交換や感想を交換し、メッセージを発信する。このクラスを通して、日本語の読解力（インプット）と発信力（アウトプット）の向上を目指す。	
2. 授業内容 1 速読の技法の復習 1 春学期の復習 2 速読の技法の復習 2 春学期の復習 3 基本技術編 4 実践編 5 ケータイを持ったサル 1・2章 6 ケータイを持ったサル 3・4章 7 ケータイを持ったサル 5・6章 8 日本語検定試験 N1 速読① 9 日本語検定試験 N1 速読② 10 新聞の速読 朝日新聞（予定） 11 ニュースの速読 NHK 等 12 その他 速読練習 未定 13 発表と評価 1 14 発表と評価 2 注：ただし、クラスの状況によって変更の可能性がある。	
3. 履修上の注意 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 授業の課題、意見交換、予習・復習等、各週までに提出すること。提出期限厳守。 その他の基本事項は明治大学規約を参照。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 1) 予習：講師の講義（Voice thread/youtube 等）を毎週受講する。 2) 毎週、講義内容の PPT（Voice thread 等）に自分の意見等メッセージを入れる。 3) 復習：小テストを受ける。 宿題：読書ノート（読んだ本：何分、内容紹介 Voice message でクラスメイトに紹介。	
5. 教科書 未定	
6. 参考書 松崎久純（2009）『究極の速読法 リーディングハニー—6つのステップ』研究社 佐藤優（2012）『読書の技法』東洋経済新報社 岡まゆみ（2018）『中上級のための速読日本語』The Japan Times	
7. 成績評価の方法 授業参加度 20%（Voice thread 上やクラス内でのディスカッション・質問の回答・意見交換） 小テスト 20%（EDOMODO オンラインテスト） 読書ノート（10冊）20% 感想文 10%（「私の推薦図書」） 発表 10% 期末テスト 20%	
8. その他 VT=Voice thread URL https://voicethread.com/groups/subscribe/23563592/f1fffae84/ 読書ノートはクラスメイトと情報を共有する。Voice thread やビデオメッセージも共有する。（そのため、個人情報は発信しないこと。） https://new.edmodo.com/groups/2022-38383814?utm_source=classes_page Class Code:xb7q3c	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN281J
科目名	日本語（2年）速読A
担当者	糸川 優
1. 授業の概要・到達目標	
<p>多読を目標としているが、批判的な読み、また、資料そのものを評価することをも目的とする。 深く理解し、自らが課題を発見することによって、議論を維持し、あるいは一方的ではなく、内容が噛み合う議論をする力をも養う。 簡潔に発表する日本語力を培う。</p>	
2. 授業内容	
<p>第1回 インTRODakション、自己表現 第2回 ハンドアウトの書式、予習確認テスト、担当者による報告 第3回 予習確認テスト、担当者による報告、ディスカッション 第5回 予習確認テスト、担当者による報告、ディスカッション 第4回 予習確認テスト、担当者による報告、ディスカッション 第6回 予習確認テスト、担当者による報告、ディスカッション 第7回 予習確認テスト、担当者による報告、ディスカッション 第8回 予習確認テスト、担当者による報告、ディスカッション 第9回 予習確認テスト、担当者による報告、ディスカッション 第10回 予習確認テスト、担当者による報告、ディスカッション 第11回 予習確認テスト、担当者による報告、ディスカッション 第12回 予習確認テスト、担当者による報告、ディスカッション 第13回 予習確認テスト、担当者による報告、ディスカッション 第14回 期末試験と振り返り</p> <p>* 内容・進度は変更の可能性があります。</p>	
3. 履修上の注意	
<p>目的意識をもって自主的に取り組むことを求める。 書いたものにコピーペーストがあった場合、また、自動翻訳を用いた疑いがある場合、単位は与えられない。 課題が多いので、スケジュール表を常に確認のこと。</p> <p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>第1回 自己表現シート作成、1分間スピーチ動画作成（60分） 第2回 ハンドアウト課題（60分）、次回箇所下読み（60分）、報告準備（担当者のみ）（180分） 第3回 次回箇所下読み（60分）、報告準備（担当者のみ）（180分） 第4回 次回箇所下読み（60分）、報告準備（担当者のみ）（180分） 第5回 次回箇所下読み（60分）、報告準備（担当者のみ）（180分） 第6回 次回箇所下読み（60分）、報告準備（担当者のみ）（180分） 第7回 次回箇所下読み（60分）、報告準備（担当者のみ）（180分） 第8回 次回箇所下読み（60分）、報告準備（担当者のみ）（180分） 第9回 次回箇所下読み（60分）、報告準備（担当者のみ）（180分） 第10回 次回箇所下読み（60分）、報告準備（担当者のみ）（180分） 第11回 次回箇所下読み（60分）、報告準備（担当者のみ）（180分） 第12回 次回箇所下読み（60分）、報告準備（担当者のみ）（180分） 第13回 次回箇所下読み（60分）、報告準備（担当者のみ）（180分）</p>	
5. 教科書	
『学校と暴力』今津孝次郎（平凡社）	
6. 参考書	
『殴られて野球は上手くなる!?!』元永知宏（講談社）	
7. 成績評価の方法	
<p>小テスト 10% 担当箇所の報告 40% 議論 25% 期末試験 25%</p>	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN281J
科目名	日本語（2年）速読B
担当者	糸川 優
1. 授業の概要・到達目標	
<p>多読を目標としているが、批判的な読み、また、資料そのものを評価することをも目的とする。 深く理解し、自らが課題を発見することによって、議論を維持し、あるいは一方的ではなく、内容が噛み合う議論をする力をも養う。 簡潔に発表する日本語力を培う。</p>	
2. 授業内容	
<p>第1回 インTRODクッション（授業の目的、進め方等）、1分間スピーチ 第2回 1分間スピーチ、ハンドアウトの書式、資料について、ディスカッションの意味と方法、担当者による報告、ディスカッション 第3回 1分間スピーチ、ディスカッション 第4回 予習確認テスト、1分間スピーチ、担当者による報告、ディスカッション 第5回 予習確認テスト、1分間スピーチ、担当者による報告、ディスカッション 第6回 予習確認テスト、1分間スピーチ、担当者による報告、ディスカッション 第7回 予習確認テスト、1分間スピーチ、担当者による報告、ディスカッション 第8回 予習確認テスト、1分間スピーチ、担当者による報告、ディスカッション 第9回 ディベートについて、ブレインストーミング 第10回 調査 第11回 グループシート作成 第12回 立論・反論シート作成 第13回 口頭練習 第14回 ディベートと振り返り * 内容・進度は変更の可能性があります。</p>	
3. 履修上の注意	
<p>目的意識をもって自主的に取り組むことを求める。 書いたものにコピーペーストがあった場合、また、自動翻訳を用いた疑いがある場合、単位は与えられない。 課題が多いので、スケジュール表を常に確認のこと。</p> <p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>第2回 準備：下読み、ハンドアウト作成（担当者のみ）課題：ハンドアウト 第3回 準備：下読み、ハンドアウト作成（担当者のみ） 第4回 準備：下読み（60分）、ハンドアウト作成（担当者のみ）（180分） 第5回 準備：下読み（60分）、ハンドアウト作成（担当者のみ）（180分） 第6回 準備：下読み（60分）、ハンドアウト作成（担当者のみ）（180分） 第7回 準備：下読み（60分）、ハンドアウト作成（担当者のみ）（180分） 第8回 準備：下読み（60分）、ハンドアウト作成（担当者のみ）（180分）、ディベート資料下読み（60分） 第9回 論題に関する調査（120分） 第10回 論題に関する調査（120分） 第11回 グループシート作成（120分） 第12回 立論・反論シート作成（60分） 第13回 口頭練習（30分）</p>	
5. 教科書	
『殴られて野球は上手くなる!?!』元永知宏（講談社）	
6. 参考書	
<p>『学校と暴力』今津孝次郎（平凡社） 『体育会系 日本を蝕む病』サンドラ・ヘフェリン（光文社新書） 『強育論』野々村直通（講談社）</p>	
7. 成績評価の方法	
<p>授業への貢献・参加度 10% 小テスト 10% 報告 20% 課題 10% ディベート 25% 期末試験 25%</p>	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN281J
科目名	日本語（2年）精読A
担当者	乾 浩
1. 授業の概要・到達目標	
<p>この授業では、大学での勉学に不可欠な日本語の技能のうち、特に、文章を深く理解するための高度な読解力を身につけることを主たる目的とする。</p> <p>単に文法や語彙の拡充や読み能力の進展を図るだけでなく、論述文の文章構造と論理展開の特性を正確に捉え、習熟するための練習を中心に授業展開することにより、教養課程におけるテキスト・専門書の読解に必要な日本語力を育成する。</p> <p>到達目標は、内容について十分な理解のうえ、ディスカッションできようになること、大学でのアカデミックな活動に問題なく参加できることである。</p>	
2. 授業内容	
<p>【各回の授業の進め方】※ 予習を前提に授業を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題のフィードバックをする。 2. 前回の授業内容についての小テストを行う。 3. 2に対してのフィードバックを行う。 4. 読解・解説をする。 5. ディスカッションを行う。 <p>【授業進行予定】</p> <p>第01回 インTRODクダクシヨン：授業の進め方等の説明 第02回 簡単な自己紹介 第03回 読解・ディスカッション 第04回 小テスト・読解・ディスカッション 第05回 小テスト・読解・ディスカッション 第06回 小テスト・読解・ディスカッション 第07回 小テスト・読解・ディスカッション 第08回 小テスト・読解・ディスカッション 第09回 小テスト・読解・ディスカッション 第10回 小テスト・読解・ディスカッション 第11回 小テスト・読解・ディスカッション 第12回 小テスト・読解・ディスカッション 第13回 小テスト・読解・ディスカッション 第14回 a：試験、b：正答解説</p>	
3. 履修上の注意	
<ol style="list-style-type: none"> 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 <p>○ 授業の始めに毎回小テストを行うので遅刻しないこと。 未受験の小テストは「0点」として扱う。</p> <p>○ 授業中、スマートフォン、タブレット、パソコン等は、授業に関係ないことには使用しないこと。</p> <p>○ 秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。</p> <p>○ 授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<ul style="list-style-type: none"> ○ テキストの指定されたページを予習し、課題をすること。 ○ 授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。 ○ テキストの本文の内容に対して自分の意見が言えるようにしてくること。 	
5. 教科書	
プリント教材	
6. 参考書	
授業時に随時紹介する。	
7. 成績評価の方法	
<p>平常点：30%、課題：15%、小テスト：15%、学期末試験：40%</p> <p>をもとにして、総合的に評価する。</p> <p>※やむを得ない理由による場合を除き、欠席・遅刻をした場合は、その回の小テストは0点とする。</p> <p>※以下の条件をすべて満たすものを評価の対象とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欠席回数が4回以下であること ・学期末試験を受験していること 	
8. その他	
オンライン授業になった場合「zoom」を使うので、パソコンに設置しておくこと。	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN281J
科目名	日本語（2年）精読B
担当者	乾 浩
1. 授業の概要・到達目標 「2年精読・前期」と同様、日本語の論述文の文章構造と論理展開の特性を捉えながらまとまった分量の文章の内容を正確に読み取るための訓練を行う。 この授業では、単に文法力の強化・語彙の拡充・読み能力の進展を図るだけでなく、受講者は自らの関心・目的に沿ってさまざまな種類の文章を読み、その内容を主体的・批判的に読み解き、その内容に基づいた評論やディスカッションを行うことが求められる。 到達目標は、内容について十分な理解のうえ、大学でのアカデミックな活動に問題なく参加できることである。	
2. 授業内容 【各回の授業の進め方】※ 予習を前提に授業を進める。 1. 課題のフィードバックをする。 2. 前回の授業内容についての小テストを行う。 3. 2に対してのフィードバックを行う。 4. 読解・解説をする。 5. ディスカッションを行う。 【授業進行予定】 第01回 インTRODクシヨン：授業の進め方等の説明 第02回 読解・ディスカッション 第03回 小テスト・読解・ディスカッション 第04回 小テスト・読解・ディスカッション 第05回 小テスト・読解・ディスカッション 第06回 小テスト・読解・ディスカッション 第07回 小テスト・読解・ディスカッション 第08回 小テスト・読解・ディスカッション 第09回 小テスト・読解・ディスカッション 第10回 小テスト・読解・ディスカッション 第11回 小テスト・読解・ディスカッション 第12回 小テスト・読解・ディスカッション 第13回 小テスト・読解・ディスカッション 第14回 a：試験、b：正答解説	
3. 履修上の注意 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらすぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 ○ 授業の始めに毎回小テストを行うので遅刻しないこと。 未受験の小テストは「0点」として扱う。 ○ 授業中、スマートフォン、タブレット、パソコン等は、授業に関係ないことには使用しないこと。 ○ 秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。 ○ 授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ○ テキストの指定されたページを予習し、課題をすること。 ○ 授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。 ○ テキストの本文の内容に対して自分の意見が言えるようにしてくること。	
5. 教科書 プリント教材	
6. 参考書 授業時に随時紹介する。	
7. 成績評価の方法 平常点：30%、課題：15%、小テスト：15%、学期末試験：40% をもとにして、総合的に評価する。 ※やむを得ない理由による場合を除き、欠席・遅刻をした場合は、その回の小テストは0点とする。 ※以下の条件をすべて満たすものを評価の対象とする。 ・欠席回数が4回以下であること ・学期末試験を受験していること	
8. その他 オンライン授業になった場合「zoom」を使うので、パソコンに設置しておくこと。	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）読解A
担当者	乾 浩
1. 授業の概要・到達目標 作成教材『上級日本語コース 読解』の主として前半部分をテキストとして使用し、これまでに習得した日本語力の拡充を図り、大学での勉学に必要なとされる、日本語の基礎力を養う。 具体的には、一般書が自由に読めるように、文法の知識を増やすとともに、語彙、表現の運用力を伸ばす。また、正確な発音の訓練にも配慮する。到達目標は、大学での基本的なアカデミックな活動が円滑にできること、日本の社会・文化への理解を深めることである。	
2. 授業内容 【各回の授業の進め方】※ 予習を前提に授業を進める。 1. 課題のフィードバックをする。 2. 前回の授業内容についての小テストを行う。 3. 2に対してのフィードバックを行う。 4. 読解・解説をする。 5. ディスカッションを行う。 【授業進行予定】 第01回 インTRODクダクシヨン：授業の進め方等の説明 第02回 簡単な自己紹介 第03回 読解・ディスカッション 第04回 小テスト・読解・ディスカッション 第05回 小テスト・読解・ディスカッション 第06回 小テスト・読解・ディスカッション 第07回 小テスト・読解・ディスカッション 第08回 小テスト・読解・ディスカッション 第09回 小テスト・読解・ディスカッション 第10回 小テスト・読解・ディスカッション 第11回 小テスト・読解・ディスカッション 第12回 小テスト・読解・ディスカッション 第13回 小テスト・読解・ディスカッション 第14回 a：試験、b：正答解説	
3. 履修上の注意 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらすぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 ○ 授業の始めに毎回小テストを行うので遅刻しないこと。 未受験の小テストは「0点」として扱う。 ○ 授業中、スマートフォン、タブレット、パソコン等は、授業に関係ないことには使用しないこと。 ○ 秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。 ○ 授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ○ 教科書の指定されたページを予習し、課題をすること。 ○ 授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。 ○ 教科書の本文の内容に対して自分の意見が言えるようにしてくること。	
5. 教科書 『上級日本語コース（読解）』 明治大学日本語教育研究室 2020年	
6. 参考書 授業時に随時紹介する。	
7. 成績評価の方法 平常点：30%、課題：15%、小テスト：15%、学期末試験：40% をもとにして、総合的に評価する。 ※やむを得ない理由による場合を除き、欠席・遅刻をした場合は、その回の小テストは0点とする。 ※以下の条件をすべて満たすものを評価の対象とする。 ・欠席回数が4回以下であること ・学期末試験を受験していること	
8. その他 オンライン授業になった場合「zoom」を使うので、パソコンに設置しておくこと。	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）読解B
担当者	乾 浩
1. 授業の概要・到達目標	
<p>作成教材『上級日本語コース 読解』の主として後半部分をテキストとして使用し、これまでに習得した日本語力の拡充を図り、大学での勉学に必要なとされる、日本語の基礎力を十分に築きあげることを目指す。</p> <p>具体的には、一般書が自由に読めるように、文法の知識を充実させるとともに、語彙、表現の運用力を伸ばす。また、正確な発音の訓練にも配慮する。</p> <p>到達目標は、大学での基本的なアカデミックな活動が円滑にできること、日本の社会・文化への理解を深めることである。</p>	
2. 授業内容	
<p>【各回の授業の進め方】※ 予習を前提に授業を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題のフィードバックをする。 2. 前回の授業内容についての小テストを行う。 3. 2に対してのフィードバックを行う。 4. 読解・解説をする。 5. ディスカッションを行う。 <p>【授業進行予定】</p> <p>第01回 インTRODクダクシヨン：授業の進め方等の説明 第02回 読解・ディスカッション 第03回 小テスト・読解・ディスカッション 第04回 小テスト・読解・ディスカッション 第05回 小テスト・読解・ディスカッション 第06回 小テスト・読解・ディスカッション 第07回 小テスト・読解・ディスカッション 第08回 小テスト・読解・ディスカッション 第09回 小テスト・読解・ディスカッション 第10回 小テスト・読解・ディスカッション 第11回 小テスト・読解・ディスカッション 第12回 小テスト・読解・ディスカッション 第13回 小テスト・読解・ディスカッション 第14回 a：試験、b：正答解説</p>	
3. 履修上の注意	
<ol style="list-style-type: none"> 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 <p>○ 授業の始めに毎回小テストを行うので遅刻しないこと。 未受験の小テストは「0点」として扱う。</p> <p>○ 授業中、スマートフォン、タブレット、パソコン等は、授業に関係ないことには使用しないこと。</p> <p>○ 秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。</p> <p>○ 授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>○ 教科書の指定されたページを予習し、課題をすること。</p> <p>○ 授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。</p> <p>○ 教科書の本文の内容に対して自分の意見が言えるようにしてくること。</p>	
5. 教科書	
『上級日本語コース（読解）』 明治大学日本語教育研究室 2020年	
6. 参考書	
授業時に随時紹介する。	
7. 成績評価の方法	
<p>平常点：30%、課題：15%、小テスト：15%、学期末試験：40% をもとにして、総合的に評価する。</p> <p>※やむを得ない理由による場合を除き、欠席・遅刻をした場合は、その回の小テストは0点とする。 ※以下の条件をすべて満たすものを評価の対象とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欠席回数が4回以下であること ・学期末試験を受験していること 	
8. その他	
オンライン授業になった場合「zoom」を使うので、パソコンに設置しておくこと。	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN281J
科目名	日本語（2年）速読A
担当者	江後 千香子
1. 授業の概要・到達目標 【概要】 大学の授業に必要な日本語力をつけるため、日本語の文章を正確に読み取るための訓練を行う。 読んだ内容についての討論や発表も行い、最終的には自分の意見を作文にまとめる。 【到達目標】 日本語の高度な運用力を伸ばし、ある程度の長さのものを読みこなす力をつける。また、他者の発言を理解し、討論する能力も養う。	
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：教材1（内容確認・意見交換） 第3回：教材1（意見発表・作文） 第4回：教材2（内容確認・意見交換） 第5回：教材2（意見発表・作文） 第6回：教材3（内容確認・意見交換） 第7回：教材3（意見発表・作文） 第8回：教材4（内容確認・意見交換） 第9回：教材4（意見発表・作文） 第10回：教材5（内容確認・意見交換） 第11回：教材5（意見発表・作文） 第12回：教材6（内容確認・意見交換） 第13回：教材6（意見発表・作文） 第14回：a. 期末試験 b. まとめ	
3. 履修上の注意 【日本語科目共通】 <ul style="list-style-type: none"> ・原則として5回以上欠席したものは不合格とする。 ※特別な理由がある場合は届け出ること。 ・15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 ・40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 ・遅刻した場合、来たことをすぐに教員に申し出ること。 ※申し出ないと出席として記録されない場合がある。 ・授業時間中に無断で退室しないこと。 ※体調不良時などは教員に申し出ること。 	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 復習として、よく分からなかった単語・表現などを調べておくこと。	
5. 教科書 特に指定しない。必要に応じて授業時に、あるいはクラスウェブで配布する。	
6. 参考書 特に指定しない。	
7. 成績評価の方法 課題（60%）、授業参加度（20%）、期末試験（20%）により総合的に評価する。	
8. その他 特になし	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN281J
科目名	日本語（2年）速読B
担当者	江後 千香子
1. 授業の概要・到達目標 【概要】 このクラスでは、読む・話す・聞く・書くの各技能を総合的に伸ばすことを目標とする。 授業では、ビブリオバトル（5分で本を紹介し、投票で「チャンプ本」を決めるゲーム）を中心的な内容とする。 本来のビブリオバトルは「本」を紹介する活動であるが、このクラスでは、映像作品などを紹介する回も設ける。 【到達目標】 ・紹介したい内容を5分以内にまとめて発表できる。 ・他の参加者の発表を聞き、内容について適切な質問や意見交換ができる。	
2. 授業内容 第1回：イントロダクション・ビブリオバトルの概要 第2回：実際のビブリオバトルを見る 第3回：ビブリオバトル（1） 第4回：ビブリオバトル（1） 第5回：発表の振り返り 第6回：ビブリオバトル（2） 第7回：ビブリオバトル（2） 第8回：ビブリオバトル（3） 第9回：ビブリオバトル（3） 第10回：ビブリオバトル（4） 第11回：ビブリオバトル（4） 第12回：期末発表・ディスカッション 第13回：期末発表・ディスカッション 第14回：a. 期末試験 b. まとめ	
3. 履修上の注意 発表や意見交換を中心とした授業であるため、積極的な参加を期待する。 【日本語科目共通】 ・原則として5回以上欠席したものは不合格とする。 ※特別な理由がある場合は届け出ること。 ・15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 ・40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 ・遅刻した場合、来たことをすぐに教員に申し出ること。 ※申し出ないと出席として記録されない場合がある。 ・授業時間中に無断で退室しないこと。 ※体調不良時などは教員に申し出ること。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 良い発表をするために、十分に事前準備をしてほしい。 また、新たに学習した語彙や表現を復習すること。	
5. 教科書 特に指定しない。	
6. 参考書 参考サイト：ビブリオバトル公式サイト https://www.bibliobattle.jp/ 参考書籍は特に指定しないが、場合によっては下記の教材を一部使用する。使用するかどうかは履修者と相談の上決定する。 『日本がわかる、日本語がわかる』ベストセラーの書評エッセイ24』（凡人社）、田中祐輔	
7. 成績評価の方法 発表（50%）、授業参加度（30%）、期末試験（20%）により評価する。	
8. その他 特になし	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN281J
科目名	日本語（2年）速読A
担当者	江後 千香子
1. 授業の概要・到達目標 【概要】 大学の授業に必要な日本語力をつけるため、日本語の文章を正確に読み取るための訓練を行う。 読んだ内容についての討論や発表も行い、最終的には自分の意見を作文にまとめる。 【到達目標】 日本語の高度な運用力を伸ばし、ある程度の長さのものを読みこなす力をつける。また、他者の発言を理解し、討論する能力も養う。	
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：教材1（内容確認・意見交換） 第3回：教材1（意見発表・作文） 第4回：教材2（内容確認・意見交換） 第5回：教材2（意見発表・作文） 第6回：教材3（内容確認・意見交換） 第7回：教材3（意見発表・作文） 第8回：教材4（内容確認・意見交換） 第9回：教材4（意見発表・作文） 第10回：教材5（内容確認・意見交換） 第11回：教材5（意見発表・作文） 第12回：教材6（内容確認・意見交換） 第13回：教材6（意見発表・作文） 第14回：a. 期末試験 b. まとめ	
3. 履修上の注意 【日本語科目共通】 <ul style="list-style-type: none"> ・原則として5回以上欠席したものは不合格とする。 ※特別な理由がある場合は届け出ること。 ・15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 ・40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 ・遅刻した場合、来たことをすぐに教員に申し出ること。 ※申し出ないと出席として記録されない場合がある。 ・授業時間中に無断で退室しないこと。 ※体調不良時などは教員に申し出ること。 	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 復習として、よく分からなかった単語・表現などを調べておくこと。	
5. 教科書 特に指定しない。必要に応じて授業時に、あるいはクラスウェブで配布する。	
6. 参考書 特に指定しない。	
7. 成績評価の方法 課題（60%）、授業参加度（20%）、期末試験（20%）により総合的に評価する。	
8. その他 特になし	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN281J
科目名	日本語（2年）速読B
担当者	江後 千香子
1. 授業の概要・到達目標	
<p>【概要】 このクラスでは、読む・話す・聞く・書くの各技能を総合的に伸ばすことを目標とする。 授業では、ビブリオバトル（5分で本を紹介し、投票で「チャンプ本」を決めるゲーム）を中心的な内容とする。 本来のビブリオバトルは「本」を紹介する活動であるが、このクラスでは、映像作品などを紹介する回も設ける。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紹介したい内容を5分以内にまとめて発表できる。 ・他の参加者の発表を聞き、内容について適切な質問や意見交換ができる。 	
2. 授業内容	
<p>第1回：イントロダクション・（ビブリオバトルの概要） 第2回：大学生のビブリオバトル全国大会を見る 第3回：ビブリオバトル（1） 第4回：ビブリオバトル（1） 第5回：発表の振り返り 第6回：ビブリオバトル（2） 第7回：ビブリオバトル（2） 第8回：ビブリオバトル（3） 第9回：ビブリオバトル（3） 第10回：ビブリオバトル（4） 第11回：ビブリオバトル（4） 第12回：期末発表・ディスカッション 第13回：期末発表・ディスカッション 第14回：a. 期末試験 b. まとめ</p>	
3. 履修上の注意	
発表や意見交換を中心とした授業であるため、積極的な参加を期待する。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>良い発表をするために、十分に事前準備してほしい。 また、新たに学習した語彙や表現を復習すること。</p> <p>【日本語科目共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則として5回以上欠席したものは不合格とする。 ※特別な理由がある場合は届け出ること。 ・15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 ・40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 ・遅刻した場合、来たことをすぐに教員に申し出ること。 ※申し出ないと出席として記録されない場合がある。 ・授業時間中に無断で退室しないこと。 ※体調不良時などは教員に申し出ること。 	
5. 教科書	
特に指定しない。	
6. 参考書	
<p>参考サイト：ビブリオバトル公式サイト https://www.bibliobattle.jp/</p> <p>参考書籍は特に指定しないが、場合によっては下記の教材を一部使用する。使用するかどうかは履修者と相談の上決定する。 『日本がわかる、日本語がわかる』ベストセラーの書評エッセイ 24』（凡人社）、田中祐輔</p>	
7. 成績評価の方法	
発表（50%）、授業参加度（30%）、期末試験（20%）により評価する。	
8. その他	
特になし	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）作文A
担当者	杉山 ますよ
1. 授業の概要・到達目標	
この授業では留学生が大学での勉学に必要なとされる日本語の作文能力向上を目指す。具体的には『上級日本語コース 作文』の前半部分をテキストとして使用し、小論文・レポートに向けての文章表現上の基礎的訓練を行う。特に論述文の基本的なパターンに習熟し、書き言葉に特徴的な語彙・表現の運用力の定着を図る。	
2. 授業内容	
第1回 インTRODクシヨン I 原稿用紙の使い方 第2回 II 人物の経歴を述べる 第3回 II 人物の経歴を述べる 第4回 III ストリーを叙述する 第5回 III ストリーを叙述する 第6回 IV 仕組み・手順・方法を述べる 第7回 IV 仕組み・手順・方法を述べる 第8回 V 内容を整理する（対比・比較1） 第9回 V 内容を整理する（対比・比較1） 第10回 VI 調査結果を説明する（対比・比較2） 第11回 VI 調査結果を説明する（対比・比較2） 第12回 VII 原因・結果を述べる 第13回 VII 原因・結果を述べる 第14回 まとめ 振り返り	
3. 履修上の注意	
1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 15) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
作文テーマの情報収集を行うこと。授業時に習った学習項目などを使い作文を書いてくること。 練習問題があるので担当教員の指示に従いやってくること。フィードバックされた項目は修正すること。	
5. 教科書	
『上級日本語コース 作文』（明治大学日本語教育研究室）を主教材とし、その他必要に応じて補助教材を使用する。	
6. 参考書	
授業時に随時紹介する。	
7. 成績評価の方法	
課題（練習シート、作文など）50％ （期限を過ぎた場合は減点あり） 期末課題 20％ 平常点 30％	
8. その他	
予定や内容は状況に応じて変更する可能性がある。	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）作文B
担当者	杉山 ますよ
1. 授業の概要・到達目標	
<p>この授業では「日本語作文・前期」に引き続き『上級日本語コース 作文』の後半部分をテキストとして使用し意図する内容を論理的に言語化するための訓練を行う。小論・レポート作成が行えるように、文法的な知識をさらに深め、書き言葉に用いられる語彙・表現をいっそう増やし、それらの運用力を高めると共に論文の論旨転換に習熟することを目指す。</p> <p>また、受講者の関心に応じたテーマを設定し、構成のメモの作成、口頭発表の際に使用するハンドアウト（レジメ）の作成、論理的な文章展開をもったレポートを作成などに取り組む。</p>	
2. 授業内容	
<p>第1回 イントロダクション VIII. 意見を述べる 第2回 VIII. 意見を述べる 第3回 IX. 意見を述べる（2） 第4回 IX. 意見を述べる（2） 第5回 X. 意見を述べる（3） 第6回 X. 意見を述べる（3） 第7回 XI. 意見を述べる（4） 第8回 XI. 意見を述べる（4） 第9回 XII. 手紙、メールの形式 第10回 XIII. 文章を要約する 第11回 XIV. 論の構成と展開 第12回 XV. 論文の作成 第13回 XV. 論文の作成 第14回 まとめ 振り返り</p>	
3. 履修上の注意	
<p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 16) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>作文テーマの情報収集を行うこと。授業時に習った学習項目などを使い作文を書いてくること。 練習問題があるので担当教員の指示に従いやってくること。 フィードバックされた項目は修正すること。</p>	
5. 教科書	
『上級日本語コース 作文』（明治大学日本語教育研究室）を主教材とし、その他必要に応じて補助教材を使用する	
6. 参考書	
授業時に随時紹介する。	
7. 成績評価の方法	
<p>課題（練習シート、作文など）50％ （期限を過ぎた場合は減点あり） 期末課題 20％ 平常点 30％</p>	
8. その他	
<p>状況により予定と内容の変更する可能性がある。 課題の提出は期限厳守のこと。期限を過ぎた場合は減点があります。 課題の作文は必ず授業時に持参すること。</p>	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）作文A
担当者	黒崎 典子
1. 授業の概要・到達目標 外国人留学生が大学の勉学に必要なとされる日本語作文能力の向上を目指した練習を行う。具体的には『上級日本語コース（作文）』の前半部分を主教材として使用し、小論文・レポートの作成に向けての、文章表現上の基本的訓練を行う。 特に論述の基本的なパターンに習熟し、書き言葉に特徴的な語彙・表現の運用力の定着を図り、グラフなどの資料を用いた小論文が適切に書けることを目標とする。	
2. 授業内容 『上級日本語コース（作文）』の前半部分を用いながら、その他の教材を利用して、作文執筆の練習を進める。各課のポイントを理解し、手書きで作文を執筆後、添削を経て推敲し、Word で清書した最終稿を再提出する 第1回：イントロダクション、日本語作文について 第2回：第I課「原稿用紙の使い方」（1）練習 第3回：第I課「原稿用紙の使い方」（2）フィードバック 第4回：第II課「人物の経歴を述べる（時間・過程・推移）」（1）インタビュー 第5回：第II課「人物の経歴を述べる（時間・過程・推移）」（2）作文執筆 第6回：第II課「人物の経歴を述べる（時間・過程・推移）」（3）フィードバック 第7回：第III課「ストーリーを叙述する」分析 第8回：第IV課「仕組み・手順・方法を述べる」分析 第9回：第V課「内容を整理する（対比・比較1）」（1）分析、ミニディベート 第10回：第V課「内容を整理する（対比・比較1）」（2）作文執筆 第11回：第V課「内容を整理する（対比・比較1）」（3）フィードバック 第12回：第VI課「調査結果を説明する（対比・比較2）」（1）分析 第13回：第VI課「調査結果を説明する（対比・比較2）」（2）作文執筆 第14回：a:第VI課「調査結果を説明する（対比・比較2）」（3）フィードバック、 b:期末試験 受講生と相談の上、順番等変更することがある。	
3. 履修上の注意 1. 授業への出席、作文執筆への取り組みを重視する。 2. 言葉の訓練であるため、予習・復習を大切にすること。 3. より良い作品を書くためには振り返ることが大切なため、添削後の再提出、推敲など、真面目に取り組むこと。 4. 文章表現を中心とした授業を行うが、その他、日本語力を高める場として積極的に利用してほしい。 5. 意見交換には積極的に参加し、クラスメイトと共に学び合う姿勢を持ってほしい。 6. Oh-o!Meiji を利用して資料提示、課題提示を行うため、随時確認すること。 【必修日本語科目共通事項】 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。※電車の遅延は日常なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらすぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・教科書各課に示されている「宿題」には事前に取り組み、授業時に発言できるように準備をしておいてほしい。 ・授業中に書いた作文は、添削後に必ず書き直しをして提出すること。	
5. 教科書 『上級日本語コース（作文）』明治大学日本語教育研究室、2019年、〔非売品〕	
6. 参考書 『大学生と留学生のための論文ワークブック』浜田麻里他（くろしお出版）、『大学生のための文章表現&口頭発表練習帳』銅直信子他（国書刊行会）、『ピアで学ぶ大学生の日本語表現—プロセス重視のレポート作成』大島弥生他（ひつじ書房）、『この一冊できちんと書ける！論文・レポートの基本』石黒圭（日本実業出版社）等	
7. 成績評価の方法 期末試験（40%）、授業での作文練習（40%）、授業への参加度・課題提出（20%）により、総合的に評価する。60点未満の場合は不合格とする。 ※【必修日本語科目共通事項】として、原則、5回以上欠席した者については不合格とする。	
8. その他 より良い文章を書くためには振り返ることが大切なため、作文の書き直し、添削後の再提出など、推敲を重ねて完成させるまで真面目に取り組むこと。 授業の中心は文章表現についてであるが、口頭表現、文法など、日本語の様々なことがらを取り入れて授業を進める予定である。また、受講生からの日本語に関する質問にはできる限り答えていくので、日本語力向上のために積極的に活用してほしい。	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）作文B
担当者	黒崎 典子
1. 授業の概要・到達目標 外国人留学生が大学での勉学に必要なとされる日本語作文能力の向上を目指した練習を行う。具体的には、『上級日本語コース（作文）』の後半部分を主教材として使用し、レポート・論文作成に向けての、文章表現上の基本的訓練を行う。 特に論述の基本的なパターンに習熟し、書き言葉に特徴的な語彙・表現の運用力の定着を図り、根拠を示しながらわかりやすい構成で意見文を書けることを目標とする。	
2. 授業内容 『上級日本語コース（作文）』の後半部分を用いながら、その他の教材を利用して、作文執筆の練習を進める。各課のポイントを理解し、手書きで作文を執筆後、添削を経て推敲し、Word で清書した最終稿を再提出する 第1回：イントロダクション、前半の復習 第2回：第VII課「原因・理由と結果（問題の解決）」表現、構成検討 第3回：第VII課「原因・理由と結果（問題の解決）」作文執筆 第4回：第VII課「原因・理由と結果（問題の解決）」フィードバック 第VIII課「意見を述べる（1）要点を整理して論じる」ディスカッション 第5回：第VIII課「意見を述べる（1）要点を整理して論じる」ディベート準備 第6回：第VIII課「意見を述べる（1）要点を整理して論じる」ディベート準備2 第7回：第VIII課「意見を述べる（1）要点を整理して論じる」ディベート 第8回：第VIII課「意見を述べる（1）要点を整理して論じる」作文執筆 第9回：第VIII課「意見を述べる（1）要点を整理して論じる」フィードバック 第10回：第IX課「意見を述べる（2）容認・主張」作文執筆 第11回：第IX課「意見を述べる（2）容認・主張」フィードバック 第12回：第X課「意見を述べる（3）論述や意見の検証」分析 第13回：第X課「意見を述べる（3）論述や意見の検証」作文執筆 第14回：a：第X課「意見を述べる（3）論述や意見の検証」フィードバック b：期末試験 受講生と相談の上、順番等変更することがある。	
3. 履修上の注意 1. 授業への出席、作文執筆への取り組みを重視する。 2. 言葉の訓練であるため、予習・復習を大切にすること。 3. より良い作品を書くためには振り返ることが大切なため、添削後の再提出、推敲など、真面目に取り組むこと。 4. 文章表現を中心とした授業を行うが、その他、日本語力を高める場として積極的に利用してほしい。 5. 意見交換には積極的に参加し、クラスメイトと共に学び合う姿勢を持ってほしい。 6. Oh-oi!Meiji を利用して資料提示、課題提示を行うため、随時確認すること。 【必修日本語科目共通事項】 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。※電車の遅延は日常なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・教科書各課に示されている「宿題」には事前に取り組み、授業時に発言できるように準備をしておいてほしい。 ・授業中に書いた作文は、添削後に必ず書き直しをして提出すること。 ・ディスカッションやディベートをするにあたっては、テーマに関する語彙の予習をし、適切に使えるようにしておくことが望ましい。	
5. 教科書 『上級日本語コース（作文）』 明治大学日本語教育研究室、2019年、〔非売品〕	
6. 参考書 『大学生と留学生のための論文ワークブック』 浜田麻里他（くろしお出版）、『大学生のための文章表現&口頭発表練習帳』 銅直信子他（国書刊行会）、『ピアで学ぶ大学生の日本語表現—プロセス重視のレポート作成』 大島弥生他（ひつじ書房）、『この一冊できちんと書ける！論文・レポートの基本』 石黒圭（日本実業出版社） 等	
7. 成績評価の方法 期末試験（40%）、授業での作文練習（40%）、授業への参加度・課題提出（20%）により、総合的に評価する。60点未満の場合は不合格とする。 ※【必修日本語科目共通事項】として、原則、5回以上欠席した者については不合格とする。	
8. その他 より良い文章を書くためには振り返ることが大切なため、作文の書き直し、添削後の再提出など、推敲を重ねて完成させるまで真面目に取り組むこと。授業の中心は文章表現についてであるが、口頭表現、文法など、日本語の様々なことごとを取り入れて授業を進める予定である。また、受講生からの日本語に関する質問にはできる限り答えていくので、日本語力向上のために積極的に活用してほしい。	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN281J
科目名	日本語（2年）速読A
担当者	黒崎 典子
1. 授業の概要・到達目標 外国人留学生が大学での勉学、研究に必要とする高度な日本語運用力を伸ばす訓練を行う。特に、日本語の様々な文章を用いて、素早く正確に読み取る、要約する、口頭で説明して議論するなど、アカデミックな場面での運用能力をさらに磨く活動を行っていく。 対象とするテキストの正確な読解のみならず、それに関する資料も探し出し、議論につなげられる総合的な日本語力を身につけることを目標とする。	
2. 授業内容 授業はおおよそ以下のような活動を中心に実施する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) テキストの選択 (2) テキストの速読、読解 (3) テキストの要約 (4) ディスカッション (5) ペアワーク (6) 読解問題解答 第1回：イントロダクション 第2回：速読の方法 第1回セッション（課題文選択、要約） 第3回：第1セッション（グループの課題文読解） 第4回：第1セッション（グループディスカッション） 第5回：第1セッション（グループ発表、報告文執筆） 第6回：第1セッション（ペアワーク） 第7回：第1セッション（読解問題解答） 第2回セッション（課題文選択、要約） 第8回：第2セッション（グループの課題文読解） 第9回：第2セッション（グループディスカッション） 第10回：第2セッション（グループ発表、報告文執筆） 第11回：第2セッション（ペアワーク） 第12回：第2セッション（読解問題解答） 第13回：復習、まとめ 第14回：a：期末試験	
3. 履修上の注意 履修上の注意 <ul style="list-style-type: none"> ・授業に出席し、積極的に発言すること、および真剣に課題に取り組むことが重視される。 ・グループワーク、クラスワークには積極的に参加し、クラスメイトと共に学び合う姿勢が大切である。 ・Oh-o!Meiji を利用して資料提示、課題提出を行うため、毎回必ず確認すること。 【必修日本語科目共通事項】 <ol style="list-style-type: none"> 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・指示された事前準備が前提となり授業が進められるため、課題はもちろんのこと、事前準備は必ず行ってほしい。事前学習内容については、授業時に伝えるだけでなく、Oh-o!Meiji にも掲示するため、必ず確認してほしい。 ・日頃から新聞などに目を通し、素早く的確に内容が読み取れるよう努力を続けること。	
5. 教科書 作成した教材を使用し、授業時に配布する。	
6. 参考書 口頭説明の方法については、『大学生のための文章表現&口頭発表練習帳』銅直信子他（国書刊行会）、『日本語口頭発表と討論の技術：コミュニケーション・スピーチ・ディベートのために』東海大学留学生センター口頭発表教材研究会（東海大学出版会）、『上級から超級へ 日本語超級話者へのかけはし』萩原雅佳子他（スリーエーネットワーク）等を参考にすると良い。	
7. 成績評価の方法 期末試験（30%）、授業内課題（40%）、授業内発言を含む授業貢献度（30%）により、総合的に評価する。	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC) LAN281J
科目名	日本語（2年）速読B
担当者	黒崎 典子
1. 授業の概要・到達目標 外国人留学生が大学での勉学、研究に必要とする高度な日本語運用力を伸ばす訓練を行う。特に、春学期の活動の応用として、テーマに沿って必要な参考資料を収集・整理し、それを口頭発表（プレゼンテーション）によって展開、レポートにまとめる活動を行う。 大学で学ぶために必要な「テーマ設定」、「資料収集」、「分析能力」、「プレゼンテーション時の口頭能力」などのアカデミックスキルを向上させることを目標とする。	
2. 授業内容 個人発表を2回行う。発表1では調べたことについての発表、発表2では、リサーチクエスチョンを立て、必要な資料を収集・整理し、さらに分析・考察を入れた口頭発表を行う。その後各自でレポートにまとめる。 第1回：イントロダクション、テーマ設定、情報収集の方法 第2回：発表1（発表、質疑応答） 第3回：発表1（発表、質疑応答） 第4回：発表1（発表、質疑応答） 第5回：リサーチの方法 第6回：発表補助資料の作成について 第7回：発表2（発表、質疑応答、ディスカッション） 第8回：発表2（発表、質疑応答、ディスカッション） 第9回：発表2（発表、質疑応答、ディスカッション） 第10回：発表2（発表、質疑応答、ディスカッション） 第11回：発表2（発表、質疑応答、ディスカッション） 第12回：発表2（発表、質疑応答、ディスカッション） 第13回：グループディスカッション 第14回：a: 総括、レポート提出、ピアリーディング 受講生の人数により変更になることがあるが、随時受講生と相談をして決定する。	
3. 履修上の注意 ・授業に出席し、積極的に発言すること、および真剣に課題に取り組むことが重視される。 ・グループワーク、クラスワークには積極的に参加し、クラスメイトと共に学び合う姿勢が大切である。 【必修日本語科目共通事項】 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退席しないこと。 ※体調不良などで退席する場合には担当教員に申し出ること。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 発表の準備には計画を立て、十分な時間を取って取り組むこと。	
5. 教科書 作成した教材を使用し、授業時に配布する。	
6. 参考書 『大学生のための文章表現&口頭発表練習帳』銅直信子他（国書刊行会）、『日本語口頭発表と討論の技術：コミュニケーション・スピーチ・ディベートのために』東海大学留学生センター口頭発表教材研究会（東海大学出版会）、『上級から超級へ 日本語超級話者へのかけはし』萩原稚佳子他（スリーエーネットワーク）等	
7. 成績評価の方法 発表（50%）、レポート（20%）、授業貢献度・課題提出等（30%）、により、総合的に評価する。	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）読解A
担当者	糸川 優
1. 授業の概要・到達目標 大学の学びが始まろうというこの時期に、知的活動の基となる読解の基礎を身につける。 新しい知識を得ようという時に、読解力の不足は致命的である。しかし、文章には概ねパターンがあり、そのパターンを知ること、読むことのハードルは下がる。 読むハードルを下げ、書かれていることを正確に理解するのみならず、能動的な読みを目指す。	
2. 授業内容 第1回 インTRODakション ハンドアウト 第2回 03 ゼミナール 予習確認テスト、担当者による報告 第3回 04 カレーライス(1) 予習確認テスト、担当者による報告 第4回 04 カレーライス(2) 予習確認テスト、担当者による報告、小テスト 第5回 05 好きと嫌い(1) 予習確認テスト、担当者による報告 第6回 05 好きと嫌い(2) 予習確認テスト、担当者による報告、小テスト 第7回 06 お風呂(1) 予習確認テスト、担当者による報告 第8回 06 お風呂(2) 予習確認テスト、担当者による報告、小テスト 第9回 07 右利きと左利き(1) 予習確認テスト、担当者による報告 第10回 07 右利きと左利き(2) 予習確認テスト、担当者による報告、小テスト 第11回 08 タタマエとホンネ(1) 予習確認テスト、担当者による報告 第12回 08 タタマエとホンネ(2) 予習確認テスト、担当者による報告、小テスト 第13回 09 自動販売機(1) 予習確認テスト、担当者による報告 第14回 09 自動販売機(2) 予習確認テスト、担当者による報告、小テスト	
3. 履修上の注意 目的意識をもって自主的に取り組むことを求める。 書いたものにコピーペーストがあった場合、また、自動翻訳を用いた疑いがある場合、単位は与えられない。 課題が多いので、スケジュール表を常に確認のこと。 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、予習として下読みをすること。 担当者はハンドアウトを作成する。	
5. 教科書 大学指定1年読解テキスト	
6. 参考書 特にありません。	
7. 成績評価の方法 参加・貢献度 10% 予習確認テスト 20% 課題 10% 報告 35% ディスカッション 25%	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）読解B
担当者	糸川 優
1. 授業の概要・到達目標 知的活動の基となる読解の基礎を身につける。 新しい知識を得ようという時に、読解力の不足は致命的である。しかし、文章には概ねパターンがあり、そのパターンを知ること、読むことのハードルは下がる。 読むハードルを下げ、書かれていることを正確に理解するのみならず、能動的な読みを旨とする。	
2. 授業内容 第1回 イントロダクション ハンドアウト 第2回 10 敬語 予習確認テスト、担当者による報告 第3回 11 母の日・父の日(1) 予習確認テスト、担当者による報告 第4回 11 母の日・父の日(2) 予習確認テスト、担当者による報告、小テスト 第5回 12 外国語学習と辞書(1) 予習確認テスト、担当者による報告 第6回 12 外国語学習と辞書(2) 予習確認テスト、担当者による報告、小テスト 第7回 13 数学者の言葉(1) 予習確認テスト、担当者による報告 第8回 13 数学者の言葉(2) 予習確認テスト、担当者による報告、小テスト 第9回 14 アーチの空中回廊(1) 予習確認テスト、担当者による報告 第10回 14 アーチの空中回廊(2) 予習確認テスト、担当者による報告、小テスト 第11回 15 わかるとは(1) 予習確認テスト、担当者による報告 第12回 15 わかるとは(2) 予習確認テスト、担当者による報告、小テスト 第13回 16 明るい悩み(1) 予習確認テスト、担当者による報告 第14回 16 明るい悩み(2) 予習確認テスト、担当者による報告、小テスト	
3. 履修上の注意 目的意識をもって自主的に取り組むことを求める。 書いたものにコピーペーストがあった場合、また、自動翻訳を用いた疑いがある場合、単位は与えられない。 課題が多いので、スケジュール表を常に確認のこと。 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、予習として下読みをすること。 担当者はハンドアウトを作成する。	
5. 教科書 大学指定1年読解テキスト	
6. 参考書 特にありません。	
7. 成績評価の方法 参加・貢献度 10% 予習確認テスト 20% 課題 10% 報告 35% ディスカッション 25%	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）作文A
担当者	大木 理恵
1. 授業の概要・到達目標 この授業では、留学生が大学での勉学や活動に必要な日本語能力を身につけるとともに、レポート作成のための基礎的能力を養うことを目標とする。『上級日本語コース 作文』の前半部分を用いて、論述文に必要な基本的論理展開のパターンを学習し、書き言葉の語彙の習熟及び表現の運用、またこれらの定着を図る。	
2. 授業内容 第1回：イントロダクション、作文（1）前半 第2回：クイズ（1）、作文（1）後半 第3回：クイズ（2）、作文（2）前半 第4回：クイズ（3）、作文（2）後半 第5回：クイズ（4）、作文（3）前半 第6回：クイズ（5）、作文（3）後半 第7回：クイズ（6）、作文（4）前半 第8回：クイズ（7）、作文（4）後半 第9回：クイズ（8）、作文（5）前半 第10回：クイズ（9）、作文（5）後半 第11回：ディスカッション 第12回：クイズ（10）、作文（6）前半 第13回：作文（6）後半 第14回：期末試験、振り返り * 授業の進み具合によっては内容が変更することもある。	
3. 履修上の注意 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること 6) クイズは授業の最初に行うので遅刻した場合は受けられない。 7) 課題等は指定された提出日時より遅れた場合はマイナス評価となるので注意。 8) 授業中、発表者への質問やディスカッションに積極的に参加すること。 9) 授業には毎回辞書を持ってくること。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 学習したことの復習クイズを適宜行うので、学習内容は必ず復習しておくこと。	
5. 教科書 『上級日本語コース（作文）』明治大学日本語教育研究室、2020年（無償配布）	
6. 参考書 授業時に随時紹介する。	
7. 成績評価の方法 授業への貢献度：20% クイズ：10% 課題・発表：40% 期末試験・レポート：30%	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN181J
科目名	日本語（1年）作文B
担当者	大木 理恵
1. 授業の概要・到達目標	
<p>この授業では、留学生が大学での勉学や活動に必要な日本語能力を身につけるとともに、レポート作成のための基礎的能力を養うことを目標とする。『上級日本語コース 作文』の後半部分を用いて、教養科目のレポートレポートが作成できるように文法知識、語彙知識、書き言葉の表現の運用力を磨く。</p>	
2. 授業内容	
<p>第1回：イントロダクション、 第2回：クイズ（1）、作文（1）前半 第3回：クイズ（2）、作文（1）後半 第4回：クイズ（3）、作文（2）前半 第5回：クイズ（4）、作文（2）後半 第6回：クイズ（5）、作文（3）前半 第7回：ディスカッション 第8回：資料の集め方、図書館の使い方 第9回：クイズ（6）、作文（3）後半 第10回：クイズ（7）、期末レポート準備（1） 第11回：クイズ（8）、期末レポート準備（2） 第12回：クイズ（9）、期末レポート準備（3） 第13回：クイズ（10）、期末レポート準備（4）期末レポート初稿提出 第14回：期末レポートの発表、期末レポート初稿のFB * 授業の進み具合によっては内容が変更することもある。</p>	
3. 履修上の注意	
<p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらすぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること 6) クイズは授業の最初に行うので遅刻した場合は受けられない。 7) 課題等は指定された提出日より遅れた場合はマイナス評価となるので注意。 8) 授業中、発表者への質問やディスカッションに積極的に参加すること。 9) 授業には毎回辞書を持ってくること。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>学習したことの復習クイズを適宜行うので、学習内容は必ず復習しておくこと。</p>	
5. 教科書	
<p>『上級日本語コース（作文）』明治大学日本語教育研究室、2020年（無償配布）</p>	
6. 参考書	
<p>授業時に随時紹介する。</p>	
7. 成績評価の方法	
<p>授業への貢献度：20% クイズ：10% 課題・発表：40% 期末試験・レポート：30%</p>	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN281J
科目名	日本語（2年）精読A
担当者	小林 由紀
1. 授業の概要・到達目標 いろいろな文章を読む。読み取った内容を他の人に説明したり、内容について話し合ったりして、内容について理解を深める。 文章を必要に合わせて、目的をもって読めるようになる。自分のことばで文章の内容をまとめられるようになる。筆者の言いたいことを読み取れるようになる。	
2. 授業内容 第1回 インTRODクシヨン、教材（1）導入 第2回 教材（1）語彙・表現 第3回 教材（1）内容理解 第4回 教材（1）まとめ 第5回 教材（2）語彙・表現 第6回 教材（2）内容理解 第7回 教材（2）まとめ 第8回 教材（3）語彙・表現 第9回 教材（3）内容理解 第10回 教材（3）まとめ 第11回 教材（4）語彙・表現 第12回 教材（4）内容理解 第13回 教材（4）まとめ 第14回 試験、まとめ	
3. 履修上の注意 授業には辞書を持ってくること。 【必修日本語科目共通事項】 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。※電車の遅延は日常なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・ 次の回の授業で扱う文章を読み、漢字と語彙を調べておくこと。 ・ 当てられた時にテキストが読めるように漢字の読み方を確認しておくこと。 ・ 内容理解の質問にも目を通しておき、授業後にやったところは復習しておくこと。	
5. 教科書 使用しない。プリントを使用する。	
6. 参考書 必要に応じて随時紹介する。	
7. 成績評価の方法 課題・小テスト 40% 期末試験 40% 平常点（授業参加態度など） 20%	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(IC)LAN281J
科目名	日本語（2年）精読B
担当者	小林 由紀
1. 授業の概要・到達目標 まとまった長さの新書の文章を読む。読み取った内容を他の人に説明したり、内容について話し合ったりして、内容について理解を深める。 文章を必要に応じて詳細に、目的をもって読めるようになる。自分のことばで文章の内容をまとめ、わかりやすく説明できるようになる。筆者の言いたいことを読み取り、それに対する自分の意見が言えるようになる。	
2. 授業内容 第1回 インTRODクシヨン、教材（1）導入 第2回 教材（1）語彙・表現 第3回 教材（1）内容理解その1 第4回 教材（1）内容理解その2 第5回 教材（1）まとめ 第6回 教材（2）語彙・表現 第7回 教材（2）内容理解その1 第8回 教材（2）内容理解その2 第9回 教材（2）まとめ 第10回 教材（3）語彙・表現 第11回 教材（3）内容理解その1 第12回 教材（3）内容理解その2 第13回 教材（3）まとめ 第14回 試験、まとめ	
3. 履修上の注意 授業には辞書を持ってくること。 【必修日本語科目共通事項】 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。※電車の遅延は日常なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・ 次の回の授業で扱う文章を読み、漢字と語彙を調べておくこと。 ・ 当てられた時にテキストが読めるように漢字の読み方を確認しておくこと。 ・ 内容理解の質問にも目を通しておき、授業後にやったところは復習しておくこと。	
5. 教科書 使用しない。プリントを配布する。	
6. 参考書 必要に応じて随時紹介する。	
7. 成績評価の方法 課題・小テスト 40% 期末試験 40% 平常点（授業参加態度など） 20%	
8. その他	

日本語

(生田キャンパス)

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(AG) LAN181J						
科目名	日本語 I B (作文)						
担当者	高橋 純子						
1. 授業の概要・到達目標 外国人留学生が大学での勉学に必要なとされるのは何よりもまず十分な日本語力です。この授業では、その中で特に日本語の作文能力の向上を目指した練習を行います。具体的には『上級日本語コース 作文Ⅱ』の前半部分を主教材として使用し、以下のことができるようになります。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 原稿用紙の書き方、ワープロでの文章の書き方を始め、レポート作成の基本を学ぶ。 2) 表、グラフなどの資料を説明する日本語表現を学び、使えるようになる。 3) 新聞、雑誌記事などの要約ができるようになる。 4) 具体的な例をあげたり、比喩を用いてある事柄が説明でき、意見を述べる事が出来るようになる。 5) 参考文献の提示の仕方を学び、引用の仕方を学ぶ。 6) 視覚資料を作成し、効果的なプレゼンができるようになる。 7) 相手、内容に合わせたメール文が作成できるようになる。 8) 話し言葉と書き言葉の使い分けができるようになる。 							
2. 授業内容 第1講：a. イントロダクション b. 原稿用紙の使い方 (1) 第2～4講：原稿用紙の使い方 (2) 自己紹介文 人物紹介文 (クラスメートの紹介) 第5～6講：粗筋を書く。 第7～8講：仕組、手順、方法など順序立てて説明する文章を書く。 第9～10講：内容整理 要点を示す表現 第11～12講：比較・対照する表現を用い、グラフや表の解説をする。 第13講：因果関係を述べる文を書く。 第14講：プレゼンと講評 諸般の事情によりスケジュールが変更になる場合があります。							
3. 履修上の注意 <ul style="list-style-type: none"> ・文章表現の授業は課題作文の提出がなければ成り立ちません。授業への出席は言うまでもなく、課題作文の提出、提出期限を厳守してください。提出期限を過ぎたものは減点します。 ・作文は OH-o!Meiji に提出してください。 ・授業への出席、作文練習への積極的取り組みを重視します。 ・言葉の訓練ですから、受講生の自主的予習、復習が大切です。 ・添削された作文は、よく読んで理解し、さらなる上達を目指してください。再提出を求めることもあります。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。※特別な理由がある場合は届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらすぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 							
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 作文テーマに関する情報収集を行うこと。 文法・文型に関する練習問題の課題があります。既習の文法・文型・語彙・表現などの復習をしてください。							
5. 教科書 『上級日本語コース（作文）』（明治大学日本語教育研究室 2019年） プリント教材も使用します。							
6. 参考書 『大学・大学院留学生の日本語作文編』アカデミック・ジャパニーズ研究会編著（株）アルク 『大学で学ぶための日本語ライティング』、The Japan Times, 『小論文への12のステップー中級学習者対象』、友松悦子著、(スリーエーネットワーク) 『留学生のための論理的文章の書き方』、二通信子著、(スリーエーネットワーク)							
7. 成績評価の方法 <table> <tr> <td>練習作文（毎回の提出作文と小テスト） （提出期日を過ぎた場合は減点有り）</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>レポートと発表</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>平常点（課題への積極的取り組みとクラス活動への貢献）</td> <td>20%</td> </tr> </table>		練習作文（毎回の提出作文と小テスト） （提出期日を過ぎた場合は減点有り）	40%	レポートと発表	40%	平常点（課題への積極的取り組みとクラス活動への貢献）	20%
練習作文（毎回の提出作文と小テスト） （提出期日を過ぎた場合は減点有り）	40%						
レポートと発表	40%						
平常点（課題への積極的取り組みとクラス活動への貢献）	20%						
8. その他 出席は2/3以上が必要です。 課題の提出は期限厳守のこと。期限を過ぎた場合は減点があります。 担当教員のメールアドレスは授業時に知らせます。							

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(AG) LAN181J						
科目名	日本語 I B (作文)						
担当者	高橋 純子						
1. 授業の概要・到達目標							
<p>外国人留学生在が大学での勉学に必要なとされるのは何よりもまず十分な日本語力です。この授業では、その中で特に日本語の作文能力の向上を目指した練習を行います。具体的には『上級日本語コース 作文』の後半部分を主教材として使用し、小論文・レポート作成に向けての文章表現上の基礎訓練を行います。特に論述文の基本的パターンを習得し、書き言葉に特徴的な語彙・表現の運用力の定着を図ります。論文作成の基本的な方法（構成メモの作成、引用のし方、注・参考文献の付し方、等）を学びます。学習目標は以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 文法的に正しい文章が書けるようになる。 2) 話し言葉、書き言葉の使い分けができるようになる。 3) 書く文章の種類によって、文体を変えることができるようになる。 4) 参考文献の提示、適切な引用ができるようになる。 5) レポートの構成を考え、章立てをしたレポートが書けるようになる。 6) 視覚資料を作成し、効果的なプレゼンができるようになる。 							
2. 授業内容							
<p>第1講：イントロダクション 第2～3講：要約文を書く。 第4～6講：意見文を書く。 第7～8講：レポートの作成開始。テーマを決め、資料集めを始める。 第9～10講：内容整理 要点を示す表現 第11～12講：構成と展開を考え、まとまった作品を完成する。 第13講：レポート発表準備 視覚資料などの準備。 第14講：プレゼンと講評</p> <p>このスケジュールは諸般の状況により変更することがあります。</p>							
3. 履修上の注意							
<ul style="list-style-type: none"> ・文章表現の授業は課題作文の提出がなければ成り立ちません。授業出席は言うまでもなく、課題作文の提出、提出期限厳守をしてください。提出期限を過ぎたものは減点します。 ・作文はOH-o!Meiji に提出します。 ・授業への出席、作文練習への積極的取り組みを重視します。言葉の訓練ですから、受講生の自主的予習、復習が大切です。 ・作成したレポートに基づき、視覚資料の作成し、プレゼンをします。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 							
4. 準備学習（予習・復習等）の内容							
<p>作文テーマに関する情報収集を行うこと。 文法・文型に関する練習問題の課題があります。既習の文法・文型・語彙・表現などの復習してください。</p>							
5. 教科書							
<p>『上級日本語コース（作文）』、(明治大学日本語教育研究室 2019年) プリント教材も使用します。</p>							
6. 参考書							
<p>『大学・大学院留学生の日本語作文編』アカデミック・ジャパニーズ研究会編著（株）アルク 『小論文への12のステップー中級学習者対象』、友松悦子著、(スリーエーネットワーク) 『大学で学ぶための日本語ライティング』、The Japan Times. 『留学生のための論理的文章の書き方』、二通信子著、(スリーエーネットワーク) 『短期集中初級日本語文法総まとめポイント20』、友松悦子、和栗雅子著（スリーエーネット</p>							
7. 成績評価の方法							
<table> <tr> <td>練習作文（毎回の提出作文と小テスト） （提出期日を過ぎた場合は減点有り）</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>レポートと発表</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>平常点（課題への積極的取り組みとクラス活動への貢献）</td> <td>20%</td> </tr> </table>		練習作文（毎回の提出作文と小テスト） （提出期日を過ぎた場合は減点有り）	40%	レポートと発表	40%	平常点（課題への積極的取り組みとクラス活動への貢献）	20%
練習作文（毎回の提出作文と小テスト） （提出期日を過ぎた場合は減点有り）	40%						
レポートと発表	40%						
平常点（課題への積極的取り組みとクラス活動への貢献）	20%						
8. その他							
<p>出席は2/3以上が必要です。 課題の提出は期限厳守のこと。期限を過ぎた場合は減点があります。 担当教員のメールアドレスは授業時に知らせます。</p>							

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(AG) LAN181J
科目名	日本語 I A (読解)
担当者	高橋 純子
1. 授業の概要・到達目標	
<p>この授業では、大学での勉学に必要な精密な読解力を養うために、文章を深く正確に読み解く練習を行います。文法力の一層の強化、語彙の拡充に努め、文章の表面的な理解に留まることなく、背景知識を学び、文章構造の特徴、論理的展開の方法などについて理解することが求められます。日本語読解力を高めるとともに、読んだ物に関して、感想、意見を学生同士で交換できる口頭表現力、文章力を養います。読んだものに関して、自分の意見を述べ、教師およびクラスメートと感想、意見を積極的に交換しあうことで、さらに深い理解へと進めていく姿勢が求められます。内容について、批判的読みができるようになることを目指します。読むことを中心に授業を進めますが、「話す（口頭表現能力）」「聞く（聴解力）」「書く（文章表現能力）」の技能も高め、総合的日本語力の向上を目指します。</p>	
2. 授業内容	
<p>授業はおおよそ以下のような要領で実施します。読み物の長短により、時間配分を調節します。</p> <p>第1回：a. イントロダクション（授業案内と自己紹介） b. 読み物（1）の配布及び授業の進め方を学ぶ。</p> <p>第2回：読み物（1）の読解練習（内容理解、文法・文型の確認と応用練習、語彙・表現の確認と応用練習、意見・感想の交換）</p> <p>第3回：小テスト 読み物（2）</p> <p>第4回：読み物（2）</p> <p>第5回：小テスト 読み物（3）</p> <p>第6回：読み物（3）</p> <p>第7回：小テスト 読み物（4）</p> <p>第8回：読み物（4）</p> <p>第9回：小テスト 読み物（5）</p> <p>第10回：読み物（5）</p> <p>第11回：小テスト 読み物（6）</p> <p>第12回：読み物（6）</p> <p>第13回：小テスト 総復習</p> <p>第14回：a. 復習試験 b. まとめ</p> <p>スケジュールは、諸般の事情により変更することがあります。</p>	
3. 履修上の注意	
<p>授業前の準備、および授業後の復習を十分に行うこと。</p> <p>クラスメートと意見・感想を積極的に交換し合うこと。</p> <p>授業での読み物教材だけでなく、幅広く様々な読み物に接するようにすること。</p> <p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。</p> <p>2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。</p> <p>3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。</p> <p>4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。</p> <p>5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>各読み物には、内容理解質問、文法・文型の確認と応用練習、語彙・表現の確認と応用練習などのワークシートがあります。翌週の授業前にそれらを記入し、不明なところを授業で質問、確認してください。また、各読み物の文中で使われた表現、語彙、文型などに関する小テストを行うので、よく復習をしてください。</p> <p>読み物に関連した情報収集の課題があります。</p>	
5. 教科書	
<p>『上級日本語コース（読解）』 明治大学日本語教室 2020年 新聞、雑誌記事、小説、論説文などからのプリント教材を配布します。 読み物に関するテレビ録画教材、聴解教材も使用します。</p>	
6. 参考書	
<p>『短期集中初級日本語文法総まとめポイント20』友松悦子 和栗雅子著（スリーエーネットワーク） 『中級日本語文法要点整理ポイント20』友松悦子 和栗雅子著（スリーエーネットワーク）</p>	
7. 成績評価の方法	
小テストと課題の提出	40%
期末試験	40%
平常点（授業への取り組み及び貢献）	20%
8. その他	
<p>出席は2/3以上が必要です。</p> <p>課題の提出は期限厳守のこと。期限を過ぎた場合は減点があります。</p>	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(AG) LAN181J
科目名	日本語 I A (読解)
担当者	高橋 純子
1. 授業の概要・到達目標	
<p>この授業では、大学での勉学に必要な精密な読解力を養うために、文章を深く正確に読み解く練習を行います。文法力の一層の強化、語彙の拡充に努め、文章の表面的な理解に留まることなく、背景知識を学び、文章構造の特徴、論理的展開の方法などについて理解することが求められます。日本語読解力を高めるとともに、読んだ物に関して、感想、意見を学生同士で交換できる口頭表現力、文章力を養います。読んだものに関して、自分の意見を述べ、教師およびクラスメートと感想、意見を積極的に交換しあうことで、さらに深い理解へと進めていく姿勢が求められます。内容について、批判的読みができるようになることを目指します。読むことを中心に授業を進めますが、「話す（口頭表現能力）」「聞く（聴解力）」「書く（文章表現能力）」の技能も高め、総合的日本語力の向上を目指します。</p>	
2. 授業内容	
<p>授業はおおよそ以下のような要領で実施します。読み物の長短により、時間配分を調節します。</p> <p>第1回：a. イントロダクション（授業案内と自己紹介） b. 読み物（1）の配布及び授業の進め方を学ぶ。</p> <p>第2回：読み物（1）の読解練習（内容理解、文法・文型の確認と応用練習、語彙・表現の確認と応用練習、意見・感想の交換）</p> <p>第3回：小テスト 読み物（2）</p> <p>第4回：読み物（2）</p> <p>第5回：小テスト 読み物（3）</p> <p>第6回：読み物（3）</p> <p>第7回：小テスト 読み物（4）</p> <p>第8回：読み物（4）</p> <p>第9回：小テスト 読み物（5）</p> <p>第10回：読み物（5）</p> <p>第11回：小テスト 読み物（6）</p> <p>第12回：読み物（6）</p> <p>第13回：小テスト 総復習</p> <p>第14回：a. 復習試験 b. まとめ</p> <p>スケジュールは、諸般の事情により変更することがあります。</p>	
3. 履修上の注意	
<p>授業前の準備、および授業後の復習を十分に行うこと。</p> <p>クラスメートと意見・感想を積極的に交換し合うこと。</p> <p>授業での読み物教材だけでなく、幅広く様々な読み物に接するようにすること。</p> <p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。</p> <p>2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。</p> <p>3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。</p> <p>4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。</p> <p>6) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>各読み物には、内容理解質問、文法・文型の確認と応用練習、語彙・表現の確認と応用練習などのワークシートがあります。翌週の授業前にそれらを記入し、不明なところを授業で質問、確認してください。また、各読み物の文中で使われた表現、語彙、文型などに関する小テストを行うので、よく復習をしてください。</p> <p>読み物に関連した情報収集の課題があります。</p>	
5. 教科書	
<p>『上級日本語コース（読解）』 明治大学日本語教室 2020年 新聞、雑誌記事、小説、論説文などからのプリント教材を配布します。 読み物に関するテレビ録画教材、聴解教材も使用します。</p>	
6. 参考書	
<p>『短期集中初級日本語文法総まとめポイント20』友松悦子 和栗雅子著（スリーエーネットワーク） 『中級日本語文法要点整理ポイント20』友松悦子 和栗雅子著（スリーエーネットワーク）</p>	
7. 成績評価の方法	
小テストと課題の提出	40%
期末試験	40%
平常点（授業への取り組み及び貢献）	20%
8. その他	
<p>出席は2/3以上が必要です。</p> <p>課題の提出は期限厳守のこと。期限を過ぎた場合は減点があります。</p>	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(AG)LAN181J
科目名	日本語 I A (読解)
担当者	小林 由紀
1. 授業の概要・到達目標 いろいろな文章を読み、漢字や語句の意味などを確認し、内容についてタスクや質問に答えることで理解できるようにする。さらに、自分で質問をしたり、引用して意見を言ったりすることで、文章を自分なりのことばで言い換えて利用できるようにする。 大学での学習に必要な基本的な読解力を身につける。書き言葉の文章の文体に慣れ、レベルにあった漢字・語彙の知識を身につける。自分のことばで文章の内容をある程度説明できるようになる。	
2. 授業内容 第1回 インTRODクシヨン、第2課導入 第2回 第2課 語彙・表現 第3回 第2課 内容理解 第4回 第2課 まとめ 第5回 第4課 語彙・表現 第6回 第4課 内容理解 第7回 第4課 まとめ 第8回 第6課 語彙・表現 第9回、第6課 内容理解 第10回、第6課 まとめ 第11回、第7課 語彙・表現 第12回、第7課 内容理解 第13回、第7課 まとめ 第14回 試験、まとめ	
3. 履修上の注意 授業には辞書を持ってくこと。 【必修日本語科目共通事項】 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。※電車の遅延は日常なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・ 次の回の授業で扱う文章を読み、漢字と語彙を調べておくこと。 ・ 当てられた時にテキストが読めるように漢字の読み方を確認しておくこと。 ・ 内容理解の質問にも目を通しておき、授業後にやったところは復習しておくこと。	
5. 教科書 『上級日本語コース（読解）』明治大学日本語教育研究室、2020年	
6. 参考書 必要に応じて随時紹介する。	
7. 成績評価の方法 課題・小テスト 40% 期末試験 40% 平常点（授業参加態度など）20%	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(AG) LAN181J
科目名	日本語 I A (読解)
担当者	小林 由紀
1. 授業の概要・到達目標	
<p>少し長い文章を読み、漢字や語句の意味などを確認し、内容や構成についてタスクや質問に答えることで理解できるようにする。さらに、自分で質問をしたり、引用して意見を言ったりすることで、文章を自分なりのことばで言い換えて利用できるようにする。</p> <p>大学での学習に必要な読解力を身につける。文章の構成や話の流れを理解した上でそれぞれの文の意味が理解できるようになる。自分のことばで文章の内容を説明できるようになる。</p>	
2. 授業内容	
<p>第1回 インTRODクシヨン、第8課導入 第2回 第8課 語彙・表現 第3回 第8課 内容理解 第4回 第8課 まとめ 第5回 第10課 語彙・表現 第6回 第10課 内容理解 第7回 第10課 まとめ 第8回 第14課 語彙・表現 第9回 第14課 内容理解 第10回 第14課 まとめ 第11回 第15課 語彙・表現 第12回 第15課 内容理解 第13回 第15課 まとめ 第14回 試験、まとめ</p>	
3. 履修上の注意	
<p>授業には辞書を持ってくこと。 【必修日本語科目共通事項】 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。※電車の遅延は日常なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 次の回の授業で扱う文章を読み、漢字と語彙を調べておくこと。 ・ 当てられた時にテキストが読めるように漢字の読み方を確認しておくこと。 ・ 内容理解の質問にも目を通しておき、授業後にやったところは復習しておくこと。 	
5. 教科書	
『上級日本語コース（読解）』 明治大学日本語教育研究室、2020年	
6. 参考書	
必要に応じて随時紹介する。	
7. 成績評価の方法	
<p>課題・小テスト 40% 期末試験 40% 平常点（授業参加態度など） 20%</p>	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(AG) LAN181J						
科目名	日本語 I A (読解)						
担当者	高橋 純子						
1. 授業の概要・到達目標							
<p>外国人留学生が大学での勉学に必要なとされるのは何よりもまず十分な日本語力です。この授業では、その中で特に日本語の読解能力の向上を目指した練習を行い、日本語力の一層の拡充を図ります。具体的には、日本語の一般書が自由に読めるように、様々な文体、構文に慣れ親しむとともに、書き言葉を中心とした語彙、表現の習得に重点を置きます。</p> <p>読んだ物に関して、感想、意見を学生同士で交換できる口頭表現力、文章力を養います。「読む」ことを中心としますが、他の技能「書く」「話す」「聞く」の能力も養成し、総合的日本語力の向上を目指します。また読んだものに関して、クラスメート及び教師と積極的に意見交換をすることで、さらに理解を深めていくことを目指します。</p>							
2. 授業内容							
<p>授業はおおよそ以下のような要領で実施します。読み物の長短により、時間配分を調節します。</p> <p>第 1 回：a. イントロダクション（授業案内と自己紹介） b. 読み物（1）の配布及び授業の進め方を学ぶ。</p> <p>第 2 回：読み物（1）の読解練習（内容理解、文法・文型の確認と応用練習、語彙・表現の確認と応用練習、意見・感想の交換）</p> <p>第 3 回：小テスト 読み物（2）</p> <p>第 4 回：読み物（2）</p> <p>第 5 回：小テスト 読み物（3）</p> <p>第 6 回：読み物（3）</p> <p>第 7 回：小テスト 読み物（4）</p> <p>第 8 回：読み物（4）</p> <p>第 9 回：小テスト 読み物（5）</p> <p>第 10 回：読み物（5）</p> <p>第 11 回：小テスト 読み物（6）</p> <p>第 12 回：読み物（6）</p> <p>第 13 回：小テスト 総復習</p> <p>第 14 回：a. 復習試験 b. まとめ</p> <p>スケジュールは、諸般の事情により変更することがあります。</p>							
3. 履修上の注意							
<p>授業前の準備、および授業後の復習を十分に行うこと。 クラスメートと意見・感想を積極的に交換し合うこと。 授業での読み物教材だけでなく、幅広く様々な読み物に接するようにすること。</p> <p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。</p>							
4. 準備学習（予習・復習等）の内容							
<p>各読み物には、内容理解質問、文法・文型の確認と応用練習、語彙・表現の確認と応用練習などのワークシートがあります。翌週の授業前にそれらを記入し、不明なところを授業で質問、確認してください。また、各読み物の文中で使われた表現、語彙、文型などに関する小テストを行うので、よく復習をしてください。</p> <p>読み物に関連した情報収集の課題があります。</p>							
5. 教科書							
<p>『上級日本語コース（読解）』 明治大学日本語教室 2020年 新聞、雑誌記事、小説、論説文などからのプリント教材を配布します。 読み物に関するテレビ録画教材、聴解教材も使用します。</p>							
6. 参考書							
<p>『短期集中初級日本語文法総まとめポイント20』 友松悦子 和栗雅子著（スリーエーネットワーク） 『中級日本語文法要点整理ポイント20』 友松悦子 和栗雅子著（スリーエーネットワーク）</p>							
7. 成績評価の方法							
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 80%;">小テストと課題の提出</td> <td style="text-align: right;">40%</td> </tr> <tr> <td>期末試験</td> <td style="text-align: right;">40%</td> </tr> <tr> <td>平常点（授業への取り組み及び貢献）</td> <td style="text-align: right;">20%</td> </tr> </table>		小テストと課題の提出	40%	期末試験	40%	平常点（授業への取り組み及び貢献）	20%
小テストと課題の提出	40%						
期末試験	40%						
平常点（授業への取り組み及び貢献）	20%						
8. その他							
<p>出席は2/3以上が必要です。 課題の提出は期限厳守のこと。期限を過ぎた場合は減点があります。</p>							

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(AG) LAN181J
科目名	日本語 I A (読解)
担当者	高橋 純子
1. 授業の概要・到達目標	
<p>外国人留学生が大学での勉学に必要なとされるのは何よりもまず十分な日本語力です。この授業では、その中で特に日本語の読解能力の向上を目指した練習を行い、日本語力の一層の拡充を図ります。具体的には、日本語の一般書が自由に読めるように、様々な文体、構文に慣れ親しむとともに、書き言葉を中心とした語彙、表現の習得に重点を置きます。</p> <p>読んだ物に関して、感想、意見を学生同士で交換できる口頭表現力、文章力を養います。「読む」ことを中心としますが、他の技能「書く」「話す」「聞く」の能力も養成し、総合的日本語力の向上を目指します。また読んだものに関して、クラスメート及び教師と積極的に意見交換をすることで、さらに理解を深めていくことを目指します。</p>	
2. 授業内容	
<p>授業はおおよそ以下のような要領で実施します。読み物の長短により、時間配分を調節します。</p> <p>第 1 回：a. イントロダクション（授業案内と自己紹介） b. 読み物（1）の配布及び授業の進め方を学ぶ。</p> <p>第 2 回：読み物（1）の読解練習（内容理解、文法・文型の確認と応用練習、語彙・表現の確認と応用練習、意見・感想の交換）</p> <p>第 3 回：小テスト 読み物（2）</p> <p>第 4 回：読み物（2）</p> <p>第 5 回：小テスト 読み物（3）</p> <p>第 6 回：読み物（3）</p> <p>第 7 回：小テスト 読み物（4）</p> <p>第 8 回：読み物（4）</p> <p>第 9 回：小テスト 読み物（5）</p> <p>第 10 回：読み物（5）</p> <p>第 11 回：小テスト 読み物（6）</p> <p>第 12 回：読み物（6）</p> <p>第 13 回：小テスト 総復習</p> <p>第 14 回：a. 復習試験 b. まとめ</p> <p>スケジュールは、諸般の事情により変更することがあります。</p>	
3. 履修上の注意	
<p>授業前の準備、および授業後の復習を十分に行うこと。 クラスメートと意見・感想を積極的に交換し合うこと。 授業での読み物教材だけでなく、幅広く様々な読み物に接するようにすること。</p> <p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>各読み物には、内容理解質問、文法・文型の確認と応用練習、語彙・表現の確認と応用練習などのワークシートがあります。翌週の授業前にそれらを記入し、不明なところを授業で質問、確認してください。また、各読み物の文中で使われた表現、語彙、文型などに関する小テストを行うので、よく復習をしてください。</p> <p>読み物に関連した情報収集の課題があります。</p>	
5. 教科書	
<p>『上級日本語コース（読解）』 明治大学日本語教室 2020年 新聞、雑誌記事、小説、論説文などからのプリント教材を配布します。 読み物に関するテレビ録画教材、聴解教材も使用します。</p>	
6. 参考書	
<p>『短期集中初級日本語文法総まとめポイント20』友松悦子 和栗雅子著（スリーエーネットワーク） 『中級日本語文法要点整理ポイント20』友松悦子 和栗雅子著（スリーエーネットワーク）</p>	
7. 成績評価の方法	
小テストと課題の提出	40%
期末試験	40%
平常点（授業への取り組み及び貢献）	20%
8. その他	
<p>出席は2/3以上が必要です。 課題の提出は期限厳守のこと。期限を過ぎた場合は減点があります。</p>	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(AG) LAN181J						
科目名	日本語 I B (作文)						
担当者	高橋 純子						
1. 授業の概要・到達目標 外国人留学生が大学での勉学に必要なとされるのは何よりもまず十分な日本語力です。この授業では、その中で特に日本語の作文能力の向上を目指した練習を行います。具体的には『上級日本語コース 作文』の前半部分を主教材として使用し、以下のことができるようになります。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 原稿用紙の書き方、ワープロでの文章の書き方を始め、レポート作成の基本を学ぶ。 2) 表、グラフなどの資料を説明する日本語表現を学び、使えるようになる。 3) 新聞、雑誌記事などの要約ができるようになる。 4) 具体的な例をあげたり、比喩を用いてある事柄が説明でき、意見を述べる事が出来るようになる。 5) 参考文献の提示の仕方を学び、引用の仕方を学ぶ。 6) 視覚資料を作成し、効果的なプレゼンができるようになる。 7) 相手、内容に合わせたメール文が作成できるようになる。 8) 話し言葉と書き言葉の使い分けができるようになる。 							
2. 授業内容 第1講：a. イントロダクション b. 原稿用紙の使い方 (1) 第2～4講：原稿用紙の使い方 (2) 自己紹介文 人物紹介文 (クラスメートの紹介) 第5～6講：粗筋を書く。 第7～8講：仕組、手順、方法など順序立てて説明する文章を書く。 第9～10講：内容整理 要点を示す表現 第11～12講：比較・対照する表現を用い、グラフや表の解説をする。 第13講：因果関係を述べる文を書く。 第14講：プレゼン (最終レポートに基づく) と講評 図書館の利用の仕方を学ぶ、図書館ツアーがあります。(実施日は未定) 諸般の事情によりスケジュールが変更になることがあります。							
3. 履修上の注意 ・文章表現の授業は課題作文の提出がなければ成り立ちません。授業への出席は言うまでもなく、課題作文の提出、提出期限を厳守してください。提出期限を過ぎたものは減点します。 ・作文は OH-o!Meiji に提出します。 ・授業への出席、作文練習への積極的取り組みを重視します。言葉の訓練ですから、受講生の自主的予習、復習が大切です。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。※特別な理由がある場合は届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらすぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 							
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 作文テーマに関する情報収集を行うこと。 文法・文型に関する練習問題の課題があります。既習の文法・文型・語彙・表現などの復習をしてください。							
5. 教科書 『上級日本語コース (作文)』 (明治大学日本語教育研究室 2019年) その他、プリント教材を使用します。							
6. 参考書 『大学・大学院 留学生の日本語 作文編』 アカデミック・ジャパニーズ編著 (株) アルク 『大学で学ぶための日本語ライティング』、The Japan Times、 『小論文への12のステップー中級学習者対象』、友松悦子著、(スリーエーネットワーク) 『留学生のための論理的文章の書き方』、二通信子著、(スリーエーネットワーク) など。							
7. 成績評価の方法 <table> <tr> <td>練習作文 (毎回の提出作文と小テスト) (提出期日を過ぎた場合は減点有り)</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>レポートと発表</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>平常点 (課題への積極的取り組みとクラス活動への貢献)</td> <td>20%</td> </tr> </table>		練習作文 (毎回の提出作文と小テスト) (提出期日を過ぎた場合は減点有り)	40%	レポートと発表	40%	平常点 (課題への積極的取り組みとクラス活動への貢献)	20%
練習作文 (毎回の提出作文と小テスト) (提出期日を過ぎた場合は減点有り)	40%						
レポートと発表	40%						
平常点 (課題への積極的取り組みとクラス活動への貢献)	20%						
8. その他 出席は2/3以上が必要です。 課題の提出は期限厳守のこと。期限を過ぎた場合は減点があります。 担当教員のメールアドレスは授業時に知らせます。							

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(AG) LAN181J
科目名	日本語 I B (作文)
担当者	高橋 純子
1. 授業の概要・到達目標	
<p>外国人留学生が大学での勉学に必要なとされるのは何よりもまず十分な日本語力です。この授業では、その中で特に日本語の作文能力の向上を目指した練習を行います。具体的には『上級日本語コース作文』の後半部分を主教材として使用し、小論文・レポート作成に向けての文章表現上の基礎訓練を行います。特に論述文の基本的パターンを習得し、書き言葉に特徴的な語彙・表現の運用力の定着を図ります。論文作成の基本的な方法（構成メモの作成、引用のし方、注・参考文献の付し方、等）についても学びます。学習目標は以下の通りです。</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1) 文法的に正しい文章が書けるようになる。 2) 話し言葉、書き言葉の使い分けができるようになる。 3) 書く文章の種類によって、文体を変えることができるようになる。 4) 参考文献の提示、適切な引用ができるようになる。 5) レポートの構成を考え、章立てをしたレポートが書けるようになる。 6) 視覚資料を作成し、効果的なプレゼンができるようになる。 	
2. 授業内容	
<p>第1講：イントロダクション 第2～3講：要約文を書く。 第4～6講：意見文を書く。 第7～8講：レポートの作成開始。テーマを決め、資料集めを始める。 第9～10講：内容整理 要点を示す表現 第11～12講：構成と展開を考え、まとまった作品を完成する。 第13講：レポート発表準備 視覚資料などの準備。 第14講：(レポートに基づいた) プレゼンと講評</p>	
3. 履修上の注意	
<ul style="list-style-type: none"> ・文章表現の授業は課題作文の提出がなければ成り立たません。授業出席は言うまでもなく、課題作文の提出、提出期限を厳守してください。提出期限を過ぎたものは減点があります。 ・作文は0H-o!Meiji に提出します。 ・授業への出席、作文練習への積極的取り組みを重視します。言葉の訓練ですから、受講生の自主的予習、復習が大切です。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>作文テーマに関する情報収集を行うこと。 文法・文型に関する練習問題の課題があります。既習の文法・文型・語彙・表現などの復習してください。 プレゼンのための視覚資料の作成、準備が必要です。</p>	
5. 教科書	
<p>『上級日本語コース（作文）』、(明治大学日本語教育研究室 2019年) その他、プリント教材を使用します。</p>	
6. 参考書	
<p>『小論文への12のステップー中級学習者対象』、友松悦子著、(スリーエーネットワーク) 『大学で学ぶための日本語ライティング』、The Japan Times, 『大学・大学院留学生の日本語 論文読解編』、アカデミックジャパニーズ研究会、(アルク) 『留学生のための論理的文章の書き方』、二通信子著、(スリーエーネットワーク) 『短期集中初級日本語文法総まとめポイント20』、友松悦子、和栗雅子著 (スリーエーネットワーク) 『中級日本語文法要点整理ポイント20』、友松悦子、和栗雅子著 (スリーエーネットワーク)</p>	
7. 成績評価の方法	
<p>練習作文と小テスト 40% (提出期日を過ぎた場合は減点有り) レポートと発表 40% 平常点 (課題への積極的取り組みとクラス活動への貢献) 20%</p>	
8. その他	
<p>出席は2/3以上が必要です。 担当教員のメールアドレスは授業時に知らせます。</p>	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(AG) LAN181J
科目名	日本語 I B (作文)
担当者	糸川 優
1. 授業の概要・到達目標 これから大学生活を送るにあたり、必要となる日本語の書く能力の基礎を固める。アウトラインを作成し、堅固なものとする事で、考えたことを形にしていくプロセスを体験する。また、グループまたはペアで相互にチェックすることによって、各自が自分の書いたものを推敲できる力を養う。最終的に、4-5程度のディスコースからなるアカデミック文章が書けるようにする。	
2. 授業内容 第1回 イントロダクション (授業の進め方、提出物について、自己表現、原稿用紙の使い方) 第2回 ①メール (他の媒体との比較、体裁等) ②「人物の経歴を述べる」目的・手順説明 第3回 (仮)アウトライン相互チェック 第4回 フィードバックをもとに、原稿 (第一稿) 執筆 第5回 第一稿をもとに、推敲力をつけるための相互チェック 第6回 相互チェックをもとに第二稿執筆 第7回 「仕組み・手順・方法を述べる」フローチャートを相互チェック 第8回 フローチャートをもとに (仮)アウトライン執筆、相互チェック 第9回 本アウトラインのフィードバックをみながら、原稿 (第一稿) 執筆 第10回 原稿 (第一稿) をもとに相互チェック 第11回 「原因・理由と結果」ブレインストーミングの方法 第12回 ①ブレインマップをもとに (仮)アウトライン作成② (仮)アウトラインをもとに相互チェック 第13回 本アウトライン作成 第14回 原稿 (第一稿) 執筆 * 内容・進度は変更の可能性があります。	
3. 履修上の注意 目的意識をもって自主的に取り組むことを求める。 書いたものにコピーペーストがあった場合、また、自動翻訳を用いた疑いがある場合、単位は与えられない。 常に PC を準備すること。 課題が多いので、スケジュール表を常に確認のこと。 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。	
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 第1回 課題: 自己表現 シート、自己紹介動画を作成 (各 20分) 第2回 課題: ①メールを書いて送信 (20分) ②「人物の経歴を述べる」質問シート作成 (60分) (仮)アウトライン作成 (90分) 第3回 課題: 本アウトライン完成 (20分) 第4回 課題: 原稿 (第一稿) 完成 (180分) 第5回 第6回 課題: ①第二稿完成 (60分) ②「仕組み・手順・方法を述べる」フローチャートを作成 (60分) 第7回 課題: ①修正フローチャート完成 (40分) ②人物描写の最終稿を完成 (30分) 第8回 課題: 本アウトライン提出 (40分) 第9回 課題: 原稿 (第一稿) 完成 (180分) 第10回 課題: 第二稿完成 (100分) 第11回 課題: ①「仕組み・手順・方法を述べる」最終稿完成 (30分) ②ブレインマップ完成 (180分) 第12回 第13回 課題: 本アウトライン完成 (60分) 第14回 課題: フィードバックをもとに最終稿執筆 (30分)	
5. 教科書 『上級日本語コース (作文)』 (明治大学日本語教育研究室)	
6. 参考書 『論文・レポートの基本』 石黒圭 (日本実業出版社) 『レポート・論文作成法』 井下千以子 (慶應義塾大学出版会)	
7. 成績評価の方法 授業への参加・貢献度 15%、課題 85%	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(AG) LAN181J
科目名	日本語 I B (作文)
担当者	糸川 優
1. 授業の概要・到達目標 これから大学生活を送るにあたり、必要となる日本語の書く能力の基礎を固める。アウトラインを作成し、堅固なものとする事で、考えたことを形にしていくプロセスを体験する。また、グループまたはペアで相互にチェックすることによって、各自が自分の書いたものを推敲できる力を養う。最終的に、4-5程度のディスコースからなるアカデミック文章が書けるようにする。	
2. 授業内容 第1回 イントロダクション（授業の進め方、提出物について）、文章の構成 第2回 序論（部分）の役割、アウトライン、ブレインストーミングについて、「意見を述べる（1）」ブレインストーミング 第3回（仮）アウトライン相互チェック、本アウトライン作成 第4回 アウトラインフィードバック、修正、原稿執筆 第5回 アウトラインフィードバック、修正、原稿執筆 第6回 原稿の個別フィードバック 第7回 原稿の個別フィードバック 第8回 「意見を述べる（2）」ブレインストーミング、（仮）アウトライン 第9回（仮）アウトライン相互チェック、本アウトライン 第10回 アウトライン個別フィードバック 第11回 アウトライン個別フィードバック 第12回 原稿（第一稿）執筆 第13回 原稿の個別フィードバック、最終稿完成 第14回 原稿の個別フィードバック、最終稿完成 * 内容・進捗は変更の可能性があります。	
3. 履修上の注意 目的意識をもって自主的に取り組むことを求める。 書いたものにコピーペーストがあった場合、また、自動翻訳を用いた疑いがある場合、単位は与えられない。 常にPCを準備すること。 課題が多いので、スケジュール表を常に確認のこと。 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 第2回 準備：付箋2、3色 課題：（仮）アウトライン完成（80分） 第3回 課題：本アウトライン完成（20分） 第4・5回 課題：原稿（第一稿）完成（180分） 第6・7回 課題：最終稿完成（30分） 第8回 準備：付箋2、3色 課題：（仮）アウトライン提出（40分） 第9回 課題：本アウトライン完成（30分） 第12回 課題：原稿完成（60分） 第13・14回 課題：最終稿完成（30分）	
5. 教科書 『上級日本語コース（作文）』（明治大学日本語教育研究室）	
6. 参考書 『論文・レポートの基本』石黒圭（日本実業出版社） 『レポート・論文作成法』井下千子（慶應義塾大学出版会）	
7. 成績評価の方法 授業への参加・貢献度 15%、課題 85%	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(AG) LAN281J
科目名	日本語ⅡA (精読)
担当者	小林 由紀
1. 授業の概要・到達目標 いろいろな文章を読む。読み取った内容を他の人に説明したり、内容について話し合ったりして、内容について理解を深める。 文章を必要に合わせて、目的をもって読めるようになる。自分のことばで文章の内容をまとめられるようになる。筆者の言いたいことを読み取れるようになる。	
2. 授業内容 第1回 インTRODクシヨン、教材(1) 導入 第2回 教材(1) 語彙・表現 第3回 教材(1) 内容理解 第4回 教材(1) まとめ 第5回 教材(2) 語彙・表現 第6回 教材(2) 内容理解 第7回 教材(2) まとめ 第8回 教材(3) 語彙・表現 第9回 教材(3) 内容理解 第10回 教材(3) まとめ 第11回 教材(4) 語彙・表現 第12回 教材(4) 内容理解 第13回 教材(4) まとめ 第14回 試験、まとめ	
3. 履修上の注意 授業には辞書を持ってくること。 【必修日本語科目共通事項】 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。※電車の遅延は日常なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。	
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 ・ 次の回の授業で扱う文章を読み、漢字と語彙を調べておくこと。 ・ 当てられた時にテキストが読めるように漢字の読み方を確認しておくこと。 ・ 内容理解の質問にも目を通しておき、授業後にやったところは復習しておくこと。	
5. 教科書 使用しない。プリントを使用する。	
6. 参考書 必要に応じて随時紹介する。	
7. 成績評価の方法 課題・小テスト 40% 期末試験 40% 平常点(授業参加態度など) 20%	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(AG) LAN281J
科目名	日本語ⅡA (精読)
担当者	小林 由紀
1. 授業の概要・到達目標 まとまった長さの新書の文章を読む。読み取った内容を他の人に説明したり、内容について話し合ったりして、内容について理解を深める。 文章を必要に応じて詳細に、目的をもって読めるようになる。自分のことばで文章の内容をまとめ、わかりやすく説明できるようになる。筆者の言いたいことを読み取り、それに対する自分の意見が言えるようになる。	
2. 授業内容 第1回 インTRODクシヨン、教材(1) 導入 第2回 教材(1) 語彙・表現 第3回 教材(1) 内容理解その1 第4回 教材(1) 内容理解その2 第5回 教材(1) まとめ 第6回 教材(2) 語彙・表現 第7回 教材(2) 内容理解その1 第8回 教材(2) 内容理解その2 第9回 教材(2) まとめ 第10回 教材(3) 語彙・表現 第11回 教材(3) 内容理解その1 第12回 教材(3) 内容理解その2 第13回 教材(3) まとめ 第14回 試験、まとめ	
3. 履修上の注意 授業には辞書を持ってくること。 【必修日本語科目共通事項】 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。※電車の遅延は日常なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。	
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 ・ 次の回の授業で扱う文章を読み、漢字と語彙を調べておくこと。 ・ 当てられた時にテキストが読めるように漢字の読み方を確認しておくこと。 ・ 内容理解の質問にも目を通しておき、授業後にやったところは復習しておくこと。	
5. 教科書 使用しない。プリントを配布する。	
6. 参考書 必要に応じて随時紹介する。	
7. 成績評価の方法 課題・小テスト 40% 期末試験 40% 平常点(授業参加態度など) 20%	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(AG) LAN281J
科目名	日本語ⅡA (精読)
担当者	糸川 優
1. 授業の概要・到達目標	
<p>語彙や接続詞等に着目し、論理的に文章を読む力の向上を目的とする。読解のクラスではあるが、読む際に、書くことを意識して、構成や展開をみていく。語彙力、漢字力を養う一方で、書かれたものを批判的に読むことを目指す。読むだけでなく、アカデミックスキルを養うため、内容に関連して、プレゼンテーションも行う。</p>	
2. 授業内容	
<p>第1回 インTRODクシヨン (表現について) 第2回 ハンDアウト 第3回 予習確認テスト、担当者報告、ディスカッション スピーチ構成、言語的特徴 第4回 予習確認テスト、担当者報告、ディスカッション スピーチアウトライン作成 第5回 予習確認テスト、担当者報告、ディスカッション フィードバックに基づき、口頭練習 第6回 「特徴的な自分化の説明・紹介」プレゼン 第7回 予習確認テスト、担当者報告、ディスカッション 図表の解説について、数値読み等 第8回 予習確認テスト、担当者報告、ディスカッション 第9回 予習確認テスト、担当者報告、ディスカッション 第10回 予習確認テスト、担当者報告、ディスカッション ルーブリック提示 第11回 予習確認テスト、担当者報告、ディスカッション アウトライン作成 第12回 予習確認テスト、担当者報告、ディスカッション アウトラインフィードバック 第13回 プレゼン1と振り返り 第14回 プレゼン2と振り返り</p> <p>* 内容・進度は変更の可能性があります。</p>	
3. 履修上の注意	
<p>目的意識をもって自主的に取り組むことを求める。 書いたものにコピーペーストがあった場合、また、自動翻訳を用いた疑いがある場合、単位は与えられない。 課題が多いので、スケジュール表を常に確認のこと。</p> <p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらすぐ出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。</p>	
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容	
<p>第1回 自己表現シート、1分間自己紹介動画作成 (60分) 第2回 ハンDアウト課題 (60分) 第3回 下読み (60分)、担当者準備 (180分) 第4回 下読み (60分)、担当者準備 (180分) 第5回 下読み (60分)、担当者準備 (180分) 第6回 プレゼンテーション準備 第7回 下読み (60分)、担当者準備 (180分) 第8回 下読み (60分)、担当者準備 (180分) 第9回 下読み (60分)、担当者準備 (180分) 第10回 下読み (60分)、担当者準備 (180分) 第11回 下読み (60分)、担当者準備 (180分) 第12回 下読み (60分)、担当者準備 (180分) 第13回 プレゼンテーション準備 第14回 プレゼンテーション準備</p>	
5. 教科書	
『国境を越えて (本文篇)』山本富美子 (新曜社)	
6. 参考書	
『国境を越えて (タスク篇)』山本富美子 (新曜社)	
7. 成績評価の方法	
<p>担当箇所の発表・資料 30% 議論 40% 課題 5% 小テスト 10% プレゼンテーション 15%</p>	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(AG) LAN281J
科目名	日本語ⅡA (精読)
担当者	糸川 優
1. 授業の概要・到達目標	
語彙や接続詞等に着目し、論理的に文章を読む力の向上を目的とする。読解のクラスではあるが、読む際に、書くことを意識して、構成や展開をみていく。語彙力、漢字力を養う一方で、書かれたものを批判的に読むことを目指す。読むだけでなく、アカデミックスキルを養うため、内容に関連して、プレゼンテーションも行う。	
2. 授業内容	
<p>第1回 インTRODクッション (授業の目的、進め方等)、自己表現、ディスカッション</p> <p>第2回 予習確認テスト、1分間スピーチ、担当者による報告、ディスカッション</p> <p>第3回 予習確認テスト、1分間スピーチ、担当者による報告、ディスカッション</p> <p>第4回 予習確認テスト、1分間スピーチ、担当者による報告、ディスカッション</p> <p>第5回 ディベートについて、プレディベート</p> <p>第6回 予習確認テスト、1分間スピーチ、担当者による報告、ディスカッション ディベート論題に関するスピーチ</p> <p>第7回 予習確認テスト、1分間スピーチ、担当者による報告、ディスカッション ディベート論題に関する調査</p> <p>第8回 予習確認テスト、1分間スピーチ、担当者による報告、ディスカッション グループ相談</p> <p>第9回 予習確認テスト、1分間スピーチ、担当者による報告、ディスカッション グループシート作成</p> <p>第10回 予習確認テスト、1分間スピーチ、担当者による報告、ディスカッション 立論・反論シート作成</p> <p>第11回 予習確認テスト、1分間スピーチ、担当者による報告、ディスカッション ディベートの日本語</p> <p>第12回 予習確認テスト、1分間スピーチ、担当者による報告、ディスカッション</p> <p>第12回 予習確認テスト、1分間スピーチ、担当者による報告、ディスカッション 口頭練習</p> <p>第13回 予習確認テスト、1分間スピーチ、担当者による報告、ディスカッション 最終打ち合わせ</p> <p>第14回 ディベートと振り返り</p> <p>* 内容・進度は変更の可能性があります。</p>	
3. 履修上の注意	
<p>目的意識をもって自主的に取り組むことを求める。</p> <p>書いたものにコピーペーストがあった場合、また、自動翻訳を用いた疑いがある場合、単位は与えられない。</p> <p>課題が多いので、スケジュール表を常に確認のこと。</p> <p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。</p> <p>2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。</p> <p>3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。</p> <p>4) 遅刻した場合、教室に入ったらすぐに出席することを担当教員に申し出ること。</p> <p>5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。</p>	
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容	
<p>第1回 自己表現シート、1分間自己紹介 (60分)</p> <p>第2回 予習 (60分)、担当者準備 (180分)</p> <p>第3回 予習 (60分)、担当者準備 (180分)</p> <p>第4回 予習 (60分)、担当者準備 (180分)</p> <p>第5回 予習 (60分)、担当者準備 (180分)、ディベート資料 (60分)</p> <p>第6回 予習 (60分)、担当者準備 (180分)、ディベート論題に関するスピーチ準備 (20分)</p> <p>第7回 予習 (60分)、担当者準備 (180分)、ディベート論点の整理 (60分)</p> <p>第8回 予習 (60分)、担当者準備 (180分)、ディベート論題に関する調査 (60分)、グループシート作成 (60分)</p> <p>第9回 予習 (60分)、担当者準備 (180分)、ディベート論題に関する調査 (60分)</p> <p>第10回 予習 (60分)、担当者準備 (180分)、ディベート論題に関する調査 (60分)、立論・反論シート作成 (120分)</p> <p>第11回 予習 (60分)、担当者準備 (180分)、ディベート論題に関する調査 (60分)</p> <p>第12回 予習 (60分)、担当者準備 (180分)</p> <p>第13回 口頭練習 (45分)</p>	
5. 教科書	
『国境を越えて (本文篇)』山本富美子 (新曜社)	
6. 参考書	
『国境を越えて (タスク篇)』山本富美子 (新曜社)	
7. 成績評価の方法	
<p>授業への貢献・参加度 15%</p> <p>担当箇所の報告 30%</p> <p>小スピーチ 10%</p> <p>小テスト 15%</p> <p>ディベート 30%</p>	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(AG) LAN281J						
科目名	日本語ⅡA (精読)						
担当者	高橋 純子						
1. 授業の概要・到達目標 この授業では、大学での勉学に必要な精密な読解力を養うために、文章を深く正確に読み解く練習を行います。文法力の一層の強化、語彙の拡充に努め、文章の表面的な理解に留まることなく、背景知識を学び、文章構造の特徴、論理的展開の方法などについて理解することが求められます。日本語読解力を高めるとともに、日本文化・社会・歴史などへの知識を広げることを目的とし、新聞・雑誌記事や随筆、小説の抜粋などを読んでいきます。読んだ物に関して、感想、意見を学生同士で交換できる口頭表現力、文章力を養います。読んだものに関して、自分の意見を述べ、教師およびクラスメートと感想、意見を積極的に交換しあうことで、さらに深い理解へと進めていく姿勢が求められます。内容について、批判的読みができるようになることを目指します。読むことを中心に授業を進めますが、「話す (口頭表現能力)」「聞く (聴解力)」「書く (文章表現能力)」の技能も高め、総合的日本語力の向上を目指します。							
2. 授業内容 本授業では、内容的にまとまりのある文章を教材とし、読解 (音読も含む) と内容に関するディスカッションを行います。教材毎に文中で使われた語彙、表現、文型などの理解と定着を図るため、小テストを実施します。その他、読み物に関する背景知識の情報収集、内容理解ワークシート、レポート (感想/意見) などの課題を課します。 授業はおおよそ以下のような要領で実施されますが、読み物の長短により、時間配分を調節します。 第1回：イントロダクション (授業案内と自己紹介) 読み物 (1) 配布、学習の進め方の説明。 第2回：読み物 (1) の読解練習 (内容理解、文法・文型の確認と応用練習、語彙・表現の確認、応用練習、意見・感想の交換) 第3回：小テスト 読み物 (2) 第4回：読み物 (2) 第5回：小テスト 読み物 (3) 第6回：読み物 (3) 第7回：小テスト 読み物 (4) 第8回：読み物 (4) 第9回：小テスト 読み物 (5) 第10回：読み物 (5) 第11回：小テスト 読み物 (6) 第12回：読み物 (6) 第13回：小テスト 復習とまとめ 第14回： a. 試験 b. 正解提示と解説							
3. 履修上の注意 積極的に授業に参加し、発言することも評価の対象とします。 日頃から新聞、ニュースに触れ、社会で起きている様々な出来事に感心を持ち、知識を得ておくことが必要です。 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。							
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 各読み物のワークシートの内容理解質問、語彙、文型、表現の練習問題に答えて授業に臨んでください。 その上で授業で不明な点を質問、確認してください。							
5. 教科書 新聞、雑誌記事、小説、論説文などからのプリント教材を配布します。 読み物に関するテレビ録画教材、聴解教材も使用します。							
6. 参考書 『中級日本語文法要点整理ポイント20』スリーエーネットワーク 友松悦子、和栗雅子著							
7. 成績評価の方法 <table> <tr> <td>小テストと課題の発表、及び提出</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>期末試験</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>平常点 (課題への積極的取り組みとクラス活動への貢献)</td> <td>20%</td> </tr> </table>		小テストと課題の発表、及び提出	40%	期末試験	40%	平常点 (課題への積極的取り組みとクラス活動への貢献)	20%
小テストと課題の発表、及び提出	40%						
期末試験	40%						
平常点 (課題への積極的取り組みとクラス活動への貢献)	20%						
8. その他 出席は2/3以上が必要です。 課題の提出は期限厳守のこと。期限を過ぎた場合は減点があります。 担当教員のメールアドレスは授業時に知らせます。							

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(AG) LAN281J
科目名	日本語ⅡA (精読)
担当者	高橋 純子
1. 授業の概要・到達目標 この授業では、大学での勉学に必要な精密な読解力を養うために、文章を深く正確に読み解く練習を行います。文法力の一層の強化、語彙の拡充に努め、文章の表面的な理解に留まることなく、背景知識を学び、文章構造の特徴、論理的展開の方法などについて理解することが求められます。日本語読解力を高めるとともに、日本文化・社会・歴史などへの知識を広げることを目的とし、新聞・雑誌記事や随筆、小説の抜粋などを読んでいきます。読んだ物に関して、感想、意見を学生同士で交換できる口頭表現力、文章力を養います。読んだものに関して、自分の意見を述べ、教師およびクラスメートと感想、意見を積極的に交換しあうことで、さらに深い理解へと進めていく姿勢が求められます。内容について、批判的読みができるようになることを目指します。読むことを中心に授業を進めますが、「話す（口頭表現能力）」「聞く（聴解力）」「書く（文章表現能力）」の技能も高め、総合的日本語力の向上を目指します。	
2. 授業内容 本授業では、内容的にまとまりのある文章を教材とし、読解（音読も含む）と内容に関するディスカッションを行います。教材毎に文中で使われた語彙、表現、文型などの理解と定着を図るため、小テストを実施します。その他、読み物に関する背景知識の情報収集、内容理解ワークシート、レポート（感想／意見）などの課題を課します。 授業はおおよそ以下のような要領で実施されますが、読み物の長短により、時間配分を調節します。 第1回：イントロダクション（授業案内と自己紹介）読み物（1）配布、学習の進め方の説明。 第2回：読み物（1）の読解練習（内容理解、文法・文型の確認と応用練習、語彙・表現の確認、応用練習、意見・感想の交換） 第3回：小テスト 読み物（2） 第4回：読み物（2） 第5回：小テスト 読み物（3） 第6回：読み物（3） 第7回：小テスト 読み物（4） 第8回：読み物（4） 第9回：小テスト 読み物（5） 第10回：読み物（5） 第11回：小テスト 読み物（6） 第12回：読み物（6） 第13回：小テスト 復習とまとめ 第14回： a. 試験 b. 正解提示と解説	
3. 履修上の注意 積極的に授業に参加し、発言することも評価の対象とします。 日頃から新聞、ニュースに触れ、社会で起きている様々な出来事に感心を持ち、知識を得ておくことが必要です。 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各読み物のワークシートの内容理解質問、語彙、文型、表現の練習問題に答えて授業に臨んでください。 その上で授業で不明な点を質問、確認してください。	
5. 教科書 新聞、雑誌記事、小説、論説文などからのプリント教材を配布します。 読み物に関するテレビ録画教材、聴解教材も使用します。	
6. 参考書 『中級日本語文法要点整理ポイント20』スリーエーネットワーク 友松悦子、和栗雅子著	
7. 成績評価の方法 小テストと課題の発表、及び提出 40% 期末試験 40% 平常点（課題への積極的取り組みとクラス活動への貢献）20%	
8. その他 出席は2/3以上が必要です。 課題の提出は期限厳守のこと。期限を過ぎた場合は減点があります。 担当教員のメールアドレスは授業時に知らせます。	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(AG) LAN281J
科目名	日本語ⅡB (速読)
担当者	糸川 優
1. 授業の概要・到達目標	
<p>多読を目標としているが、批判的な読み、また、資料そのものを評価することをも目的とする。 深く理解し、自らが課題を発見することによって、議論を維持し、あるいは一方的ではなく、内容が噛み合う議論をする力をも養う。 簡潔に発表する日本語力を培う。</p>	
2. 授業内容	
<p>第1回 インTRODakション、自己表現 第2回 ハンドアウトの書式、予習確認テスト、担当者による報告 第3回 予習確認テスト、担当者による報告、ディスカッション 第5回 予習確認テスト、担当者による報告、ディスカッション 第4回 予習確認テスト、担当者による報告、ディスカッション 第6回 予習確認テスト、担当者による報告、ディスカッション 第7回 予習確認テスト、担当者による報告、ディスカッション 第8回 予習確認テスト、担当者による報告、ディスカッション 第9回 予習確認テスト、担当者による報告、ディスカッション 第10回 予習確認テスト、担当者による報告、ディスカッション 第11回 予習確認テスト、担当者による報告、ディスカッション 第12回 予習確認テスト、担当者による報告、ディスカッション 第13回 予習確認テスト、担当者による報告、ディスカッション 第14回 期末試験と振り返り</p> <p>* 内容・進捗は変更の可能性があります。</p>	
3. 履修上の注意	
<p>目的意識をもって自主的に取り組むことを求める。 書いたものにコピーペーストがあった場合、また、自動翻訳を用いた疑いがある場合、単位は与えられない。 課題が多いので、スケジュール表を常に確認のこと。</p> <p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>第1回 自己表現シート作成、1分間スピーチ動画作成（60分） 第2回 ハンドアウト課題（60分）、次回箇所下読み（60分）、報告準備（担当者のみ）（180分） 第3回 次回箇所下読み（60分）、報告準備（担当者のみ）（180分） 第4回 次回箇所下読み（60分）、報告準備（担当者のみ）（180分） 第5回 次回箇所下読み（60分）、報告準備（担当者のみ）（180分） 第6回 次回箇所下読み（60分）、報告準備（担当者のみ）（180分） 第7回 次回箇所下読み（60分）、報告準備（担当者のみ）（180分） 第8回 次回箇所下読み（60分）、報告準備（担当者のみ）（180分） 第9回 次回箇所下読み（60分）、報告準備（担当者のみ）（180分） 第10回 次回箇所下読み（60分）、報告準備（担当者のみ）（180分） 第11回 次回箇所下読み（60分）、報告準備（担当者のみ）（180分） 第12回 次回箇所下読み（60分）、報告準備（担当者のみ）（180分） 第13回 次回箇所下読み（60分）、報告準備（担当者のみ）（180分）</p>	
5. 教科書	
『学校と暴力』今津孝次郎（平凡社）	
6. 参考書	
『殴られて野球は上手くなる!?!』元永知宏（講談社）	
7. 成績評価の方法	
<p>小テスト 10% 担当箇所の報告 40% 議論 25% 期末試験 25%</p>	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(AG) LAN281J
科目名	日本語ⅡB (速読)
担当者	糸川 優
1. 授業の概要・到達目標	
<p>多読を目標としているが、批判的な読み、また、資料そのものを評価することをも目的とする。 深く理解し、自らが課題を発見することによって、議論を維持し、あるいは一方的ではなく、内容が噛み合う議論をする力をも養う。 簡潔に発表する日本語力を培う。</p>	
2. 授業内容	
<p>第1回 イントロダクション（授業の目的、進め方等）、1分間スピーチ 第2回 1分間スピーチ、ハンドアウトの書式、資料について、ディスカッションの意味と方法、担当者による報告、ディスカッション 第3回 1分間スピーチ、ディスカッション 第4回 予習確認テスト、1分間スピーチ、担当者による報告、ディスカッション 第5回 予習確認テスト、1分間スピーチ、担当者による報告、ディスカッション 第6回 予習確認テスト、1分間スピーチ、担当者による報告、ディスカッション 第7回 予習確認テスト、1分間スピーチ、担当者による報告、ディスカッション 第8回 予習確認テスト、1分間スピーチ、担当者による報告、ディスカッション 第9回 ディベートについて、ブレインストーミング 第10回 調査 第11回 グループシート作成 第12回 立論・反論シート作成 第13回 口頭練習 第14回 ディベートと振り返り * 内容・進度は変更の可能性があります。</p>	
3. 履修上の注意	
<p>目的意識をもって自主的に取り組むことを求める。 書いたものにコピーペーストがあった場合、また、自動翻訳を用いた疑いがある場合、単位は与えられない。 課題が多いので、スケジュール表を常に確認のこと。</p> <p>1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらすぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>第2回 準備：下読み、ハンドアウト作成（担当者のみ）課題：ハンドアウト 第3回 準備：下読み、ハンドアウト作成（担当者のみ） 第4回 準備：下読み（60分）、ハンドアウト作成（担当者のみ）（180分） 第5回 準備：下読み（60分）、ハンドアウト作成（担当者のみ）（180分） 第6回 準備：下読み（60分）、ハンドアウト作成（担当者のみ）（180分） 第7回 準備：下読み（60分）、ハンドアウト作成（担当者のみ）（180分） 第8回 準備：下読み（60分）、ハンドアウト作成（担当者のみ）（180分）、ディベート資料下読み（60分） 第9回 論題に関する調査（120分） 第10回 論題に関する調査（120分） 第11回 グループシート作成（120分） 第12回 立論・反論シート作成（60分） 第13回 口頭練習（30分）</p>	
5. 教科書	
『殴られて野球は上手くなる!?!』元永知宏（講談社）	
6. 参考書	
『学校と暴力』今津孝次郎（平凡社） 『体育会系 日本を蝕む病』サンドラ・ヘフェリン（光文社新書） 『強育論』野々村直通（講談社）	
7. 成績評価の方法	
<p>授業への貢献・参加度 10% 小テスト 10% 報告 20% 課題 10% ディベート 25% 期末試験 25%</p>	
8. その他	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(AG) LAN281J
科目名	日本語ⅡB (速読)
担当者	乾 浩
1. 授業の概要・到達目標	
<p>この授業では、文章を素早く読み取る練習と文章構造と論理展開に注目しながら文の内容を理解する訓練を行う。</p> <p>PowerPoint を利用したプレゼンテーションと効果的な説明資料の作成に習熟することを目指し、ディスカッションやディベートを通して、日本語による議論に必要な高度な日本語力を養う。</p>	
2. 授業内容	
<p>日本語の高度な運用力を伸ばす訓練の一つとして、いくつかのテーマについて、自主的に調査し報告する訓練を行う。また、そうした練習の中で、PowerPoint のスライド作成等を行い、要点を押さえた資料の作り方や日本語によるプレゼンテーションに習熟する。さらに、報告されたテーマについてディスカッションやディベートを行い、質問とそれに対する応答、意見述べなどを通して、議論に必要な高度な日本語力を養う。</p> <p>【各回の授業の進め方】※ 予習を前提に授業を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回の授業内容についての小テストを行う。 2. 発表担当者が担当部分の PowerPoint を作成し、口頭発表を行う。 3. 2に対して質疑応答やフィードバックを行う。 4. テキストの本文を確認する。 5. ディスカッションを行う。 <p>【授業進行予定】</p> <p>第01回：イントロダクション：授業の進め方等の説明 第02回：簡単な自己紹介「育った場所・わたしの自慢」 第03回：テーマ(01-1) 口頭発表・読解・ディスカッション 第04回：テーマ(01-2) 口頭発表・読解・ディスカッション 第05回：テーマ(02-1) 口頭発表・読解・ディスカッション 第06回：テーマ(02-2) 口頭発表・読解・ディスカッション 第07回：テーマ(03-1) 口頭発表・読解・ディスカッション 第08回：テーマ(03-2) 口頭発表・読解・ディスカッション 第09回：テーマ(04-1) 口頭発表・読解・ディスカッション 第10回：テーマ(04-2) 口頭発表・読解・ディスカッション 第11回：テーマ(05-1) 口頭発表・読解・ディスカッション 第12回：テーマ(05-2) 口頭発表・読解・ディスカッション 第13回：今まで学んで来たことのまとめ 第14回：a：試験、b：正答解説</p>	
3. 履修上の注意	
<ol style="list-style-type: none"> 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 <p>○ 授業の始めに毎回小テストを行うので遅刻しないこと。 未受験の小テストは「0点」として扱う。</p> <p>○ 授業中、スマートフォン、タブレット、パソコン等は、授業に関係ないことには使用しないこと。 ○ 秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。 ○ 授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>○ テキストの指定されたページを予習し、課題をすること。 ○ 授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。 ○ 発表担当者は、PowerPoint のファイルを授業前に提出して、チェックを受けること。</p>	
5. 教科書	
プリント教材	
6. 参考書	
授業時に随時紹介する。	
7. 成績評価の方法	
<p>平常点：30%、課題：10%、PowerPoint 作成：15%、発表：15%、小テスト：10%、学期末試験：20% をもとにして、総合的に評価する。</p> <p>※やむを得ない理由による場合を除き、欠席・遅刻をした場合は、その回の小テストは0点とする。 ※以下の条件をすべて満たすものを評価の対象とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欠席回数が4回以下であること ・授業での口頭発表を行っていること ・学期末試験を受験していること 	
8. その他	
<p>PowerPoint の操作に不慣れな学生は、必要に応じて、大学の各種講習会を受講すること。 オンライン授業になった場合「zoom」を使うので、パソコンに設置しておくこと。</p>	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(AG) LAN281J
科目名	日本語ⅡB (速読)
担当者	乾 浩
1. 授業の概要・到達目標	
<p>この授業では、前期に引き続き、文章を素早く読み取る練習と文章構造と論理展開に注目しながら文の内容を理解する訓練を行う。</p> <p>PowerPoint を利用したプレゼンテーションと効果的な説明資料の作成に習熟することを目指し、ディスカッションやディベートを通して、日本語による議論に必要な高度な日本語力を養う。</p>	
2. 授業内容	
<p>日本語の高度な運用力を伸ばす訓練の一つとして、いくつかのテーマについて、自主的に調査し報告する訓練を行う。また、そうした練習の中で、PowerPoint のスライド作成等を行い、要点を押さえた資料の作り方や日本語によるプレゼンテーションに習熟する。さらに、報告されたテーマについてディスカッションやディベートを行い、質問とそれに対する応答、意見述べなどを通して、議論に必要な高度な日本語力を養う。</p> <p>【各回の授業の進め方】※ 予習を前提に授業を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回の授業内容についての小テストを行う。 2. 発表担当者が担当部分の PowerPoint を作成し、口頭発表を行う。 3. 2に対して質疑応答やフィードバックを行う。 4. テキストの本文を確認する。 5. ディスカッションを行う。 <p>【授業進行予定】</p> <p>第01回：イントロダクション：授業の進め方等の説明 第02回：簡単な発表「夏休みの思い出」 第03回：テーマ(06-1) 口頭発表・読解・ディスカッション 第04回：テーマ(06-2) 口頭発表・読解・ディスカッション 第05回：テーマ(07-1) 口頭発表・読解・ディスカッション 第06回：テーマ(07-2) 口頭発表・読解・ディスカッション 第07回：テーマ(08-1) 口頭発表・読解・ディスカッション 第08回：テーマ(08-2) 口頭発表・読解・ディスカッション 第09回：テーマ(09-1) 口頭発表・読解・ディスカッション 第10回：テーマ(09-2) 口頭発表・読解・ディスカッション 第11回：テーマ(10-1) 口頭発表・読解・ディスカッション 第12回：テーマ(10-2) 口頭発表・読解・ディスカッション 第13回：今まで学んで来たことのまとめ 第14回：a：試験、b：正答解説</p>	
3. 履修上の注意	
<ol style="list-style-type: none"> 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 <p>○ 授業の始めに毎回小テストを行うので遅刻しないこと。 未受験の小テストは「0点」として扱う。</p> <p>○ 授業中、スマートフォン、タブレット、パソコン等は、授業に関係ないことには使用しないこと。 ○ 秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。 ○ 授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>○ テキストの指定されたページを予習し、課題をすること。 ○ 授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。 ○ 発表担当者は、PowerPoint のファイルを授業前に提出して、チェックを受けること。</p>	
5. 教科書	
プリント教材	
6. 参考書	
授業時に随時紹介する。	
7. 成績評価の方法	
<p>平常点：30%、課題：10%、PowerPoint 作成：15%、発表：15%、小テスト：10%、学期末試験：20% をもとにして、総合的に評価する。</p> <p>※やむを得ない理由による場合を除き、欠席・遅刻をした場合は、その回の小テストは0点とする。 ※以下の条件をすべて満たすものを評価の対象とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欠席回数が4回以下であること ・授業での口頭発表を行っていること ・学期末試験を受験していること 	
8. その他	
<p>PowerPoint の操作に不慣れな学生は、必要に応じて、大学の各種講習会を受講すること。 オンライン授業になった場合「zoom」を使うので、パソコンに設置しておくこと。</p>	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(AG) LAN281J
科目名	日本語ⅡB (速読)
担当者	乾 浩
1. 授業の概要・到達目標 この授業では、文章を素早く読み取る練習と文章構造と論理展開に注目しながら文の内容を理解する訓練を行う。 PowerPoint を利用したプレゼンテーションと効果的な説明資料の作成に習熟することを目指し、ディスカッションやディベートを通して、日本語による議論に必要な高度な日本語力を養う。	
2. 授業内容 日本語の高度な運用力を伸ばす訓練の一つとして、いくつかのテーマについて、自主的に調査し報告する訓練を行う。また、そうした練習の中で、PowerPoint のスライド作成等を行い、要点を押さえた資料の作り方や日本語によるプレゼンテーションに習熟する。さらに、報告されたテーマについてディスカッションやディベートを行い、質問とそれに対する応答、意見述べなどを通して、議論に必要な高度な日本語力を養う。 【各回の授業の進め方】 ※ 予習を前提に授業を進める。 1. 前回の授業内容についての小テストを行う。 2. 発表担当者が担当部分の PowerPoint を作成し、口頭発表を行う。 3. 2に対して質疑応答やフィードバックを行う。 4. テキストの本文を確認する。 5. ディスカッションを行う。 【授業進行予定】 第01回：イントロダクション：授業の進め方等の説明 第02回：簡単な自己紹介「育った場所・わたしの自慢」 第03回：テーマ(01-1) 口頭発表・読解・ディスカッション 第04回：テーマ(01-2) 口頭発表・読解・ディスカッション 第05回：テーマ(02-1) 口頭発表・読解・ディスカッション 第06回：テーマ(02-2) 口頭発表・読解・ディスカッション 第07回：テーマ(03-1) 口頭発表・読解・ディスカッション 第08回：テーマ(03-2) 口頭発表・読解・ディスカッション 第09回：テーマ(04-1) 口頭発表・読解・ディスカッション 第10回：テーマ(04-2) 口頭発表・読解・ディスカッション 第11回：テーマ(05-1) 口頭発表・読解・ディスカッション 第12回：テーマ(05-2) 口頭発表・読解・ディスカッション 第13回：今まで学んで来たことのまとめ 第14回：a：試験、b：正答解説	
3. 履修上の注意 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 <input type="checkbox"/> 授業の始めに毎回小テストを行うので遅刻しないこと。 未受験の小テストは「0点」として扱う。 <input type="checkbox"/> 授業中、スマートフォン、タブレット、パソコン等は、授業に関係ないことには使用しないこと。 <input type="checkbox"/> 秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。 <input type="checkbox"/> 授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 <input type="checkbox"/> テキストの指定されたページを予習し、課題をすること。 <input type="checkbox"/> 授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。 <input type="checkbox"/> 発表担当者は、PowerPoint のファイルを授業前に提出して、チェックを受けること。	
5. 教科書 プリント教材	
6. 参考書 授業時に随時紹介する。	
7. 成績評価の方法 平常点：30%、課題：10%、PowerPoint 作成：15%、発表：15%、小テスト：10%、学期末試験：20% をもとにして、総合的に評価する。 ※やむを得ない理由による場合を除き、欠席・遅刻をした場合は、その回の小テストは0点とする。 ※以下の条件をすべて満たすものを評価の対象とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・欠席回数が4回以下であること ・授業での口頭発表を行っていること ・学期末試験を受験していること 	
8. その他 PowerPoint の操作に不慣れな学生は、必要に応じて、大学の各種講習会を受講すること。 オンライン授業になった場合「zoom」を使うので、パソコンに設置しておくこと。	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	(AG) LAN281J
科目名	日本語ⅡB (速読)
担当者	乾 浩
1. 授業の概要・到達目標	
<p>この授業では、前期に引き続き、文章を素早く読み取る練習と文章構造と論理展開に注目しながら文の内容を理解する訓練を行う。</p> <p>PowerPoint を利用したプレゼンテーションと効果的な説明資料の作成に習熟することを目指し、ディスカッションやディベートを通して、日本語による議論に必要な高度な日本語力を養う。</p>	
2. 授業内容	
<p>日本語の高度な運用力を伸ばす訓練の一つとして、いくつかのテーマについて、自主的に調査し報告する訓練を行う。また、そうした練習の中で、PowerPoint のスライド作成等を行い、要点を押さえた資料の作り方や日本語によるプレゼンテーションに習熟する。さらに、報告されたテーマについてディスカッションやディベートを行い、質問とそれに対する応答、意見述べなどを通して、議論に必要な高度な日本語力を養う。</p> <p>【各回の授業の進め方】※ 予習を前提に授業を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回の授業内容についての小テストを行う。 2. 発表担当者が担当部分の PowerPoint を作成し、口頭発表を行う。 3. 2に対して質疑応答やフィードバックを行う。 4. テキストの本文を確認する。 5. ディスカッションを行う。 <p>【授業進行予定】</p> <p>第01回：イントロダクション：授業の進め方等の説明 第02回：簡単な発表「夏休みの思い出」 第03回：テーマ(06-1) 口頭発表・読解・ディスカッション 第04回：テーマ(06-2) 口頭発表・読解・ディスカッション 第05回：テーマ(07-1) 口頭発表・読解・ディスカッション 第06回：テーマ(07-2) 口頭発表・読解・ディスカッション 第07回：テーマ(08-1) 口頭発表・読解・ディスカッション 第08回：テーマ(08-2) 口頭発表・読解・ディスカッション 第09回：テーマ(09-1) 口頭発表・読解・ディスカッション 第10回：テーマ(09-2) 口頭発表・読解・ディスカッション 第11回：テーマ(10-1) 口頭発表・読解・ディスカッション 第12回：テーマ(10-2) 口頭発表・読解・ディスカッション 第13回：今まで学んで来たことのまとめ 第14回：a：試験、b：正答解説</p>	
3. 履修上の注意	
<ol style="list-style-type: none"> 1) 原則として5回以上欠席した者は不合格とする。 ※特別な理由がある場合には届け出ること。 2) 15分までの「遅延証明書」は考慮の対象としない。 ※電車の遅延は日常的なので、十分な余裕をもって通学すること。 3) 40分以上の遅刻は欠席扱いとする。 4) 遅刻した場合、教室に入ったらずぐに出席することを担当教員に申し出ること。 5) 授業中に無断で退室しないこと。 ※体調不良などで退室する場合には担当教員に申し出ること。 <p>○ 授業の始めに毎回小テストを行うので遅刻しないこと。 未受験の小テストは「0点」として扱う。</p> <p>○ 授業中、スマートフォン、タブレット、パソコン等は、授業に関係ないことには使用しないこと。 ○ 秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。 ○ 授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得る。</p>	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>○ テキストの指定されたページを予習し、課題をすること。 ○ 授業の始めに行われる小テストの準備をしてくること。 ○ 発表担当者は、PowerPoint のファイルを授業前に提出して、チェックを受けること。</p>	
5. 教科書	
プリント教材	
6. 参考書	
授業時に随時紹介する。	
7. 成績評価の方法	
<p>平常点：30%、課題：10%、PowerPoint 作成：15%、発表：15%、小テスト：10%、学期末試験：20% をもとにして、総合的に評価する。</p> <p>※やむを得ない理由による場合を除き、欠席・遅刻をした場合は、その回の小テストは0点とする。 ※以下の条件をすべて満たすものを評価の対象とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欠席回数が4回以下であること ・授業での口頭発表を行っていること ・学期末試験を受験していること 	
8. その他	
<p>PowerPoint の操作に不慣れな学生は、必要に応じて、大学の各種講習会を受講すること。 オンライン授業になった場合「zoom」を使うので、パソコンに設置しておくこと。</p>	

留学生共通日本語

日本語（上級）

日本語教育センター

駿河台 キャンパス	グローバルフロント 2階	〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1	電話：03-3296-4146
和泉 キャンパス	第一校舎 1階	〒168-8555 東京都杉並区永福1-9-1	電話：03-5300-1477
生田 キャンパス	中央校舎 1階	〒214-8571 神奈川県川崎市多摩区東三田1-1-1	電話：044-934-7700
中野 キャンパス	低層棟 3階 ※国際教育事務室ではな く、3階事務室（国際連携 にて窓口事務を行います）	〒164-8525 東京都中野区中野4-21-1	電話：03-5343-8057

留学生共通日本語：「日本語（上級）」について

必修・選択必修の「日本語」とは別に、留学生共通日本語として「日本語（上級）」が和泉キャンパスと駿河台キャンパスで開講されています。

日本語の力をもっと高めたいと考えている留学生は受講してください。

この科目の取扱い窓口は日本語教育センター（国際教育事務室）です。
必修・選択必修の「日本語」とは異なりますので、注意してください。

授業内容は次のとおりです。

◆和泉キャンパス

- 「日本語（上級口頭表現）A・B」
 - ・聴解および発表（プレゼンテーション）
- 「日本語（上級文章表現）A・B」
 - ・文章表現練習（レポート・小論文）

◆駿河台キャンパス

- 「日本語（上級総合）A・B」
 - ・総合的な運用能力を高める

必修・選択必修の「日本語」ではできない様々な活動を行いながら授業が進められます。積極的に授業に参加してください。

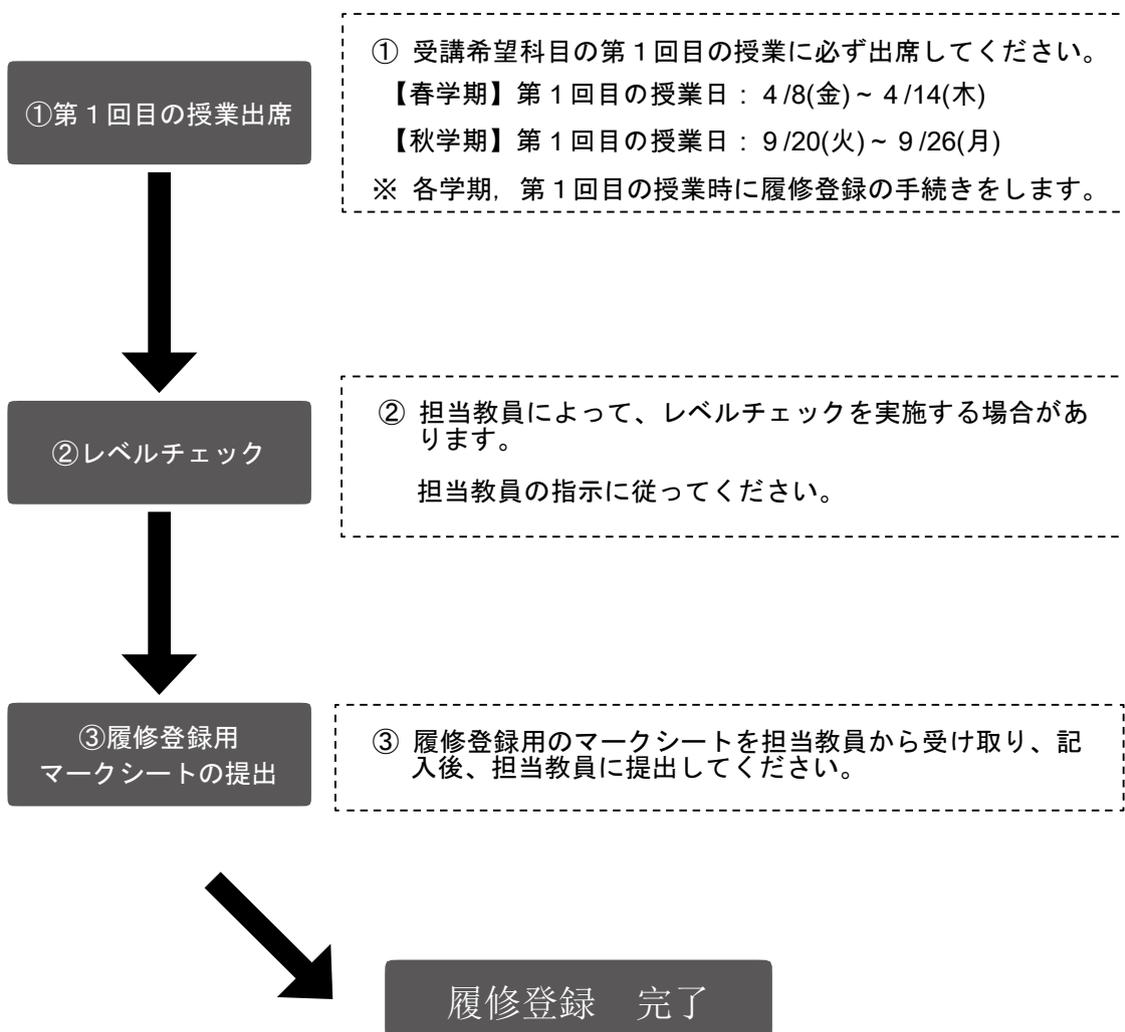
I 履修について

1. 日本語（上級）の履修対象者は、以下の通りです。
 - (1) 私費留学生
 - (2) プレースメントテストを受けて、履修を許可された人
 - (3) 留学生共通日本語の「日本語8」を修了した人

2. 日本語（上級）を履修した場合、単位を修得することができます。修得した単位を卒業要件に含めることができるかどうかは、学部によって異なります。各学部の単位取扱いについては、64ページ以降を確認してください。
ただし、大学院生は単位認定のない受講になります。

3. 入学年度により、履修登録番号が異なります。初回の授業に出席して担当教員に確認してください。

4. 履修登録の流れについて



5. 成績評価基準について

成績評価基準は以下のとおりです。成績は、S・A・B・C・Fで記載されます。

S・A・B・Cを合格とし、Fを不合格とします。

評価	評点	GP(グレードポイント)
S	100～90点	4
A	89～80点	3
B	79～70点	2
C	69～60点	1
F	60点未満(および未受験)	0

※ 学部によっては未受験をFではなく、Tと記載する場合があります。

6. 日本語(上級)の定員は15名です。

7. 履修登録を行った後の履修取消しは、原則としてできません。よく考えてから履修登録をしてください。

8. 一度単位を修得した科目は、再び履修することはできません。

9. 日本語(上級)について不明な点があれば、日本語教育センター(国際教育事務室)に問い合わせてください。

駿河台 キャンパス	グローバルフロント 2階	電話：03-3296-4146
和泉 キャンパス	第一校舎 1階	電話：03-5300-1477
生田 キャンパス	中央校舎 1階	電話：044-934-7700
中野 キャンパス	低層棟 3階 ※ 国際教育事務室ではなく、 3階 事務室(国際連携) にて窓口事務を行います。	電話：03-5343-8057

Ⅱ 時間割、科目名対照表 および単位取扱い表

2022年度 留学生共通日本語「日本語（上級）」時間割

時 限 / モ ジュール	1 時 限				2 時 限				3 時 限			
a	9 : 00 ~ 9 : 50				10 : 50 ~ 11 : 40				13 : 30 ~ 14 : 20			
b	9 : 50 ~ 10 : 40				11 : 40 ~ 12 : 30				14 : 20 ~ 15 : 10			
	科 目	教 室	担 当 者	開 講 区 分	科 目	教 室	担 当 者	開 講 区 分	科 目	教 室	担 当 者	開 講 区 分
月												
火									日本語（上級口頭表現）A	和泉M410	戸村	春
									選択日本語（口頭表現）A			
									日本語（口頭表現）IV A			
									日本語（上級口頭表現）B	和泉M410	戸村	秋
									選択日本語（口頭表現）B			
									日本語（口頭表現）IV B			
水												
木									日本語（上級文章表現）A	和泉M609	黒崎	春
									選択日本語（文章表現）A			
									日本語（文章表現）IV A			
									日本語（上級文章表現）B	和泉M609	黒崎	秋
									選択日本語（文章表現）B			
									日本語（文章表現）IV B			
金									日本語（上級総合）A	駿河台 2122CALL	戸村	春
									選択日本語（総合）A			
									日本語（総合）IV A			
									日本語（上級総合）B	駿河台 2122CALL	戸村	秋
									選択日本語（総合）B			
									日本語（総合）IV B			

科目名対照表（カリキュラム年度別）

2017年度以降入学者用科目名	2013年度～2016年度入学者用科目名
留学生共通日本語 「日本語（上級）」	留学生共通日本語 「選択日本語」
日本語（上級総合）A	選択日本語（総合）A
日本語（上級総合）B	選択日本語（総合）B
日本語（上級口頭表現）A	選択日本語（口頭表現）A
日本語（上級口頭表現）B	選択日本語（口頭表現）B
日本語（上級文章表現）A	選択日本語（文章表現）A
日本語（上級文章表現）B	選択日本語（文章表現）B

注）単位の取扱いは、次ページ以降を参照してください。

留学生共通日本語「日本語（上級）」の単位取扱い表

科目名	開講区分	単位数	学部別取扱										2013年度～2016年度 入学者用科目名	
			法	商	政	文	理	農	営	情コ	国 日			総数
											通常 コース	イングリッシュ トラック		
日本語（上級総合）A	春学期	1	◎	○	◎	○	○	○	◎	◎	○	○	◎	選択日本語（総合）A
日本語（上級総合）B	秋学期	1	◎	○	◎	○	○	○	◎	◎	○	○	◎	選択日本語（総合）B
日本語（上級口頭表現）A	春学期	1	◎	○	◎	○	○	○	◎	◎	○	○	◎	選択日本語（口頭表現）A
日本語（上級口頭表現）B	秋学期	1	◎	○	◎	○	○	○	◎	◎	○	○	◎	選択日本語（口頭表現）B
日本語（上級文章表現）A	春学期	1	◎	○	◎	○	○	○	◎	◎	○	○	◎	選択日本語（文章表現）A
日本語（上級文章表現）B	秋学期	1	◎	○	◎	○	○	○	◎	◎	○	○	◎	選択日本語（文章表現）B

【記号の見方】

- 卒業要件外として単位修得が可能な科目
- ◎ 卒業要件に含めて単位修得が可能な科目（65ページの単位取扱いの説明を参考にしてください）

留学生共通日本語「日本語（上級）」の卒業要件単位への単位認定取扱い

ここでは、留学生共通日本語「日本語（上級）」を学部の卒業単位に含める場合の単位認定取扱いについて説明します。詳細は、所属学部から配付される便覧・シラバスを確認してください。

1. 法学部

単位修得した場合に、上限がありますが、自由選択科目の単位として認定します。

ただし、卒業単位に含める場合は、4年次春学期に所定の手続きを経る必要があります。詳細は「2022年度法学部シラバス」の該当する入学年度のページを確認してください。

2. 商学部

卒業要件外としてのみ、単位修得が可能です。

3. 政治経済学部

留学生共通日本語科目の修得単位は、政治経済学部の外国語科目における卒業に必要な単位数に算入します。詳細は「2022年度政治経済学部シラバス」の該当する入学年度のページを確認してください。

4. 文学部

卒業要件外としてのみ、単位修得が可能です。

5. 理工学部

卒業要件外としてのみ、単位修得が可能です。

6. 農学部

卒業要件外としてのみ、単位修得が可能です。

7. 経営学部

【2016年度以前入学者】

修得した単位は、上限がありますが、自由履修科目として、卒業に必要な単位数に算入されます。詳細は入学年度の「経営学部便覧」を確認してください。

【2017年度以降入学者】

修得した単位は、外国語科目の単位として、卒業に必要な単位数に算入されません。詳細は入学年度の「経営学部便覧」を確認してください。

8. 情報コミュニケーション学部

単位修得した場合に、上限がありますが、学部設置科目外の卒業単位認定科目に含めることを認めます。詳細は「2021年度情報コミュニケーション学部シラバス」の「卒業・進級・卒業見込に必要な単位（該当する入学年度）」のページを確認してください。

9. 国際日本学部

卒業要件外としてのみ、単位修得が可能です。

10. 総合数理学部

修得した単位は、留学生共通日本語科目として、卒業に必要な単位数に算入することができます。詳細は「総合数理学部便覧」を確認してください。

Ⅲ 授 業 内 容

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	JELAN281J
科目名	日本語（上級総合）A
担当者	戸村 佳代
1. 授業の概要・到達目標 読解・プレゼンテーション・口頭報告・ディスカッションなどを通じて、日本人と同等に大学での活動ができる総合的な日本語運用能力を高めることを目的とする。また、日本で社会人としてのスタートを切るために必要なマナーや日本の習慣についての知識を深め、実践できる能力を身につけることを目的とする。	
2. 授業内容 文章の内容を要約する方法を学び、口頭報告・プレゼンテーション・ディスカッションを行う際のマナーや日本語の表現の使い方を学習する。また、学生が主体となって学外活動（日本の文化体験ツアー）の企画を作り、実践する予定である。 ※具体的な資料、ディスカッションのテーマなどは、受講者のレベルや希望に合わせて決定する。 第1回：イントロダクション 第2回：発表テーマの決定 第3回：プレゼンテーション練習：身近なテーマについて話す 第4回：フィードバック 第5回：企画を作る：プレゼンテーションの基礎（1） 第6回：企画を説明する：プレゼンテーションの基礎（2） 第7回：企画を実践する（フィールドワーク） 第8回：フィードバック（自分のプレゼンテーションの録画を見る、他） 第9回：プレゼンテーション準備、ディスカッション（1） 第10回：プレゼンテーション準備、ディスカッション（2） 第11回：発表原稿の用意、プレゼンテーション資料作成 第12回：録画（1） 第13回：フィードバック／録画（2） 第14回：課題提出、まとめ	
3. 履修上の注意 授業に関する連絡、課題に関する指示などは電子メールと Oh-o! Meiji によって行う。文字化け等のトラブルを避けるため、Meiji Mail を日本語に設定した上で利用すること。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 プレゼンテーションのための資料準備は授業中にも行うが、授業中に完了しなかった作業を課題として課す場合がある。	
5. 教科書 特に指定しない （授業毎に作成教材を配布する。）	
6. 参考書 特に指定しない	
7. 成績評価の方法 発表課題（40%）、普段の授業での活動（30%）、最終課題（30%）により、総合的に評価する。 ※4回以上欠席した場合は、原則として評価を出さない。	
8. その他 様々な情報を整理しながら理解すること、手に入れた情報や自分の考えを分かりやすく伝えることは、ゼミばかりでなく、大学や社会での活動を行っていくために必要不可欠な技能である。3～4年生になると、日常的な日本語運用能力は向上してくるが、公的な場での日本語の使い方が得意なままの留学生もいる。単に「おしゃべりできる」とか「日本語が通じる」だけではなく、日本人と同じように、必要なことを状況に合わせて的確に伝えられる日本語力を身につけてほしい。特に、日本での進学や就職を考えている留学生は、是非、フォーマルな場での適切な日本語の使い方を学んでもらいたい。	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	JELAN281J
科目名	日本語（上級口頭表現）A
担当者	戸村 佳代
1. 授業の概要・到達目標 自然な速さ・話し方の日本語を聞き取る練習、聴き取った内容を正確に伝える練習、自分の考えを伝えるプレゼンテーションの練習を行う。また、ディスカッションやディベートを行う中で、大学生活で必要になる様々なコミュニケーションの方法の基礎を身につけ、日本人と同じようにゼミでの活動などに参加できる日本語力を磨くことを目標とする。	
2. 授業内容 日本語によるメールのやりとり、事務室の人や先生などの目上の人との話し方等、具体的な場面を想定しながら状況に応じた日本語の適切な表現を練習する。 ※受講者のレベルや希望に合わせて具体的授業内容を決定する。 第1回：イントロダクション、日本語のメール 第2回：スピーチをする（自己アピール） 第3回：わかりやすく説明する（1） 第4回：わかりやすく説明する（2） 第5回：プレゼンテーションのテーマを考える 第6回：プレゼンテーションに必要な情報を整理する 第7回：プレゼンテーション準備（1）／ディスカッション 第8回：プレゼンテーション準備（2） 第9回：プレゼンテーション（1） 第10回：プレゼンテーション（2） 第11回：ディベート（1） 第12回：ディベート（2） 第13回：フィードバック 第14回：課題提出、まとめ	
3. 履修上の注意 授業についての連絡や課題についての指示は、原則として電子メールと Oh-o! Meiji で行う。文字化け等のトラブルを避けるため、Meiji Mail を日本語に設定した上で利用すること。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業での練習・発表の録画ファイル、音声ファイルを各自で確認し、問題点を整理した上で次の練習に役立てるようにすること。	
5. 教科書 特に指定しない （授業毎に作成教材を配布する。）	
6. 参考書 仁科浩美（2020） 『考えを伝え合うプレゼンテーション』 くろしお出版 ￥1,800	
7. 成績評価の方法 授業中の課題（40%）、普段の授業での活動（30%）、最終課題（30%）により、総合的に評価する。 ※4回以上欠席した場合は、原則として評価を出さない。	
8. その他 電子メールやインターネットは、大学での学習・生活に欠かすことができない。コンピュータの有効な活用方法や大学生としての基本的なマナーを、授業を通して身につけてもらいたい。 1年次での履修を推奨する。	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	JELAN281J
科目名	日本語（上級文章表現）A
担当者	黒崎 典子
1. 授業の概要・到達目標 論文・レポート作成に関する基本練習を行う。テーマの立て方、議論の発展のさせ方など、文章構築のための基礎について学習し、特に論述文の基本的なパターンや適切な日本語表現を習得していくことを目標とする。	
2. 授業内容 論文・レポートの作成方法を学ぶと同時に、自分自身のレポートを書き進め、執筆、推敲を繰り返しながら最終稿を完成させる。 第1回：イントロダクション、論文のテーマについて 第2回：文章のスタイルについて学ぶ（1）：日本語文章執筆の基本 第3回：文章のスタイルについて学ぶ（2）：話しことばと書きことば 第4回：レポート作成の方法（1）：主題（テーマ）の見つけ方 第5回：レポート作成の方法（2）：主題文の作り方、アウトライン・構成の作り方 第6回：レポート作成の方法（3）：構成メモから文章を作成する 第7回：本論の書き方（1）：引用の方法 第8回：本論の書き方（2）：引用の方法（演習） 第9回：序論、結論の書き方、参考文献の書き方 第10回：本論の書き方（3）：図表説明の方法 第11回：本論の書き方（4）：図表説明の方法（演習） 第12回：推敲の方法、執筆論文のピアリーディング 第13回：a: 論文を書き上げることについて 第14回：執筆論文最終稿のチェック、ピアリーディング、総括 受講生と相談の上、順番等変更することがある。	
3. 履修上の注意 課題作文を提出し、添削されたものを見直し、再度書き直しをして完成させていくため、真面目に取り組む姿勢を望む。課題提出にはプリントアウトしたもの他、Oh-o!Meiji、電子メールも利用する。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 添削された作文は、必ず書き直しをして再提出すること。配布プリントは論文を執筆する際に必要な技術が書かれているため、授業で使用了後も復習をして、その技術を確実に自分のものとするを期待する。	
5. 教科書 授業のために作成したプリントを配布する。	
6. 参考書 『大学生と留学生のための論文ワークブック』浜田麻里他（くろしお出版）、『大学生のための文章表現&口頭発表練習帳』銅直信子他（国書刊行会）、『ピアで学ぶ大学生の日本語表現—プロセス重視のレポート作成』大島弥生他（ひつじ書房）、『この一冊できちんと書ける！論文・レポートの基本』石黒圭（日本実業出版社）等	
7. 成績評価の方法 レポート＜第一稿及び最終稿＞（50%）、授業での作文練習（30%）、授業への参加度（20%）により、総合的に評価する。期末試験は行わない。	
8. その他 より良い文章を書くためには振り返ることが大切なため、作文の書き直し、添削後の再提出など、推敲を重ねて完成させるまで真面目に取り組むこと。授業内容の中心は文章表現であるが、口頭表現、文法など、日本語の様々なことごとを取り入れて授業を進める予定である。また、受講生からの日本語に関する質問にはできる限り答えていくので、日本語力向上のために積極的に活用してほしい。	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	JELAN281J
科目名	日本語（上級総合）B
担当者	戸村 佳代
1. 授業の概要・到達目標 プレゼンテーション・口頭報告・ディスカッション・ディベートなどを通じて、日本人と同等に大学での活動ができる総合的な日本語運用能力を高めることを目的とする。また、日本で社会人としてのスタートを切るために必要なマナーや日本の習慣についての知識を深め、実践できる能力を身につけることを目的とする。	
2. 授業内容 受講者の関心や興味にもとづいてテーマを決め、新聞や雑誌の記事、ビデオ等を教材として、口頭報告・ディスカッションを行う。また、最終報告をe-プレゼンテーションの作品としてまとめる。 ※具体的な練習内容やテーマなどは、受講者のレベルや関心・希望に合わせて決定する。 第1回：イントロダクション 第2回：ウォーミングアップ、テーマの決定 第3回：プレゼンテーション（1）：自分の専門・関心について説明する 第4回：フィードバック 第5回：テーマ1：情報整理 第6回：テーマ1：ディスカッション・応用練習 第7回：フィードバック 第8回：テーマ2：情報整理 第9回：テーマ2：ディスカッション・応用練習 第10回：フィードバック、最終プレゼンテーション準備 第11回：発表原稿の執筆、プレゼンテーション資料作成 第12回：録画（1） 第13回：録画（2） 第14回：課題提出、まとめ	
3. 履修上の注意 授業に関する連絡、課題の指示などは電子メール、Oh-o! Meiji によって行う。文字化け等のトラブルを避けるため、Meiji Mail を日本語に設定した上で利用すること。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ○配付資料を Oh-o! Meiji でダウンロードし、語彙・表現および内容について予習すること。 ○授業中の報告・発表を録画した場合は、各自でファイルを持ち帰り反省点を整理すること。	
5. 教科書 特に指定しない （授業毎に作成教材、コピー教材を配布する。）	
6. 参考書 特に指定しない	
7. 成績評価の方法 発表課題（40%）、普段の授業での活動（30%）、最終課題（30%）により、総合的に評価する。 ※4回以上欠席した場合は、評価を出さない。	
8. その他 様々な情報を整理しながら理解すること、手に入れた情報や自分の考えを分かりやすく伝えることは、ゼミばかりでなく、大学や社会での活動を行っていくために必要不可欠な技能である。3～4年生になると、日常的な日本語運用能力は向上してくるが、公的な場での日本語の使い方が得意なままの留学生もいる。単に「おしゃべりできる」とか「日本語が通じる」だけではなく、日本人と同じように、必要なことを状況に合わせて的確に伝えられる日本語力を身につけてほしい。特に、日本での進学や就職を考えている留学生は、是非、フォーマルな場での適切な日本語の使い方を学んでもらいたい。	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	JELAN281J
科目名	日本語（上級口頭表現）B
担当者	戸村 佳代
1. 授業の概要・到達目標 グループで日本人を対象としたインタビューやアンケート調査を行い、フォーマル会話での日本語の使い方を学ぶ。また、調査の報告準備として発表要旨をまとめ、発表資料を作る作業を行い、自分の意見や事実を整理して他の人に説明する「発表」のしかたを学んだ上で、日本語によるプレゼンテーションを行う。 日本人と同じようにゼミの発表ができる日本語の力を身につけることを目標とする。	
2. 授業内容 3～4名のグループに分かれ、プロジェクトワークを行う。 ※受講者のレベルや希望に合わせて具体的授業内容を決定する。 第1回：イントロダクション 第2回：テーマを決める 第3回：テーマについて説明する 第4回：アンケート調査をする（1） 実施計画 第5回：アンケート調査をする（2） アンケート票作成 第6回：アンケート調査をする（3） 調査実施準備 第7回：情報の収集と整理 第8回：インタビューをする（1） 第9回：インタビューをする（2） 第10回：議論の内容を整理する（報告準備） 第11回：プレゼンテーション（1） 第12回：プレゼンテーション（2） 第13回：報告をまとめる 第14回：課題提出、まとめ	
3. 履修上の注意 授業についての連絡や課題についての指示は、原則として電子メールと Oh-o! Meiji で行う。文字化け等のトラブルを避けるため、Meiji Mail を日本語に設定した上で利用すること。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予定通りに作業が進むよう、グループ内のメンバーが連絡を取り合うようにすること。	
5. 教科書 特に指定しない （授業毎に作成教材を配布する。）	
6. 参考書 仁科浩美（2020）『考えを伝え合うプレゼンテーション』くろしお出版 ￥1,800	
7. 成績評価の方法 発表課題（40%）、普段の授業での活動（30%）、最終課題（30%）により、総合的に評価する。 ※4回以上欠席した場合は、原則として評価を出さない。	
8. その他 電子メールやインターネットは、大学での学習・生活に欠かすことができない。コンピュータの有効な活用方法や大学生としての基本的なマナーを、授業を通して身につけてもらいたい。	

2022年度 日本語 シラバス

科目ナンバー	JELAN281J
科目名	日本語（上級文章表現）B
担当者	黒崎 典子
1. 授業の概要・到達目標 論文・レポート作成に関する練習を行う。テーマの立て方、議論の発展のさせ方など、文章構築のための基礎について学習し、特に説得力のある文章を書くための日本語表現方法について演習する。目的に沿った適切な表現、展開方法の習得を目標とする。	
2. 授業内容 論文・レポートの作成方法を学ぶと同時に、自分自身のレポートを書き進め、執筆、推敲を繰り返しながら最終稿を完成させる。 第1回：イントロダクション、論文のテーマについて 第2回：文章のスタイルについて学ぶ（1）：日本語文章執筆の基本 第3回：文章スタイルについて学ぶ（2）：話しことばと書きことば 第4回：レポート作成の方法（1）：主題（テーマ）の見つけ方、主題文の作り方 第5回：レポート作成の方法（2）：構成・アウトラインの作り方 第6回：レポート作成の方法（3）：構成メモから文章を作成する 第7回：本論の書き方（1）：引用の方法 第8回：本論の書き方（2）：データ解釈を使って効果的に論じる方法 第9回：序論、結論の書き方、参考文献の書き方 第10回：本論の書き方（3）：注目のさせ方 第11回：本論の書き方（4）：メタ言語行動表現の書き方 第12回：推敲の方法、執筆論文のピアリーディング 第13回：a: 説得力のある文章とは 第14回：執筆論文最終稿のチェック、ピアリーディング、総括 受講生と相談の上、順番等変更することがある。	
3. 履修上の注意 課題作文を提出し、添削されたものを見直し、再度書き直しをして完成させていくため、真面目に取り組む姿勢を望む。課題提出にはプリントアウトしたもの他、Oh-o!Meiji、電子メールも利用する。 短いものでも構わないため、日本語でのレポート又は論文の執筆経験があることが望ましい。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 添削された作文は、必ず書き直しをして再提出すること。配布プリントは論文を執筆する際に必要な技術が書かれているため、授業で使用了後も復習をして、その技術を確実に自分のものとするを期待する。	
5. 教科書 授業のために作成したプリントを配布する。	
6. 参考書 『大学生と留学生のための論文ワークブック』浜田麻里他（くろしお出版）、『大学生のための文章表現&口頭発表練習帳』銅直信子他（国書刊行会）、『ピアで学ぶ大学生の日本語表現—プロセス重視のレポート作成』大島弥生他（ひつじ書房）、『この一冊できちんと書ける！論文・レポートの基本』石黒圭（日本実業出版社）等	
7. 成績評価の方法 レポート<第一稿及び最終稿>（50%）、授業での作文練習（30%）、授業への参加度（20%）により、総合的に評価する。期末試験は行わない。	
8. その他 より良い文章を書くためには振り返ることが大切なため、作文の書き直し、添削後の再提出など、推敲を重ねて完成させるまで真面目に取り組むこと。授業内容の中心は文章表現であるが、口頭表現、文法など、日本語の様々なことごとを取り入れて授業を進める予定である。また、受講生からの日本語に関する質問にはできる限り答えていくので、日本語力向上のために積極的に活用してほしい。	